

----- SEITEN1

1=1,,モルモン経 ニーフアイ第1章 その統治と教務

1=1,1-A,リーハイとその妻サライア、および長男から始めてレーマン、レミュエル、サーム、ニーフアイと呼ばれたその4人の息子たちの記録。リーハイ、エルサレムの民に向いその罪悪について予言をしたから、民がリーハイの命をとろうとした。よって、主はリーハイにエル

1=1,1-A-1,を立ち去りと警告したもう。リーハイはその祭司をつれて荒野に3日間の旅をする。ニーフアイ、その兄弟たちをつれてユダヤ人の歴史を手に入れるためにエルサレムの地に戻る。一行が出合った艱難の記事。ニーフアイとその兄弟たち、イシメルの娘たちをその妻とす

1=1,1-A-1-1,の妻子をつれて荒野に出発する。荒野で出合った艱難と苦しみ。一行の旅路の進路。一行大海にくる。ニーフアイの兄たち。ニーフアイに向って叛く。ニーフアイの兄たち、ニーフアイに向かって叛く。ニーフアイ、兄たちを言い伏せて従わせ1隻の船をつくる。その土

1=1,1-A-1-1-1,ンテフルと名づける。一行が大海をわたって約束の地に着くことなど、これをみなニーフアイが記すところによる。言いかえると私すなわちニーフアイがこの記録を書いたのである。

1=1,,ニーフアイ第1書 第1章

1=1,\*-\*,リーハイが見た火の柱と予言の書の示現。リーハイ、エルサレムにさしせまっている運命を予言し、メシヤの来りたもうことを前以て語る。ユダヤ人、リーハイを殺そうとする。

1=1,1,私すなわちニーフアイは善い父母から生まれたので、父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。私は一生の中にこれまで多くの艱難に逢ったけれども、生涯主の厚い恵みを受けて、まことに神の恵みと神の奥義とを深く知っているから、私は今一生

1=1,1-1,私は今一生の中にしたことを記録する。

1=1,2,まことに私は父の言葉で1つの記録を書くが、それはユダヤ人の学問とエジプト人の言葉から成っている。

1=1,3,さて私は今書く記録が真実であることを知っていて、これを自分の手で書き、自分の知っていることに従って書くのである。

1=1,4,ユダヤの王ゼデキヤの治世第1年の始めに当り(私の父リーハイは生れてこの方エルサレムに住んでいたが)多くの予言者が現われてエルサレムの民に向い、お前たちは悔い改めなければならない、さもなければ大きな都のエルサレムは亡びてしまうにちがいないと予言

1=1,5,それで私の父リーハイは、出て行って自分の国の民のために一心に主に祈った。

1=1,6,ところが祈っていた時に、1すじの柱が現われて父の前にある言わの上にとった。そして父は多くのことを見たり聞いたりした。父はこの見たり聞いたりしたことのために、たいそう恐れてふるえおのいたのであった。

1=1,7,それから父はエルサレムにある自分の家に帰ってきたが、“みたま”によってまたそれまで見たものによって力が尽きたから床の上にうち臥した。

1=1,8,このように“みたま”によって力が尽きていた時に、父は示現を受けてまことに天の開くのを見たが、また神が御座の上に座したまい、無数の群れにわかれた天使たちがとりかこんで讃め唱うのを見た思いをした。

1=1,9,父はまた天の真中からおりてくる1人を見たが、その人は真昼の太陽よりもまばゆく光輝いているのが見えた。

1=1,10,そしてこのほかにこの人についてくる12人の人たちも見したが、その人たちはみな大空に輝く星よりも光り輝いていた。

1=1,11,この人たちは天からおりてきて地上を有りいていってが、1番始めの人が私の父の前にきて立ち、父に1冊の本を与えてこの本を読めと言った。

1=1,12,そこで私の父はこの本を読むと主の“みたま”に満たされた。

1=1,13,父はこの本を読んで、“ああエルサレムは禍いなるかな。私は汝の憎むべき行いを見たからである”と言った。まったく、父はエルサレムについて多くのことを読んだが、それはすなわちエルサレムは必ず破壊され、その住民が亡ぼされ、そして多くの者が剣で殺されま

1=1,13-1,そして多くの者が剣で殺されたまた多くの者がとりこにされてバビロンへつれて行かれると言うことであつた。

1=1,14,私の父は多くの偉大な驚嘆すべきことを読んだり見たりしてから主に向い“主なる全能の神よ、汝の御業はいかにも偉大で驚嘆すべきことばかりである。汝の御座は高く天にあって、汝の御力と恵と憐みとはあまねく世界の全住民に及んでいる。汝は憐れみ深い方である

1=1,14-1,御許にくる者が亡びるのをゆるしたまわない”と伊井、そのほかこのような言葉をいろいろ述べた。

1=1,15,私の父がこのような言葉で神を讃めたたえたのは、父がこれまでに見たこと、まったく主が父にこれまで

示したもうたことで心まで喜び、嬉しくて胸が一ぱいであったからである。

1ニ-1,16,さて私ニーファイは、私の父が書き記しておいたことをのこらず記録するのではない。それは父は示現と夢で見たたくさんのことをすでに書き記しており、また自分の子供たちに予言をして聞かせたこともすでに書き記しているからであって、私はそのことについて重ね

1ニ-1,16-1,私はそのことについて重ねてのこらず記録をするのではない。

1ニ-1,17,しかし、私は一生の中に自分のしたことを記録するであろう。ごらん、私は自分の手で作った版の上に父の記録を短くまとめたものを書く、そして父の記録を短くまとめてから、次に私自分衣装の記録を書くつもりである。

1ニ-1,18,さて主が私の父リーハイに、エルサレムの破滅について非常に多くの驚嘆すべきことを示したもうたから、ごらん、父はユダヤの民の中に出て行って予言をし、また自分が先に見たり聞いたりしたことについてこれの人々に知らせはじめた。これを私はあなたがたに知っ

1ニ-1,18-1,これを私はあなたがたに知ってもらいたいと思う。

1ニ-1,19,ところが、ユダヤ人について証をしたから父をあざけり笑った。それは、父がユダヤ人の罪悪とその憎むべき行いについて本当の証をし、また父が見たり聞いたりしたことや、さきに授かったあの本の中で読んだことなどが、1人のメシヤが光臨になることとこの世の人

1ニ-1,19-1,贖われることを、はっきりかくすことなく現していると証をしたからである。

1ニ-1,20,しかし、ユダヤ人はこれのことを耳にして父に腹を立て、まことにかれらが追い出して石を投げつけ殺してしまった昔の予言者たちにしたように怒り、しかもまた殺してしまおうとして父の命をつけねらったのである。しかしごらん、私ニーファイは、主の深い憐みは主

1ニ-1,20-1,主の不快憐みは主を信ずる信仰があるから選ばれたすべての者の上に及び、この人たちを強くしてあらゆる悪から救われる力を与えたもうことをあなたたちにこれから示そう。

1ニ-2,,ニーファイ第1書 第2章

1ニ-2,\*-\*、リーハイ、その妻子と共に紅海に近く境する荒れもに出発する。リーハイの年上の息子たち、レーマンとレミュエルがリーハイに向って不平を鳴らす。ニーファイとサームは父の言葉を信ずる。主がニーファイに与えたもうた約束。

1ニ-2,1,ごらん、主はまことに夢の中で私の父に向い、"リーハイよ、汝は汝の行いのためにさいわいなり。汝は忠実なる者にしてわが命じたることをこの民に宣べ伝えし故、見よかれらは汝の命をとらんと謀るなり"と仰せになった。

1ニ-2,2,そして主はまことに夢の中出私の父に妻子をつれて荒野へ出て行けと命じたもうた。

1ニ-2,3,私の父は主の言葉によく聞き従ったから、主が命じたもうた通りにした。

1ニ-2,4,そして父は荒野へ出て言った。父は自分の家と相続した土地と、所有の金銀および貴重品をあとにのこして、ただ妻子と食糧と天幕のほかは何もたずに荒野へ旅立った。

1ニ-2,5,父はまず紅海の海辺に近い国境のそばへきて、それからさらに1そう紅海に近い国境にある荒野の中を進んで行った。父はまことに荒野の中をその妻子をつれて旅をしたのであるが、その妻子とは果たしの母サライアと3人の兄達レーマン、レミュエル、サームとであっ

1ニ-2,6,私の父は3日の間荒野の中を進んでからある谷間に止り、そこを流れる川野ほとりに天幕を張った。

1ニ-2,7,そこで父は石で1つの祭壇を築き、主に捧物を捧げてわれらの神である主に感謝をした。

1ニ-2,8,父はこの川にレーマンと言う成をつけたが、この川は紅海に注ぐ流れであって、その谷は川口に近い国境にあった。

1ニ-2,9,父はこの川の水が紅海の頭に注ぐのを見てレーマンに向い"この川がたえず流れて海に入るように、汝もたえ間なくあらゆる義しさの海に流れこんでくれるように"と言い、

1ニ-2,10,またレミュエルに向って"汝はこの谷のように仮託、びくともせず主の命令を守ってくれるように"と言った。

1ニ-2,11,さて父がこう言ったのはレーマンとレミュエルが強情であったからで、ごらん、この2人は父に向って父は幻に耽る人であるから、今度も自分たちをエルサレムの地からつれ出し、自分たちの相続の土地も所有の金銀も貴重品もみなあとにのこしてきた。これでは自分た

1ニ-2,11-1,これでは自分たちが荒野の中で死んでしまうのである。などと多くのことに不平を鳴らしたからである。また父はこのたびのことも心に浮かんだつまらぬ空想のためにしたのだなどと2人は言った。

1ニ-2,12,このように、1番年かさであるレーマンとレミュエルがその父に向って鳴らしたのであるが、それは自分たちをつくりたもうた神のお計いを知らないから、まったく不平を鳴らしたのであった。

1ニ-2,13,また、この2人は予言者たちが言ったように、あのエルサレムと言う大きな都が破壊されることがあるのもまったく信じなかったから、ちょうど私の父の命をとろうとしたエルサレムのユダヤ人のようであった。

1ニ2,14,しかし私の父はレミュエルの谷で“みたま”に満たされたから、真実、力をもってこの2人に語ったので、2人はついに父の前に身をふるわせ、まことに閉口して一言もよく言い返さず、父の命ずるままに聞き従った。

1ニ2,15,その時私の父は天幕の中に住んでいた。

1ニ2,16,このころ、私ニーファイはまだ大そう若かったが、もう身のたけは高くまた神の奥義をしきりに知りたくと願っていたから心から主に向って祈った。ところがごらん、主は真実まことに私を訪れたまい私の心を和らげたもうたから、私は父がこれまでに語った言葉をみな

1ニ2,16-1,それで私は兄たちのように父に対して逆らわなかったのである。

1ニ2,17,私はサームに向い、主の聖き“みたま”によって主が私に示したもうたことを話し手聞かせたところ、サームは私の言った言葉を信じた。

1ニ2,18,ところがごらん、レーマンとレミュエルは私の言うことを聞こうとしなかったもので、私は2人の心のかたくななのを嘆いて2人のために熱心に主に祈った

1ニ2,19,すると主は私に語って“ニーファイよ、汝は信仰ある故にさいわいなり。そは、汝へりくだりたる心もて熱心にわれをたずね求めたればなり。

1ニ2,20,汝わが命令を守らば、われは汝を榮えさせ、約束の地に導くべし。まことにこは、汝のために備えたる土地にして、まったくいかなる土地もはるかに及ばざるほど優れたる土地なり。

1ニ2,21,もし汝の兄弟たち汝に叛かば、それらの物は主の前より追いはらわるべし。

1ニ2,22,またもし汝わが命令を間も等羽、汝は兄弟たちの支配者にされまた兄弟たちの教師になるべし。

1ニ2,23,見好、汝の兄弟たちわれに向って叛く時には、われはおそろしきのろいをもってこれをのろうべし。また汝の子孫たちわれに叛かざるかぎり汝の兄弟たちに汝の子孫たちを司どる力を与えざるべし。

1ニ2,24,されどもしも、汝の子孫たちわれわれに祖九かば、兄弟たちは汝の子孫たちに主を思い出さしむるため、鞭のごときものとなりてこれを責むるべし”と仰せになった。

1ニ3,,ニーファイ第1書 第3章

1ニ3,\*-\*,リーハイの息子たち、真鍮版を手に入れるために、エルサレムに戻される。レーバン、真鍮版をわたすことをことわる。レーマンとレミュエル1人の天使にとがめられる。

1ニ3,1,私ニーファイは、主と話をしてから私の父の天幕に帰ってきた。

1ニ3,2,すると、父は私に話して次のように言った“ごらん、私は1つの夢を見た。その夢の中で主は汝と汝の兄弟たちがエルサレムに帰るよう私に命じたもうた。

1ニ3,3,これはレーバンがユダヤ人の歴史と、汝の先祖の系図とを持っているからであって、この2つとも真鍮版に刻んである。

1ニ3,4,それで、主は汝と汝の兄弟たちはレーバンの家は行ってその歴史をくれるようにたのみ、それを荒野の中のここまで持ってくるように私に命じたもうた。

1ニ3,5,ところがごらん、汝の兄弟たちは私のたのみがむつかしいことだと言って不平を鳴らすが、これは私が汝の兄弟たちにしてくれと言ったのではなくて、まことに主の命令である。

1ニ3,6,だからわが子よ、汝はエルサレムへ行け。そうすれば汝は不平を言わなかったから主に恵まれて助けを受けるであろう”。

1ニ3,7,そこで私ニーファイは、私の父に“私は主が命じたもうたことを行って行。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下し給わない事を承知しているからである”と言った。

1ニ3,8,父ははこれを聞くと、私が主に祝福されていたことを知って非常によろこんだ。

1ニ3,9,そこで私ニーファイと私の兄弟たちは、エルサレムの地へ行こうと天幕を持って荒野の中を旅行した。

1ニ3,10,やがてエルサレムの地へ着くと、私と私の兄弟たちは互いに相談をしたのであった。

1ニ3,11,私たちは誰がレーバンの家へ入って行くことになるかくじを引いた。ところがそのくじがレーマンに当たったので、レーバンの家へ行き坐についているかれと共に話をし、

1ニ3,12,あの真鍮版に刻んであって私の父の系図がのせてある歴史をもらいたいとレーバンに言った。

1ニ3,13,ところがごらん、レーバンは怒ってレーマンを自分の前からそとへ突き出し、その歴史をくれようとはしなかった。と言うわけでレーバンはレーマンに向って“身よ、汝は盗賊である。われは汝を殺してやる”と言った。

1ニ3,14,しかしレーマンはレーバンのところから逃げ出してきて、私たちにレーバンのしたことを話した。そこで私たちは非常にくやしい思いを起し、私の兄たちは荒野に待っている父のところへまさに帰ろうとした。

1ニ3,15,しかしごらん、私は兄たちに言った“主が生きてまし私が生きているようにたしかに、渡した地は主の命じたもうたことを果すまでは荒野にいる父のところへ帰らない。

1ニ3,16,だから主の命令を忠実に守ろうではないか。だから父がもと住んでいた土地へ行こうではないか。だから父がもと住んでいた土地へ行こうではないか。ごらん、それは父が金銀およびあらゆる宝をあとにのこしてきてい

るからで、父はこれをみな主の命令があったからし

1ニ-3,17,それは父が民の罪悪によってエルサレムが必ず破壊されることを知っていたからである。

1ニ-3,18,ごらん、エルサレムの民は予言者たちの言葉を受け入れなかった。だから、もしも私の父がその土地から逃げよと命ぜられながら、まだ万一そこに住んでいようものなら、父もまたきっと亡びるであろう。そう言うわけで、父がその土地から逃れるのはぜひとも早くせね

1ニ-3,18-1,早くせねばならないことであった。

1ニ-3,19,だからごらん、私たちが自分の先祖の言葉を子孫たちに伝えて教えることができ、また世の始めから今に至るまで神の“みたま”と能力とによって、すべての聖い予言者たちに伝えられ、しかもこれらの人たちによって語られた言葉を子孫にのこすために、私たちがあの

1ニ-3,19-1,私たちがあの歴史を手に入れるのは神のみこころにかなうことである”と

1ニ-3,20,

1ニ-3,21,私は兄たちが神の命令を忠実に守ように、こう言う風の言葉で説きつけたのであった。

1ニ-3,22,そこで私たちは自分らの相続した土地へ行って、自分らの金銀そのほかの貴重品を取り集めた。

1ニ-3,23,そしてこれらの品々を取り集めてから、もう一度レーバンの家にやってきた。

1ニ-3,24,私たちはレーバンの家へ入って行って、自分たちの金銀そのほか皆貴重品を与えるから、真鍮版に刻んだあの歴史を私たちにくれるように頼んだ。

1ニ-3,25,ところがレーバンは私たちの持っている物を見、しかもそれが大したものを見て、これが欲しくてたまらなくなったから私たちをそとへ突き出し、私たちの持っている物を自分のものにしよとし、また私たちを殺そうとしてその召使いたちをよこした。

1ニ-3,26,そこで私たちはレーバンの召使たちの手から逃げ出してきたが、私たちの持っている物はあとに捨ててくるよりほかにしかたがなかったのも、これはレーバンのものになってしまった。

1ニ-3,27,そして私たちは荒野の中へ逃げこんだところ、レーバンの召使たちは私たちに追いつけなかったのも、私たちはとある岩の洞穴に身をかくした。

1ニ-3,28,そそでレーマンは私と私の父に腹を立て、レミュエルもレーマンの言うことを聞いたから一しよに腹を立てた。そう言うわけで、レーマンとレミュエルはその兄弟である私たちに多くの荒い言葉をかけ、その上に棒で私たちをうち叩いた。

1ニ-3,29,2人が私たちを棒でうち叩くおりに、ごらん、1人の主の使いがきて2人の前に立ち“なぜ、汝らは自分の弟を棒でうち叩くのか。汝らは主が弟を選んで汝らの支配者になさったのを知らないのか。これは汝らの罪悪のためである。身よ、汝らはまたエルサレムまで行

1ニ-3,29-1,そうすれば、主はレーバンを汝らの手に引き渡したもう”と2人に仰せになった。

1ニ-3,30,そして、この使いは私たちにこう語り終って立ち去った。

1ニ-3,31,ところが、この使が立ち去ってから、レーマンとレミュエルはまたも不平を鳴らし始め”どうして主がわれわれの手にレーバンを引き渡すことができようか。レーバンは有力な人で50人を指揮することができる、いや50人を殺すことさえもできる。それならば、どうし

1ニ-3,31-1,どうしてわれわれを殺せないわけがあるか”と言った。

1ニ-4,,ニ-ファイ第1書 第4章

1ニ-4,\*-\*,,ニ-ファイ、計略によってかの版を確に手に入れる。レーバン、自分の剣で殺される。ゾーラム、ニ-ファイとその兄弟たちと伴って荒野へ行く。

1ニ-4,1,私は兄たちに話して言った“私たちは、またエルサレムまで引き返そうではないか。そして主の命令を忠実に守ろうではないか。ごらん、それは全世界が向っても主の強さにはかなわないからである。それなら、どうして主がレーバンとその家来の50人よりも強くない

1ニ-4,1-1,強くないことがあろうか。いやレーバンに何万人あっても主の強さにはかなわない。

1ニ-4,2,だから引き返そうではないか。私たちはモーセのようにたくましくなろうではないか。モーセが紅海の水に命令をしたとき、紅海の水はほんとうに右と左に引き分け、私たちの先祖は奴隷の身をのがれて乾いた土を踏んでそこを通りすぎてきた。ところがパロの軍勢は、

1ニ-4,2-1,あとを追ってきて紅海の水に溺れて死んだ。

1ニ-4,3,さてごらん、あなたたちはこれがほんとうであることを知っている。また1人の天使があなたたちに語ったことも知っている。それでいて、あなたたちはどうして疑うことができるか。さあこれから引き返そう。主は私たちの先祖を救いたもうたように私たちも救い、エ

1ニ-4,3-1,エジプト人を亡ぼしたようにレーバンを亡ぼすことができる。

1ニ-4,4,私がこう行ってからもまだ兄たちは怒って不平を言いつづけていたが、それでも私のあとについてきて、私たちはエルサレムの城壁のそとのところまで来た。

1ニ4,5,時はもう夜であったから私は兄たちを城壁のそとのところに忍ばせ、兄たちが身をかくしてから、私ニーファイはただ1人都の中へ忍びこんでレーバンの家の方へ進んで行った。

1ニ4,6,私は何をせねばならぬのか、前以てそれを知らずにただひとすじに“みたま”に導かれて行った。

1ニ4,7,それでもたどり進んでレーバンの家の近くへきたときに、私は1人の人を認めた。見るとその人は葡萄酒に酔って前に倒れておった。

1ニ4,8,私が近づいてこの人を見るとそれはレーバンであった。

1ニ4,9,私はレーバンの剣を見てこれをさやから引きぬいてみると、その柄は純金であって見事な細工がしてあり、やいばは最も貴重な鋼でできていた。

1ニ4,10,その時、私はレーバンを殺すように強く“みたま”に動かされたが、胸の中で“私は今までどんな時にも人の血を流したことはなかった”と言ってしりごみをし、レーバンを殺さなくてもよければよいがと思った。

1ニ4,11,そうすると“みたま”がまた“見よ、主はすでにレーバンを汝の手に渡したもうた”と仰せになった。ほうとうに私もレーバンが私のいのちを取ろうとしたこと、レーバンが主の命令を聞いて従おうとしなかったこと、また私の持ち物を取ってしまったことなどを知って

1ニ4,12,すると“みたま”がまた私に仰せになった“主は汝の手にすでにレーバンを渡したもうたからレーバンを殺せ。

1ニ4,13,見よ、主は正しいみこころを果すためには悪人を殺したもう。1人の亡びるのは、全国の民の信仰がなくなって亡びてしまうよりはよい”と。

1ニ4,14,さて私ニーファイは、この言葉を聞くと主が荒野の中で私に仰せになった“汝の子孫もしわが命令を守らば約束の地にて栄えん”と言う言葉を思い出し、

1ニ4,15,まことにまた、私の子孫がもしもモーセの律法を持っていなかったら、その律法によって主の命令を守ることができないであろうと考えた。

1ニ4,16,そしてまた、私はモーセの律法がああ真鍮版に刻んであることを知っていた。

1ニ4,17,また私が、私が主の命令に従ってあの歴史を手に入れるために、主はレーバンを私の手に渡したもうたことを覚った。

1ニ4,18,それで私は“みたま”の声に従ってレーバンの髪の毛をつかみ、レーバン自信の剣でかれの首をうち落した。

1ニ4,19,レーバンの首をうち落としてから、私はレーバンの衣服をとって1つものこさず自分の身に着け、またその物の具を私の腰のまわりにまとい、

1ニ4,20,そうしてしまうと、私はレーバンの宝庫へ進んで行ったが、すると私は宝庫の鍵を持ったレーバンの召使に会ってしまった。そこで、私はレーバンの声色をつかかって私と一しょに宝庫へ入ってこいと命じた。

1ニ4,21,ところが召使は私の着ている衣服と腰に帯びている剣を見たので、私を自分の主人のレーバンだと思ひこみ、

1ニ4,22,自分の主人レーバンがその夜ユダヤ人の長老たちの所へ行っていたのを知っていたから、その長老たちのことを私に話した。

1ニ4,23,私はレーバンのふりをして話をし、

1ニ4,24,また、私はああ真鍮版に刻んであるものを城壁のそとにいる私の兄弟たちのところへ持って行くのだと言った。

1ニ4,25,そしてその召使に私についてこうと言った。

1ニ4,26,ところが、その召使は私が教会の兄弟たちのことを言っているのだと思い、また私が手にかけてああレーバンだとほんとうに思いこんでいたから私のあとについてきた。

1ニ4,27,そして、召使は城壁のそとにいた私の兄たちのところへ行く道がら、何度も私に向ってユダヤ人の長老たちの噂をした。

1ニ4,28,レーマンは私を見て非常におそれ、またレミュエルもサームも共におそれて私の前から逃げ出した。それは私をレーバンだと思い、レーバンが私を殺してしまつて自分たちの命もまたとりにきたのだと思ったからである。

1ニ4,29,そこで私は逃げるあとから兄たちを呼んだので、兄たちは私の声を聞いて逃げるのをやめた。

1ニ4,30,ところがこんどは、レーバンの召使が私の兄たちを見ておそれてふるい始め、まさに私のところからエルサレムの都へ逃げ帰ろうとした。

1ニ4,31,しかし、私ニーファイは身のたけが高い上に主から強い力を授かっていたので、レーバンの召使をつかまえて逃げないようにおさえつけ、

1ニ4,32,私の言うことを聞くか、もし私の言うことを聞けば、主の生きたまい私が生きているようにたしかに、汝の命は助けてやろうと言った。

1ニ-4,33,また、汝はおそれるに及ばない、もし私たちと荒野へ行くならば私たちと同様に自由の身にしてやると誓った。

1ニ-4,34,そしてまた“主がこのことをせよとたしかに言いたもうたから、私たちは主の命令を忠実に守るべきではないか。もしも汝が荒野の中へ行き私の父のところへ行くならば、私たちと一しょに住まわせてやる”と召使に言った。

1ニ-4,35,この召使の為はゾーラムと言ったが私の言葉を聞いてまことに勇み立ち、荒野の中へ行って私の父のところへ行くこと約束をし、その場から私たちと一しょに住むと誓った。

1ニ-4,36,さて私たちは、ユダヤ人が私たちのあとを追いかけてきて殺すといけなから、荒野へ逃げたことをさとられないように、ゾーラムが私たちと一しょに住むことを願ったが。

1ニ-4,37,今やゾーラムが私たちに誓ったので、ゾーラムについての心配はなくなった。

1ニ-4,38,そこで私たちはあの真鍮版を持ち、レーバンの召使をつれて荒野へ出発し、旅をつづけて私たちの父の天幕に帰ってきた。

1ニ-5,,ニーファイ第1書 第5章

1ニ-5,\*-\*、サラリア、リーハイに向って苦情を言う。両親共に息子たちの帰りを見て喜ぶ。真鍮版の内容。リーハイはヨセフの子孫。レーバンもまた同じ系統。リーハイの予言。

1ニ-5,1,私たちが荒野へきて父のところに着いてからは、ごらん、父は喜びが胸一ぱいに溢れ、また母のサラリアもほんとうに私たちのことで悲しんでいたから非常に喜んだ。

1ニ-5,2,それは、母が私たちが荒野の中で死んでしまったと思って父に向い、父は幻に耽る人だと言い“ごらん、あなたは私たちが先祖から受け嗣いだ土地からつれ出してきたので息子たちは死んでしまった。私たちが荒野で死んでしまう”などと苦情を言っていたからである。

1ニ-5,3,母はこんな風な言葉で父に向って苦情を言った。

1ニ-5,4,ところが父は母に向って“私は幻を見る者であることをよく承知している。、もしも私が示現の中で神の為したもうことを見なかったなら、私は神の恵みを知らずにエルサレムに踏み留り、私の兄弟たちと一しょに亡びてしまったであろう。

1ニ-5,5,しかしながらごらん、私は約束の地をいただいているからまことに喜ばしく思い、また主が私の息子たちレーバンの手から救い出し、荒野の中にいる私たちの手もとへまた連れ戻して下さることを承知している”と言った。

1ニ-5,6,こう言う風な言葉で父のレーハイは、私たちのことについて母のサラリアを慰めたのであったが、それは私たちがユダヤ人の歴史を手に入れるために、エルサレムの地へ向って荒野の中を旅行していた間のことであった。

1ニ-5,7,だから、私たちが父の天幕へ帰ってくると、父母は喜びが胸一ぱいに溢れ、母はその心を慰められて、

1ニ-5,8,“私は今、主が私の夫に荒野へ逃げよと命じたもうたことをたしかに覚った。また私は、主が私の息子たちを守りたもうレーバンの手から救い出し、息子たちに命じたもうたことを為しとげる能力をさえ、与えたもうたのをたしかに覚った”とこう言う風な言葉で言った

1ニ-5,9,そして父母は非常に喜んでいけにえと燔祭とを主に捧げてイスラエルの神に感謝をした。

1ニ-5,10,そしてイスラエルの神に感謝を捧げてから、私の父レーハイはあの真鍮版に刻んだ歴史を手にとってこれを最初からしらべてみた。

1ニ-5,11,父がこれを見ると、その中には世界の創造と、人間最初の先祖であるアダムとイヴの記事をのせたモーセの5書もあれば、

1ニ-5,12,また、世の始めからユダヤの王ゼデキヤの代の始めに至るユダヤ人の歴史を見え、

1ニ-5,13,また世の始めから、ゼデキヤの代の始めに至るまでの聖い予言者たちの予言や、そのほかエレミヤの宣べる述べた多くの予言ものせてあった。

1ニ-5,14,私の父リーハイは、またこの真鍮版にその先祖の系図がのせてあることを見つけたから、それによって自分がヨセフの子孫であることを知った。このヨセフとはすなわちヤコブの子のヨセフであって、エジプトへ売られ、その父ヤコブとその全家が飢饉に逢って飢死をせ

1ニ-5,14-1,飢死にをせぬように守るために、主の御手によって保護されたあのヨセフである。

1ニ-5,15,そして、ヤコブの子孫を保護したもうたと同じ神は、またヤコブの子孫を奴隷の身から救い出し、これをエジプトの地から出したもうた。

1ニ-5,16,このように私の父リーハイはその先祖の系図を見つけたが、レーバンもまたヨセフの子孫であったから、レーバンとその先祖はこの歴史を書いて置いたのである。

1ニ-5,17,さて私の父はこれらのことを皆見ると“みたま”に満たされてその子孫について予言をし始めた。それは、

1ニ-5,18,この真鍮版は父の子孫にゆかりのあるあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々に

伝わる。

1ニ5,19,そう言うわけで、この真鍮版はけっしてさび腐ってしまわず。またこれから先いかに年月がたっても、少しもかすれて見えなくなることはないと言い、なお父の子孫について多くのことを予言したのである。

1ニ5,20,これまで私と父とは主が下したもうた命令を守っていて、

1ニ5,21,主が手に入れよと仰せになった歴史をすでに手に入れ、これを調べてみてまことに望ましいものであることがわかった。また実際これによって私たちの子孫に主の命令をのこすことができるから、私たちにとって大そう価値のあるものであることがわかった。

1ニ5,22,こう言うわけで、私たちが約束の地を指して荒野の中を旅行しながら、この真鍮版を持って行くのは主のみこころにかなうことであつた。

1ニ6,,ニーフアイ第1書 第6章

1ニ6,\*-\* ,ニーフアイの意志。ニーフアイ、神を喜ばすことを記す。

1ニ6,1,さて私ニーフアイは、私が書いている記録のこの所に私の先祖の系図を記さない。またそれは、私が今刻んで書いているこの版の上に今後も記さないであろう。それは私の父が書いた記録の中のものにのっていることだから、私の記録の中にはそれをのせないのである。

1ニ6,2,私は私たちがヨセフの子孫であると言えばそれで充分である。

1ニ6,3,私は神について書くための余白がほしいから、私の父について特にすべてのことをくわしくこの版に記すことはできない。それはそうするに及ばないことだ。

1ニ6,4,私が一心に志すところは、すべての人がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のところへきて救われることを、かれらに説いて信じさせることである。

1ニ6,5,それであるから、私は俗世間に喜ばれることを書かないで、神と俗世間の仲間でない者を喜ばせることを書く、

1ニ6,6,であるから、私は私の子孫に人間にとってねうちのないことでこの版をふさいではならぬと命じよう。

1ニ7,,ニーフアイ第1書 第7章

1ニ7,\*-\* ,リーハイの息子たち、再びエルサレムへ送り返される。イシメルとその一家、レーハイの一隊に加わることを承諾する。不和、縄でしばられたニーフアイ、信仰の力で自由となる。謀叛した兄弟たち悔い改める。

1ニ7,1,さて、ここに私があなたたちに知らせたいと思うことがある。私の父リーハイがその子孫について予言をしてしまった後、主は再び父に向って、父が妻と息子たちだけをつれて荒野へ行くのは、父リーハイにとってよろしくないから、その息子たちが約束の地へ行って主

1ニ7,1-1,その息子たちが約束の地へ行って主のために子供をもうけるため、かれらに妻を迎えるようにと仰せになった。

1ニ7,2,そしてまた主は父に、私ニーフアイと兄弟たちがまたエルサレムの地へ戻ってイシメルとその家族を荒野へつれてくるように命じたもうた。

1ニ7,3,それで私ニーフアイは、また兄弟たちと一しょにエルサレムへ行くために荒野へ出て行った。

1ニ7,4,やがて私たちはイスマエルの家へ行ったが、イシメルの気に入られたので私たちはそこで主の言葉をイシメルに話した。

1ニ7,5,この時主はまことにイシメルとその家族の心を和らげたもうたので、かれらは私たちと一しょに荒野へ旅をして私たちの父の天幕へやってきた。

1ニ7,6,ところが荒野を旅する途中で、ごらん、レーマンとレミュエルとイシメルの2人の娘と2人の息子およびこの2人の家族とは、私ニーフアイとサムとまたイシメルとその妻と、イシメルのほかの3人の娘たちに叛いた。

1ニ7,7,かれらはこうして私に背いてエルサレムの地へ帰りたがった。

1ニ7,8,私ニーフアイはかれらの心がかたくななのを悲しんで、まことにレーマンとレミュエルに向い“あなたたちは私の兄さんではないか。それなのに弟の私があなたたちをいさめて模範を示す必要があるほど、性質がかたくなで知恵がくらいのはどうしたわけか。

1ニ7,9,どうして主の言葉に聞き従わないか。

1ニ7,10,どうして主の使を見たことを忘れたか。

1ニ7,11,主が私たちをレーバンの手から救い出すに当たってなしたもうた大きな御業と、またあの歴史を私たちの手に入れさせて下さったことをどうして忘れたか。

1ニ7,12,人がもし主を信ずる信仰を表したならば、主は人のためにみこころに何でもできることを忘れたのはどうしたことか。そう言うわけであるから、私たちは主に忠誠を尽くそうではないか。

1ニ7,13,もし私たちが主に忠誠を尽くすならば、私たちは約束の地を手に入れるであろう。またあなたたちは、この後いつかエルサレムの破壊について主の宣うた言葉が必ず成就するのを汁であろう。主がエルサレムの破壊について宣うたすべてのことは、成就するにちがいない

1ニ-7,14,ごらん、エルサレムの民は予言者を受け入れずエレミヤを牢屋に入れ、また私の父の命を取ろうとして父をその土地から追い出したので主の“みたま”はじきにかれらを励ますことを止めたもう。

1ニ-7,15,さあ、兄さんたちによく行っておく。もしも兄さんたちがエルサレムへ帰って行くなら、あなたたちもエルサレムの民と一しょに亡びてしまうのだ。されもしも望であるなら、エルサレムへ行け、しかし、そこへ行くならあなたたちもまた亡びてしまうと言う私の言葉を

1ニ-7,15-1,これはこのように主の“みたま”がぜひ私に言えと仰せになるから言うのである”と言った。

1ニ-7,16,ところが私ニーファイが兄たちにこう言うと、兄たちは私に腹を立てて、ごらん、兄たちは非常に起り私をつかまえて縄でしばった。それは私を荒野の中ですてておき猛獣に食わせて私の命を取ろうとするためであった。

1ニ-7,17,しかし私は主に祈って言った”主よ願わくは、私が汝を信ずる信仰により、私を私の兄たちの手から救い出したまえ、まことに私がしばられているこの縄を断ち切る能力を与えたまえ、

1ニ-7,18,私がかように言い終わると、ごらん、縄が私の手足から解けた。そこで私は兄たちの前に立ってまたいさめた。

1ニ-7,19,そうすると、兄たちはまた腹を立てて私をつかまえようとした。ところがごらん、イシメルの娘の1人とその母と、イシメルの息子の1人とが私の兄たちにとりなしてくれたから、兄たちはその心を和げて私の命をぜひとも取ろうとするのを止めた。

1ニ-7,20,そして、兄たちは自分たちのした罪悪を後悔したから、私の前にひざまずいて私に向ってしたことを許してくれと乞いねがった。

1ニ-7,21,私は兄たちのしたことを真心から許して、まことにかれら主なるかれらの神に許したまえ、と祈るようにすすめた。そこで兄たちはその通りにして祈った。そこで兄たちはその通りにして祈った。そして兄たちが主に祈り終ると、私たちはまた父の天幕を指して旅をつず

1ニ-7,21-1,旅をつずけて行った。

1ニ-7,22,ついに私たちは父の天幕にやってきた。そして、私と私の兄たちとイシメルの全家とが父の天幕へ着いてから、皆はまことに主なるかれらの神に感謝をし、またいけにえと燔祭とを捧げたのであった。

1ニ-8,,ニーファイ第1書 第8章

1ニ-8,\*-\*,リーハイ、夢に木と川と鉄の棒とを見る。レーマンとレミュエルとは木の実を食べない。

1ニ-8,1,私は、すべにあらゆる種類の穀物の種子も木の実の種子もとりに集めておいた。

1ニ-8,2,私の父はまだ荒野に住んでいた中に私たちに向って次のように言った”ごらん、私は1つの夢を見た。別の言葉で言えば示現を受けた。

1ニ-8,3,私はその夢で見たことのために、ニーファイとサームとその子孫の多くが救われると思うから、ニーファイとサームのために主に讃美し心に喜ばずにはおれない。

1ニ-8,4,しかしながら、レーマンとレミュエルよ、私は非常にお前たちのことを心配する。それは思うに、自分は夢の中で暗い物すごい荒野を見、

1ニ-8,5,白い衣を着ている1人の男の人を見たが、その人はやってきて私の前に立ち、

1ニ-8,6,私に言葉をかけてあとについてこいと言った。

1ニ-8,7,私はその人のあとについて行きながら自分が暗くて物すごい荒野にいることがわかった。

1ニ-8,8,そして暗やみの中を長い間旅をしたから、私は主にその憐みに富みたもうみころのままに私を憐みたまえと祈り始めた。

1ニ-8,9,主に祈り終ると、私は大きな広い畑を見、

1ニ-8,10,そして1本の木を見たが、それになっている実は人を幸福にするに足るものであった。

1ニ-8,11,そこで私は行ってその実を食べたが、それは今までに食べたどんな実よりもずっと甘く、またその実の色は白さは今までに見たこともないほど白かった。

1ニ-8,12,そして私がその木の実を食べた時、私の心はそれで非常に大きな喜びに満たされたから、私は妻子にもまた食べさせてやりたいと思い始めた。それは、これがどんな木の実よりもすぐれて好ましいことが解ったからである。

1ニ-8,13,それで私が、おそらくは自分の妻子もまたどこかに居はしないかとあたりを見まわすと、一筋の川があって私が実を食べている木のほとりを流れて行くのが見えた。

1ニ-8,14,この川はどこから来るかとながめると、少しへだたったところに川の源があって、その源のところにお前たちの母のサラリアとサームとニーファイがいるのが見えたが、かれらはどちらへ行ったらよいか迷っているかのように立っていた。

1ニ-8,15,そこで私は手招きをして、私のいる所へきてこの木の実を食べよ、それはどんな木の実よりも大きな声で呼んだ。

1ニ-8,16,そうしたら、かれらもまた私の所へやってきてその木の実を食べた。

1ニ-8,17,私はレーマンとレミュエルにも、またここへきてその木の実を食べさせたいと思ったので、おそらくは2人の姿が見えはせぬかと川の源の方へ目を向けた。

1ニ-8,18,すると、ちょうど2人の姿が見えたが、この2人は私の所へきてその木の実を食べようとはしなかった。

1ニ-8,19,それからまた、私は1本の鉄の棒を見たが、それは川の岸に沿ってずっと延び、私の立っているそばの木の所まできていた。

1ニ-8,20,私はまた、この鉄の棒に沿って通じている1本のまっすぐな狭い道を見たが、その道もまた私の立っているそばの木の所まできてさらに川の源まで行き、それからあたかも1つの世界かと思われるほど大きな広い野原へ通じていた。

1ニ-8,21,私の目にはここに数知れぬほど群がっている人々が見え、その中の多くは私が立っているそばの木の通じている道にとりつこうとして押し進んでいた。

1ニ-8,22,そしてこの者たちは、たどり進んで木のところへくる道へさしかかった。

1ニ-8,23,ところが暗黒の霧が起った。まことに非常に深い暗黒の霧が起ったから、道にさしかかった者たちもそのために道に迷い、よこ道に踏み迷って姿が見えなくなってしまった。

1ニ-8,24,私はまた押し進んでくるほかの人たちを見たが、この人たちは進み進んであの鉄の棒の端にとりつき、鉄の棒にしっかりついて暗黒の霧の中を通過して一生けんめいに押し進み、ついにやってきてあの木の実をとって食べた。

1ニ-8,25,そして木の実をとって食べてから、心に恥じたもののようにあちこちを見まわした。

1ニ-8,26,それで私もまたあたりを見まわすと、川も流れの向う側に1つの大きな広々とした建物が見え、それは高く地を抜いてちょうど空中に立っているようであった。

1ニ-8,27,そのなかには年よりや若者た男や女の人々が1ばい居たが、この人たちの着物の装いは非常に美しくみごとであって、あの木のところまでやってきてその実を食べていた指さしてあざける風の態度であった。

1ニ-8,28,そこでその実を食べた者は、食べてからあの人たちにあざけり笑われたので心に恥ずかしく思い、禁制の道に踏み迷って姿を消してしまった。”と父は言った。

1ニ-8,29,さて私ニ-ファイはここに父の言葉をみな話さないが、

1ニ-8,30,これをちぢめて短く書くと、父はこのほかに大勢の人が押し進んでくるのを見たが、この人たちは進んできてあの鉄の棒の端にとりつき、たえずしっかりと鉄の棒にすがりながら先へ先へと押し進み、とうとうやってきて木の下に伏し、そして木の実を食べたのであった

1ニ-8,31,父はまた大きな広々とした建物の方へも道をさぐり進む大勢の人々を見た。

1ニ-8,32,そして多くの者が川の深みに溺れて死に、また多くの者が父の目から姿を消してちがった道にさまよって行った。

1ニ-8,33,しかし、あの普通でない建物の中に入った者は非常に数多く、これらの人たちはその中に入ってから、私や木の実を食べていた人々を指さして侮りさげすんだが、私たちはこれらのことを心にかけなかった。

1ニ-8,34,父はまたこう言った”それはこれらの人を心にかけた者は皆道にはずれたからである”と。

1ニ-8,35,父はさらに”レーマンとレミュエルとはあの木の実を食べなかった”と言った。

1ニ-8,36,父の見た夢、すなわち示現の物語はたくさんあったが、父はこれについてことごとく語り終ってから私たちに向い、父はこの示現の中で見たことからレーマンとレミュエルの身の上が非常に心配である、まことにこの二人が主の御前から追い出されはせぬかとおそれてい

1ニ-8,37,父はそれから優しい親の情愛をこめてこの2人をさとし、主が2人を憐れんで捨てたまわぬように、父の言葉に聞き従えと説き聞かせたのであった。

1ニ-8,38,父はこの2人に教えを説きまた多くのことを予言してから、主の命令を守れとさとして、2人に語るのを止めた。

1ニ-9,,ニ-ファイ第1書 第9章

1ニ-9,\*-\*,ニ-ファイの版について、2組の版であって、1組は教務について記し、他の組は支配者や戦争などのことを記す。

1ニ-9,1,すべてこれらのことや、そのほかこの版の上に書き記せない多くのことを、私の父はレミュエルの谷に天幕を張って住んでいた時に見たり聞いたりまた話したりした。

1ニ-9,2,さて、私が前にこの版について話をしたように、これは私の民の歴史を完全に書き記す版ではない。私の民について完全な記録をつける版にはニ-ファイと言う名をつけておいた。それで、私の名をとってニ-ファイの版と言うが本版もまたニ-ファイの版と名づける。

1ニ-9,3,しかもなお、私は私の民の教務について記事を彫り書く特別な目的でこの版をつくれと言う主の命令を受けている。

1ニ-9,4,またほかの版には諸々の王の治世と、わが民の戦争、不和の記事を彫り書けと命じたもうたから、この版

は大体教務について記し、ほかの版は大体諸々の王の治世とわが民の戦争、不和について記すつもりである。  
1ニ-9,5,それであるから、主はある賢いみこころがあって私にこの版をつくれと命じたもうたが、そのみこころがなにであるかは私に解らない。

1ニ-9,6,しかし、主は始めから一切のことを知って居たもうから、そのすべての御業を世の人の中に成就するためにある方法を備えて置きたもう。ごらん、主はその一切の言葉を成就させるに必要なすべての力をもちたもう。まことにその通りである。アーメン。

1ニ-10,,ニ-ファイ第1書 第10章

1ニ-10,\*-\*、リーハイ、バビロンのとらわれ、神の子羊の来りたもうことを予言する。イスラエルの全家を“かんらん”の木にたとえる。イスラエル人の散乱することと、その後集合することを予め表す。

1ニ-10,1,さて私ニ-ファイは、私の行いと私の統治と私の教務とについて、この版に書き始める。それで私の記事を書き始めるには、多少私の父と兄弟たちのことを述べる必要がある。

1ニ-10,2,ごらん、私の父はその夢の話を語り聞かせ、レーマンとレミュエルにあらん限り勉めはげめとすすめてから、ユダヤ人にかかわることを2人に話して聞かせた。

1ニ-10,3,すなわちユダヤ人が亡び、またあの大きな都のエルサレムまでも亡びて、多くの住民がバビロンへ捕虜になってつれて行かれてから、主の定めたもうた時節になるとこれらの人々はまた帰ってくる。すなわちとらわれの身から救われて故郷へ帰るから、その後再び受け嗣

1ニ-10,3-1,その後再び受け嗣ぎの地を所有する。

1ニ-10,4,そして、まことに、私の父がエルサレムを去った時から600年の後、主なる神はユダヤ人の中に1人の予言者すなわち1人のメシヤ、言葉をかえて言えば、1人の世の救い主であるメシヤを起したもう、と言った。

1ニ-10,5,父はまた予言者たちのことも話して、非常に多くの予言者が父の話したこのメシヤ、すなわちこの“世の贖い主”についてすでにこれらのことを証しているとも言った。

1ニ-10,6,またそれゆえに、すべての人類は神の御前から追い出され墮落している有様であるから、もしもこの贖い主にたよらなければいつまでもこの有様にあるであろうと言ひ、

1ニ-10,7,また主の道を備えるためにメシヤに先立ってくる1人の予言者があることを話し、

1ニ-10,8,まことにその予言者は荒野へ行って“主の道を用意してその道筋を真直ぐにせよ。汝らの知らない者が今汝らの中に立っている。それはわれよりも偉い者でわれはその者の靴の紐を解くねうちもない”と叫ぶであろうと言ひ、このことについてもなお多くの話をして聞

1ニ-10,9,すなわち、この予言者はヨルダンあなたのベタバラでバプテスマを施す、またバプテスマは水で施し、まことにメシヤに水でバプテスマを施す。

1ニ-10,10,そしてメシヤに水でバプテスマを施してから、かれは世の人の罪を贖いきよめたもう神の子羊にバプテスマを施したことを見てその証をすと言った。

1ニ-10,11,そして父はこれらの言葉を語ってから、またユダヤ人の間に宣べ伝えられる福音について、またユダヤ人が無信仰に陥ることについて私の兄たちに話をし、将来来りたもうメシヤをユダヤ人が殺すが、メシヤは殺されたもうてから死者の中からよみがえり、聖霊によって

1ニ-10,11-1,聖霊によって異邦人に現れたもうと言った。

1ニ-10,12,まことに父の異邦人とイスラエルの家について多くの家について多くの話をしたが、それはイスラエルの家はその枝が折れて全地の上に散る1本の“かんらん”の木にたとえられる。

1ニ-10,13,それであるから、全地の上に散ると言う主の言葉がほんとうになるために、私たちは一しょになって約束の地へ導かれて行くにちがいない。

1ニ-10,14,そして、イスラエルの家は散ってからまた集まり合うであろう。つまり異邦人が完全な福音を受け入れてから“かんらん”の木の元の自然の枝であるイスラエルの家の残る者たちがまた親木に接されるであろう。すなわちかれらの贖い主であってかれらの主であるほんとう

1ニ-10,14-1,主であるほんとうのメシヤを認めるようになると言った。

1ニ-10,15,父が私の兄たちに予言をして言った言葉はこんな工合であった。そしてまた、もっと多くの話をしたけれども、そのことを私はこの書物の中に書かない。それは私のほかの書物に充分適当なだけそれを書いておいたからである。

1ニ-10,16,さて、私が今までに話したことはみな私の父がレミュエルの谷に天幕を張って住んでいた時に起ったことである。

1ニ-10,17,私ニ-ファイは、1つには父が示現の中で見たことについて、2つには父が来るべきメシヤである神の御子を信ずる信仰によって受けた聖霊の力で話したことについて父の語るすべての言葉を聞いたから、私ニ-ファイもまた聖霊の力によってこのようなことを見たり聞

1ニ-10,17-1,父の語るすべての言葉を聞いたから、私ニ-ファイもまた聖霊の力によってこのようなことを見たり

聞いたりまた知りたいと思った。聖霊の力とは昔の時代でもまたメシヤが世の人に現れたもう時でも、およそ神を熱心に求める者たちに神が与えたもう賜である。

1ニ-10,18,神は昨日も今日もいつまでも同じにまします。すべての人が悔い改めて神にくるならば、世の始めからこれらの人に道が用意してある。

1ニ-10,19,すべて熱心に求める者はその求めるものを得、神の奥義は聖霊の力によって、昔の時代のように今の時代のように同じくこれらの者に開かれるそれであるから、主の履みたもう道はとこしえにかわることはない。

1ニ-10,20,だから世の人々よ、汝らはみな自分のしたことに対して裁きを受けるようになることを記憶せよ。

1ニ-10,21,それで、もしも汝らが自分らの試しの生涯で悪いことをしようとするならば、神が裁きをなさる座で自分たちが汚れていること解るであろう。汚れているものは神と一しょに住むことができぬから、汝らは永久に捨てられなくてはならない。

1ニ-10,22,聖霊は私にこれらのことを言う権能を下さり、これらのことを否定してはならぬと言いたもう。

1ニ-11,,ニ-ファイ第1書 第11章

1ニ-11,\*-\*、ニ-ファイと主の"みたま"レーハイの見た予言の夢の解き明かし、ニ-ファイの見た処女と神の御子の示現。キリストが福音を伝えたもうことを予め表す。

1ニ-11,1,私は父の見たことを知りたいと思い、主は私にもまたそれを知らせたもうことができると信じて思いに耽りながら腰をかけていたが、私は主の"みたま"にとらえられて、まだ見たこともないし1度も足を踏み入れたこともない非常に高い山へやってきた。

1ニ-11,2,"みたま"が私に"汝何をねがうか"と仰せになったから、

1ニ-11,3,私は、父の見たものを見たいと思うと言った。

1ニ-11,4,すると"みたま"は"汝は汝の父が語りし木を父が見たりと信ずるや"と聞いたもうたので、

1ニ-11,5,私は、はい、私が父の言うことを何でも信ずるのは汝も知って居たもうと答えた。

1ニ-11,6,私がこれらの言葉を言うと"みたま"は声高き神にまします主にホザナ。主は全世界の神にいましてすべての上にまします。ニ-ファイよ、汝はいと高き神の御子を信ずるによりさいわりなり。されば汝には望みのものを見すべし。

1ニ-11,7,汝は父の食したる実を結ぶ木を見てより、また1人の男の方が天より降りたもうを見るべければ、このお方をよく仰ぎ見奉りそれよりそれが神の御子であると証をせよ。これ汝にとりてしるしとなるべし"と仰せになった。

1ニ-11,8,そして"みたま"が"見よ"と仰せになるから見ると、私は1本の木が見えた。その木はちょうど私の見た木のものであって、美しいことはたとえようもなくどんな美しさもかなわぬほどであって、またその白さといえまことに白妙の雪にもまさっていた。

1ニ-11,9,私はその木を見てから"みたま"に私は汝があらゆるものに勝って貴い木を見せたもうたことがわかっていると聞いた。

1ニ-11,10,すると"みたま"が"今何を願うや"と仰せになったから、

1ニ-11,11,私は"みたま"に、今見たことの解き明しが知りたいことを人が人に物を言うように話した。それは"みたま"が人の形をして居たもうのを眼のあたり見たからである。しかしそれでも私はそれが主の"みたま"であることを知っていた。そして"みたま"も私に人が人

1ニ-11,11-1,人に物を言うように話したもうた。

1ニ-11,12,さて"みたま"が私に"見よ"と仰せになったから、仰ぎ見るように眺めると、早くも私の前を去りたもうてからその姿は私に見えなかった。

1ニ-11,13,私がまた眺めると、大きな都のエルサレムを始めそのほかの都市が見えナザレの町もまた見えた。そして私はナザレの町の中に1人の処女を見たが、それはまことに色の白く美しい処女であった。

1ニ-11,14,この時私は天の開くのを見たが、1人の天使が天降ってきて私の前に立ち"ニ-ファイよ、汝はなにが見えるか"と仰せになったから

1ニ-11,15,私は1人の処女が私に見える、それはどんな処女にも勝って美しくまた麗しい処女であると言った。

1ニ-11,16,すると天使はまた"汝は神のいつくしみ深いことを知っているか"とおたずねになったから、

1ニ-11,17,私は神がその子供たちを愛したもうことは知っているがよろずのこの意味を知っているわけではないと答えた。

1ニ-11,18,すると天使は"見よ、今汝が見る処女は肉体に宿りたもう神の子の母である"と教えて下さった。

1ニ-11,19,私はそれからその処女が"みたま"につれて行かれるのを見た。その処女が"みたま"につれて行かれてからしばらくして天使が私に"見よ"と仰せになったから、

1ニ-11,20,私が眺めると、その処女がまた見えてこのたびは1人の幼子を抱いていた。

1ニ-11,21,天使が私に"神の子羊、まことに永遠の父なる神の御子を見よ、汝は父の見た木の意味を知っているか"と仰せになるから、

1ー11,22,父はさよう、その木は神の愛であって人の心をあまねくうるおすものであるから、どんなものよりも好ましいものであると答えると、

1ー11,23,天使は“そうであるそれは心にとって最も喜ばしいものである”、

1ー11,24,と言ってからまた“見よ”と仰せになったから、私が眺めると神の御子が人々の中へ進んで行ったもうて多くの者がその足もとにひれ伏して拝むのが見えた。

1ー11,25,私はまた父の見た鉄の棒は、生命のある水の源、または生命の木へ行く神の言葉であるのを覚り、また生命の水は神の愛を象り生命の木もまた神の愛を象るのを知った。

1ー11,26,天使はまた私に“神のいつくしみ深いことを眺めて見よ”と仰せになったから、

1ー11,27,眺めると、父の話した世の贖い主が見え、また贖い主の先に立ってその道の備えをするはずの予言者も見えた。また神の子羊が進み出でたもうて、予言者からバプテスマを受けたまい、バプテスマを受けたもうと天が開けて聖霊が天降り、鳩の下のように降って神の子

1ー11,27-1,子羊の上に留りたもうのが見えた。

1ー11,28,ついに私は子羊が出で来たまい、能力と大きな栄光とを以て民に恵みを施したもうのが見えた。そしてその言葉を聞こうと多くの人々が集り合ったがついにその中からかれらが子羊を追い出すのが見えた。

1ー11,29,また私はほかに12人の者がみあとについて行くのを見たが、この12人の者は“みたま”に連れられて私の前をさりその姿が見えなくなった。

1ー11,30,すると天使がまた“見よ”と仰せになるから眺めると、私は天がまた開けて天使たちが人間に降りこれに恵みを施すのが見えた。

1ー11,31,天使がまた私に“見よ”と仰せになるので眺めると、神の子羊が人々の中に出で来たもうのが見え、また病気で多くの病に悩み悪鬼や汚らしい霊につかわれている多くの人々が見えた。天使はこれらのことを一々私に見せまた話を下さしたが、これらの人々は神の

1ー11,31-1,神の子羊の能力によって医やされ、また悪鬼や汚らしい霊は追い出された。

1ー11,32,天使がもう一度“見よ”と仰せになるから眺めると、人々に捕らわれたもう神の子羊が見えた。まことに永遠の神の御子は世の人に裁かれたもうのである。私はたしかにこれを見てその証をする。

1ー11,33,私はまた神の子羊が十字架にかけられ、世の罪を贖うために殺されたもうのを見たが、

1ー11,34,殺されたもうてから、世の多くの人々が寄り集って主の使いから“子羊の使徒”と呼ばれるあの12人の者たちに向って戦いをしようとするのが見えた。

1ー11,35,かように世の多くの人々が寄り集っていたが、かれらは私の父の見た建物のような大きな広々とした建物の中にいるのが見えた。この時主の使がまた“世の人々とその知恵とを見よ。まことにイスラエルの家の者たちが子羊の12使徒に向って戦うために寄り集っている

1ー11,35-1,集っているのを見よ”と仰せになったが、

1ー11,36,私はあの大きな広々とした建物は世の人々の高慢であることを見てその証をする。その建物はやがて崩れてその崩れはことのほか甚しかった。主の使いは再び私に向って仰せになった“子羊の12使徒に向って戦うあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民および

1ー11,36-1,あらゆる人々の滅亡はまさにかくの如くであろう”と。

1ー12,,ニューファイ第1書 第12章

1ー12,\*-\*,ニューファイの見た約束の地の示現。ニューファイの民に救い主が将来現れたもうこと。その民の正義と悪事と没落の予言。

1ー12,1,あの天使が私に“汝の子孫と汝の兄弟の子孫を眺めて見よ”と仰せになったから私が眺めると、約束の地が見えまた多くの人々が見えたが、まことにその人々の数はちょうど海の真砂の数ほど多かった。

1ー12,2,そして大勢の人々が互いに戦うために寄り集るのが見え、また相戦う有様や私の民の中で剣を以て大きな殺戮が行われる有様が見え、また戦争の噂が行われることなどが見えた。

1ー12,3,また國中戦争不和と言う有様で多くの世代が過ぎて行き、私に多くの都市が見えたが、それはまことに数知れぬ都市であった。

1ー12,4,私はまた約束の地の面に暗黒の霧が立ちのぼっているのを見た。また電光がひらめき、雷がとどろき、地震がありなどして、あらゆるさわがしい響きが聞こえ、地が割れ岩が裂け山家くつがえって崩れ、平地に高低ができ、多くの都市が陥ち込み、多くの都市が焼け失せ

1ー12,4-1,また多くの都市がまことに地震でくつがえったのを見た。

1ー12,5,これらのことがあってから、私は暗黒の霧が地面から離れて立ちのぼるのが見え、まことに私は主の恐ろしい裁きによって亡びた多くの人々を見た。

1ー12,6,そして私は天が開けて天降りたもう神の子羊を見た。神の子羊は地に降って多くの人々に現われたもうた。

1ニ-12,7,私はまた聖霊がほかの12人に降って、この12人が神に選ばれ按手礼によって任命されることも見てこれを証する。

1ニ-12,8,天使は私に“子羊の12弟子を見よ。この者たちは汝の子孫を教え導くために委任された。

1ニ-12,9,汝は子羊の12使徒をおぼえているか。見よ、かれらは将来イスラエルの支族を裁く者たちである。故に汝の子孫から選ばれる12人の教導者はこの12使徒によって裁かれる。汝らはイスラエルの家に属する者たちであるからである。

1ニ-12,10,汝が今見るこの12人の教導者は汝の子孫たちを裁く。見よ、この12人は神の子羊を信ずる信仰のため、子羊の血によってその衣を清められているから、いつまでも変わらず義を守る者たちである”と仰せになった。

1ニ-12,11,そして私に“見よ”と仰せになったから、私が眺めると3代の世が義しく経過したが、その間の人の衣はまことに神の子羊のように白かった。天使が私に仰せになるには、“この者たちは子羊を信ずる信仰のため、子羊の血によって清められたのである”と。

1ニ-12,12,私ニーファイはまた第4代の人々を多く見たが、その人たちは義しい行いをして世を去った。

1ニ-12,13,ついで私は世の人々が群がり集るのを見た。

1ニ-12,14,この時天使は私に“汝の子孫と、汝の兄弟の子孫をも見よ”と仰せになったから、

1ニ-12,15,これを眺めると、私の子孫の民が私の兄弟の子孫に向って大勢寄り集っているのが見えた。これらの者たちはまったく戦うために集ったのである。

1ニ-12,16,すると天使は“汝の父が見た汚れた水の流れ、すなわち父の話した川を見よ。その深い淵は実に地獄の淵である。

1ニ-12,17,また、あの暗黒の霧は悪魔の誘惑である。それは人の目を暗ましてその心をかたくなにし、さらに広い道に踏みこませてついに滅亡させるのである。

1ニ-12,18,また汝の父の見たあの大きな広々とした建物は、人の空想と高慢である。また1つの大きな恐ろしい淵があって、かれらと汝の父とをへだてている。それはほかでもない永遠の神と神の子羊であるメシヤとが宣う正義の言葉である。そしてメシヤのことは、世の始めから

1ニ-12,18-1,世の始めから今に至まで、また今から後永遠に至るまで聖霊がその証をなしたもう”と仰せになった。

1ニ-12,19,そして天使がこれらの言葉を語って居りたもう中、私が眺めると私の兄弟たちの子孫が天使の言葉のように私の子孫と戦うのが見え、また私の子孫がその高慢と悪魔の誘惑とのために、私の兄弟たちの子孫に征服されるのが見えた。

1ニ-12,20,そして私の兄弟たちの子孫は私の子孫を征服してから、いくつもの群にわかれて方々に散り

1ニ-12,21,群れをなして寄り集まり、あるいは相戦いあるいはかれらの中で戦の噂をするのを知った。このように数ある戦争の噂の中に幾代かが早くも過ぎ去った。

1ニ-12,22,天使が私に“見よ、これらの者は無信仰に陥る”と仰せになったが、

1ニ-12,23,これらの者どもは、とうとう無信仰に陥ってから皮膚の色が黒く汚らわしくなり、まったく怠け者であらゆる汚らわしい行いをする汚い民になってしまうのが見えた。

1ニ-13,,ニーファイ第1書 第13章

1ニ-13,\*-\*、異教徒の諸国民。憎むべき大教会。アメリカの歴史予め表される。聖書とモルモン経。

1ニ-13,1,天使ががまた私に“見よ”と仰せになった。私が眺めると多くの国民と多くの国民と多くの王国とが見えた。

1ニ-13,2,そこで天使が“何が見えるか”と仰せになったから、多くの国民と多くの王国が見えると答えると、

1ニ-13,3,天使は私に“これらは異邦人の国民とその王国である”と仰せになった。

1ニ-13,4,私が見ると異邦人の諸国民の中に1つの大きな教会の中に1つの大きな教会の基があった。

1ニ-13,5,天使は私に“見よ、これはあらゆるどの教会よりも憎むべき教会の基であって、神の聖徒らを殺しこれを苦しめこれを縛りあげこれに鉄のくびきを負わせこれを束縛の身に陥し入れるものである”と仰せになったが、

1ニ-13,6,私はこの憎むべき大教会を見て悪魔がその基になっているのを知った。

1ニ-13,7,私はまた金銀、絹布、緋の衣、こまやかに織ったリンネルやあらゆる高価な衣服を見、そのほか多くの浮れ女を見た。

1ニ-13,8,天使が仰せになるには“見よ、金銀、絹布、緋の衣、こまやかに織ったリンネルや高価な衣服、浮れ女などは、この憎むべき大教会の欲しがるものである。

1ニ-13,9,そしてこの教会は、世の誉を得るために神の聖徒らを亡ぼし、これを束縛の身に陥し入れるのである”と。

1ニ-13,10,また私が眺めるのに大海があって、それが異邦人と私の兄弟たちの子孫とをへだてているのが見えた。

1ニ-13,11,天使が私に“見よ、神の怒りが汝の兄弟たちの子孫に下るのを”と仰せになるから、  
1ニ-13,12,眺めると、私の兄弟たちの子孫と大海をへだてている異邦人の中に1人の男が見えた。すると神の“みたま”が降りたもうてこの男に靈感を与えたもうたから、この男は大海を渡って約束の地にいる私の兄弟たちの子孫のところへ行った。  
1ニ-13,13,私はそれからまた神の“みたま”がほかの異邦人にも働きたまい、この人たちが束縛の身の上から免れて大海を渡って行くのが見えた。  
1ニ-13,14,私にはまた約束の地に多くの異邦人がいるのが見え、そして神の怒りが私の兄弟たちの子孫に下って、異邦人の前から追い散らされ打ち負かされるのが見えた。  
1ニ-13,15,私が眺めると、主の“みたま”が異邦人の上に臨んで異邦人たちはまことに繁栄し、約束の土地を嗣りとして得た。眺めるにその異邦人たちは皮膚の色が白く、まだ殺されない前の私の民のように美しく麗しかった。  
1ニ-13,16,私ニーファイが眺めるに束縛の身から免れた異邦人はまことに主の御前にへりくだったから共にあった。  
1ニ-13,17,私がまた眺めると、この異邦人のもと住んだ土地にいる異邦人たちが、これと戦うために海にも陸にも寄り集った。  
1ニ-13,18,しかし神の御力の地にきた異邦人と共にあり、また神の怒りはこれと戦うために寄り集った者たちすべての上に下ったのが見えた。  
1ニ-13,19,私ニーファイには、束縛の身から免れてきた異邦人たちが神の御力によってほかのすべての国民の手から救い出されるのが見えた。  
1ニ-13,20,そして私はいかれらが約束の地でまことに繁栄するのが見えたが、また私には1冊の書物が見え、それが異邦人の中によく広まるのが見えた。  
1ニ-13,21,すると天使が“その書物のいわれを知っているか”と仰せになるから、  
1ニ-13,22,私が知らない由を答えると、  
1ニ-13,23,天使は“見よ、この書物はユダヤ人から出たものである”と仰せになった、私にその書物の出てくるところが見えた。天使はなおも“汝の今見る書物は主がイスラエルの家に立てたもうた誓約と、聖い予言者たちの語った多くの予言とをのせているユダヤ人の記録である  
1ニ-13,23-1,それは真鍮版に刻んである歴史に似た記録であって、ただ真鍮版に比べてその数が少ないだけである。それでもその中には主がイスラエルの家に立てたもうた誓約がのせてあるから、異邦人にとって大そうねうちのあるものである”と仰せになった上に、また、  
1ニ-13,24,“汝はその書物がユダヤ人から出てきたのを見たが、始めそれがユダヤ人から出てきた時には、その中にある12使徒が神の子羊にある真理によって証をした主の福音が誰にもわかるままにのっていた。  
1ニ-13,25,それであるから、これらのことは神に在る真理によってユダヤ人から異邦人に純粋なまま伝わる。  
1ニ-13,26,しかし、これらが子羊の12使徒の手によってユダヤ人から異邦人に伝わってから、汝にはあらゆるほかの教会に勝って憎むべき大教会の基が見えるが、その教会が憎むべきものとは、誰にもわかる非常に貴い多くの部分を子羊の福音から取り去り、また主のなしたもう  
1ニ-13,26-1,多くの誓約を取り去ってしまったからである。  
1ニ-13,27,かれらがこれをしたのは、主の義しい道を曲げて人々の目を暗ませその心をかたくなにするためである。  
1ニ-13,28,それであるから、汝にはあの書物があの憎むべき大教会の手を経て出てきてからは、神の子羊の書物から誰にも解る貴い多くの記事が抜きとられていることがわかる。  
1ニ-13,29,そしてこの誰にもわかる貴いことが抜きとられてから、この書物は異邦人の全国民に伝わり、また束縛の身から免れた異邦人と共に汝の見た大海までも渡って異邦人の全国民に伝わる。しかし、その書物にのっている子羊の福音から抜きとられた所があるために非常に多  
1ニ-13,29-1,非常に多くの人々がつまづき、サタンがこれらの人々を大いに支配する力を得ていることは今汝が目に見る通りの有様である。しかもその書物から抜きとられたと言う誰にもわかる貴いことは、神の子羊の明らかな言葉で表されたものであって人々にはっきりとわかる所  
1ニ-13,30,さりながら異邦人たちは束縛の身から免れてどの土地よりも優れた土地、すなわち主なる神が汝の父に“汝の子孫はこれを受け嗣ぎの地として保つべし”と約束したもうた土地にきて、そこで神の御力によってあらゆるほかの国民の上に位するようになった。しかしあの約  
1ニ-13,30-1,しかしあの約束があるから、主なる神はこの異邦人たちが汝の兄弟たちの間にある汝の子孫の血が混じったものたちを全亡ぼすことを許したまわらない、それは汝の見る通りである。  
1ニ-13,31,また主なる神はこの異邦人たちが汝の兄弟らの子孫を亡ぼすことをも許したまわらない。  
1ニ-13,32,また主なる神は、汝がすでにその成立を見たあの憎むべき教会が、子羊の福音の中から誰にもわか

る大へん貴い部分を削って伝えなかったから、異邦人たちが今汝の見るようなおそろしい盲目の有様にいつまでも留まるままにしては置きたまわない。

1ニ-13,33,故に、神の子羊は“われは異邦人を憐みて、イスラエルの家の残りし子孫に大いなる裁きを以て罰を及ぼさん”と言いたもうた、と天使は仰せになった。

1ニ-13,34,主の使がまた、私に仰せになるには“見よ、神の子羊は次の如く言いたもう‘われ告ぐ、われはイスラエルの家の残りの子孫、すなわち汝の父の子孫に裁きを以て罰を及し、異邦人らの手によりてこれをうちなやましたる後また浮れ女の母なるかの憎むべき教会、子羊の

1ニ-13,34-1,子羊の福音のうち最もわかり易い貴き箇所を除きて伝えざりしより、異邦人らがこのほかつまずきたる後、われは異邦人らをその時憐れんと思ひ、そのために能力を以てわが福音の中、多くのわかり易く貴い所をかれらに明らかにせん。

1ニ-13,35,すなわち、われ汝の子孫に現われて汝の子孫はわれがかれらに教うる解り易く貴きことを書き記すべし。しかして汝の子孫が亡ぼされて無信仰に陥り、また汝の兄弟たちの子孫もまたかくなる後、身よ、わが教えを書き記したるものは子羊の賜と能力とによりて異邦人ら

1ニ-13,35-1,異邦人らに伝わるため隠さるべし。

1ニ-13,36,われ告ぐ、その中にはわが福音とわが岩とわが救いと書き記されん。

1ニ-13,37,その日、わがシオンを起さんと努る者は幸福なるかな。かれらは聖霊の賜と能力とを受くるによる。またかれらもしも終りまで忍ばば、終りの日に挙げられて子羊の永遠の王国に救わるべし。また平和を宣べ大いなる喜びの音ずれを宣べ伝うるものは山の上に在りていか

1ニ-13,37-1,山の上に在りていかばかり美しきかな”と。

1ニ-13,38,私は私の兄弟たちの子孫の残りの者を見、またユダヤ人から出てきた神の子羊の書が異邦人たちから私の兄弟たちの子孫の残りの者に伝わるのが見えた。

1ニ-13,39,その書物がかれらに伝わってから私はほかにいくらかの書物を見たが、それらは子羊の能力によって異邦人たちからあの子孫たちに伝わったものであって、予言者たちと子羊の12使徒の記録が確であることを、異邦人と私の兄弟たちの子孫の残りの者とそして全世界の

1ニ-13,39-1,全世界の上に散らされたユダヤ人にと認めさせるために出てきたのである。

1ニ-13,40,天使はまた私に告げて“汝が異邦人の中で見たこれらの最後の記録は、子羊の12使徒から出た最初の記録が真理であることを確に証し、またその中から抜きとられたはっきりして貴いところを人に知らせ、また神の子羊が永遠の父なる神の御子であって、世の救い

1ニ-13,41,すべての人々はこの救い主の御許に来なければならぬ、さもなければ救われぬと言うこと、またすべての人々は子羊の口によって親しく教えられる道に従い御許に来なければならぬことなどを、あらゆる血族、あらゆる国民、あらゆる国語の民、あらゆる人々に知ら

1ニ-13,41-1,あらゆる人々に知らせるのである。そしてその子羊の教えたもう道は、子羊の12使徒の記録のみならずまた汝の子孫の記録の中でも明らかに書き示される。それ故に、全世界を治め導きたもう神にして羊飼である御方はただ1人だけいますから、これら2つの記録は結

1ニ-13,41-1-1,これらの2つの記録は結局1つに合わされる。

1ニ-13,42,そしてこの羊飼がユダヤ人にも異邦人にもよらずの国民に現われたもう時がくる。その時羊飼は始めにユダヤ人に現われて異邦人に現われ、次に異邦人に現われてユダヤ人に現われたもう。かようにして後なる者は先になり、先なる者は後になる”と仰せになった。

1ニ-14,,ニ-ファイ第1書 第14章

1ニ-14,\*-\*,異邦人に与えられる祝福かのろいかの選択。ただ2つの教会があるのみ。浮れ女の母の亡びる運命。黙示者ヨハネの使命。ニ-ファイの見た示現の終り。

1ニ-14,1,“神の子羊言葉と権能とをもちて異邦人に現われそのつまずく石を取り除く時、異邦人もし神の子羊の言葉に聞き従い、

1ニ-14,2,神の子羊に向いその心をかたくなにせずば、異邦人は汝の父の子孫の中に数えらるべし。すなわち異邦人はイスラエルの家の中に数えられ、約束の地にていつまでも永く祝福を受くる者となり、かれらはもはや再び束縛の身とならず、またイスラエルの家はもはや再び散

1ニ-14,2-1,もはや再び散り乱ることなかるべし。

1ニ-14,3,しかして人間を地獄に誘い落とすために、悪魔が己れとその子たちにて建てたるかの憎むべき大教会は、イスラエルの家の者たちを陥し入れ、また世の人々を亡ぼすために大いなる陥し穴を掘りたるが、これを掘りし者たちはその中へーばいに落ちてみな亡ぶべし’と神の

1ニ-14,3-1,と神の子羊は仰せになった。ここに亡びると言うのは、ただはてしない地獄になげこまれるのを言うだけで“霊の結合体”がほんとうに亡びるのではない。

1ニ-14,4,見よ、このような亡びは神の御前に罪惡と憎むべき行いとを犯すすべての人々にくるもので、惡魔に束縛されることによって起り、神の正義によって定められる”と、

1ニ-14,5,天使は言いたもうてまた私ニーファイに”汝はすでにもしも異邦人が悔い改めれば幸福であることを見、また主がイスラエルの家と結びたもう誓約も知り、悔い改めないものは誰でも亡びなければならぬことも聞いている。

1ニ-14,6,それでもしも異邦人が神の子羊に向ってその心をかたくなにすれば禍なるかな。

1ニ-14,7,そのわけは神の子羊がわが驚嘆すべき大事業を世の人々の中にてなす時来る。その大事業とは不朽の事業にして、こは1面人間を感化して平安と永遠の生命とを与うれども、他の1面人間のこころをかたくなであり知恵を暗きままに任せおきて、すでに話したる惡魔に

1ニ-14,7-1,惡魔にかれらが束縛されることによりて、肉体も靈も共に束縛され亡ぶるにまかすものなり’と仰せになるからである”と。

1ニ-14,8,天使はこれらの言葉を語ってから私に向い”御父がイスラエルの家と結びたもうた誓約を憶えているか”と仰せになったから、私がおの通り憶えている由を答えると、

1ニ-14,9,“見よ、憎むべき行いの母、惡魔を基とする憎むべき大教会を見よ。

1ニ-14,10,およそ教会は2つあるだけである。1つは神の子羊の教会であつてもう1つは惡魔の教会である。それであるから、神の子羊の教会に属していない者は誰でも憎むべき行いの母であつて全世界の浮れ女であるあの大教会に属する者である”と仰せになった。

1ニ-14,11,そこで私があの全世界の浮れ女をながめると、それは多くの海の上に座を占め全世界を支配してあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる國語の民、あらゆる人々の中に權力をふるっているのが見えた。

1ニ-14,12,次に、私は神の子羊の教会が見えたがこの教会に属している者の数は、多くの海の上に座を占めているあの浮れ女の罪惡と憎むべき行いのために少なかった。それでも、私には神の聖徒らである子羊の教会もまた全世界の上にあるのが見えた。しかし、かれらが地上に持

1ニ-14,12-1,地上に持っている領分と權力は、私の見たあの大きな浮れ女の罪惡のために小さかった。

1ニ-14,13,また私はあの憎むべき行いの大きな母が、神の子羊と戦うために異邦人の全国民の中から全地の面に多くの人々を集めるのが見えたが、

1ニ-14,14,私ニーファイは、神の子羊の能力が子羊の教会の聖徒らと、主の誓約を受けて世界の各所にちりじりとなった民の上とに下り、これらの人々が義と大きな榮光にかがやく神の能力とを以て武装したのが見えた。

1ニ-14,15,しかし、私には神の怒りがあの憎むべき大教会の上とに下り、それがために世界のあらゆる国民、あらゆる血族の中に戦があり、また戦の噂があるのが見えた。

1ニ-14,16,そしてあの憎むべき行いの母に属しているあらゆる国民の中に戦が始まり、また戦の噂が始まった時に天使が”見よ、神の怒りは浮れ女たちの母に下った。見よ、汝にはすべてこれらのことが見える。

1ニ-14,17,すなわち、全世界の中の憎むべき大教会でしかも惡魔を基としているあの浮れ女たちの母に神の怒りが下る日になると、その時御父はイスラエルの家に属している御父の民とすでに結びたもうた誓約を果す準備をなしたもう。これは御父の大事業の始めである”と、

1ニ-14,18,私にかように言つてまた”見よ”と仰せになった。

1ニ-14,19,私ながめると白い衣を着ている1人の男が見えた。

1ニ-14,20,天使が仰せになるのに”見よ、これは子羊の12使徒の1人である。

1ニ-14,21,見よ、かれはこれらのことの残りとして、また過去から今までにあった多くのことを見て書き記し、

1ニ-14,22,またこの世の終りについても書き記す。

1ニ-14,23,それであるから、この者が親しく見て書き記すところは正しくて真実である。また見よ、この者の書き記すところは汝がユダヤ人から出るのを見た書物の中にある。そしてそれがユダヤ人から出てきた当時は、中に記してあるところがはっきりしていて純粹であり、また

1ニ-14,23-1,また非常に貴いすべての人に解り易いものであつた。

1ニ-14,24,見よ、この子羊の使徒の書くべきことは汝がすでに見た多くのことであるが、なおそのほかのことをこれから汝は見るであろう。

1ニ-14,25,しかし、今後汝の見ることはこれを書いてはならない。それは主なる神がすでにあの神の子羊の使徒にそれらのことを書くように聖任したもうたからである。

1ニ-14,26,神はまたこの使徒のほかにも、前からあつた人々にもすべてのことを示したまい、そしてその人々は示したもうたことを書き記した。しかし、これらの記事は主のみこころにかなう時節がきた時に子羊にある真理により純粹なままの姿で世に現われて、イスラエルの家に伝

1ニ-14,26-1,イスラエルの家に伝わるために今は封じておかれる”と、

1ニ-14,27,私ニーファイは、天使の言葉によってこの子羊の使徒の名はヨハネであると言ふことを聞いてここに証

をする。

1ニ-14,28,そしてごらん、私ニーファイは私が見たり聞いたりしたほかのことを書いてはならぬと言われたから今まで書き記したことで満足をするが、これまで記したことはまことに私が見たことの一端にすぎない。

1ニ-14,29,かように私は私の父の見たことを親しく見、そして主の使がこれらを私に示して下さったことを証するものである。

1ニ-14,30,私が“みたま”につれて行かれている中に見たことについての話をこれで終りにするが、私の見たことがたとえ皆書いてなくとも、今まで書き記したことは皆真実である。正にその通り真実である。アーメン。

1ニ-15,,ニーファイ第1書 第15章

1ニ-15,\*-\*,ニーファイ、リーハイの教えを説明する。“かんらん”の木。生命の木。神の御言葉。

1ニ-15,1,私ニーファイは“みたま”につれられて行って以上のことを皆見てしまってから、私の父の天幕に帰ってきた。

1ニ-15,2,さて私が私の兄弟たちに逢うと、兄弟たちは私の父が目に分たちに語ったことについてその時互に言い争っていた。

1ニ-15,3,父はまことに偉大なことを多く兄弟たちに語ったが、それは人が主に尋ねなければ解りにくいことであった。ところが兄弟たちは心がかたくなであったから、当然なすべきことであるが主に頼らなかったのである。

1ニ-15,4,それで私ニーファイは兄弟たちの心がかたくなであるので、また私が今までいろいろなことを見て世の人々が犯す大きな罪悪のためにこれらのことが必ず起ることを知っていたので悲しく思い、

1ニ-15,5,また前に私の民の亡びるのを見たので、そのために私の悩みがたとえようもなく大きく思えて、私は悩みのためにうち負けてしまった。

1ニ-15,6,さて私は能力がもとに戻ってから兄弟たちに向い、その言い争うのものが何であるか聞かせてほしいと言った。

1ニ-15,7,すると兄弟たちは“見よ、われの父は“かんらん”の木の元の自然の枝と異邦人のことについて話したが、その言葉は何のことだか解らない”と言った。

1ニ-15,8,それで私はあなたがたは主に尋ねたかと言ったら、

1ニ-15,9,兄弟たちは“主に尋ねてはいない。主はこんなことをわれわれに知らせないからである”と言った。

1ニ-15,10,そこで私は言った“あなたがたが主の言いつけを守らないのは何故であるか。あなたたちの心をかたくなにして亡びを招くのは何故であるか。

1ニ-15,11,主がこれまでに仰せになったことを憶えていないのか。主は‘もし汝らをの心をかたくなにせず、答えを受くと信じ、固き信仰を持ち、わが誠命を勤勉に守りてわれに願わば必ずこれらのことを汝らに示さるべし’と仰せになった。

1ニ-15,12,ごらん、私たちの先祖は胸に宿った主の“みたま”によって、イスラエルの家を‘かんらん’の木にたとえた。ごらん、私たちはイスラエルの家から折り取られた者ではないか。だから、私たちはイスラエルを1枝ではないか”と。

1ニ-15,13,さて私たちの父は、異邦人が完全な福音を受けることによって元の自然の枝に接されることについて言ったが、その意味はメシヤが世の人々に肉体で現れたもうてから私たちの子孫は無信仰に陥り、まことに長年の間しかも多くの世を経てもそれをあらためずついに末日とな

1ニ-15,13-1,末日になってメシヤの福音は完全なまで異邦人に与えられ、ついで異邦人から私たちの子孫の残りの者に伝えられる。

1ニ-15,14,すなわちその日がくると私たちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエル家に属している者であつて主の誓約を受けた民であることを知り、そこで心に悟つて自分たちの先祖のことを知り、また自分たちの贖い主が親しく先祖に与えたもうた福音をも知る。かように

1ニ-15,14-1,残りの者はその贖い主と贖い主の教えの最も重要な点を知るようになつて、贖い主のところへ帰つて救の道を覚るのである。

1ニ-15,15,その日には、私たちの子孫の残りの者はどうしてその岩その救いである永遠の神をよるこび讚美しないであろうか。まことにその日にどうして真のぶどうの蔓から力と養いとを受けないであろうか。また神の持ちたもう真の羊の群れに入らないであろうか。

1ニ-15,16,見よ、まことにかれらは再びイスラエル家の者と認められ、また“かんらん”の木の元の自然の枝であるから真の“かんらん”の木に接される、と言うのであった。

1ニ-15,17,そしてこれが私たちの父の言ったことの意味であるが、また父の意味は、このことはイスラエル家が異邦人のために散らされてから初めて起る言うのであり、このことが異邦人によつて起るのは主がユダヤ人によつて、すなわちイスラエル家に属している者によつて

1ニ-15,17-1,拒まれたもうから、主の権能を異邦人に示したもうために起るのであると言うのである。

1ニ-15,18,それで私たちの父はひとり私たちの子孫のことを話したばかりでなく、またイスラエルの家の全部についても話をし、末の日に成就されるはずの誓約を教えたのである。その誓約とは主が私たちの先祖アブラハムに“汝の子孫により世界の眷族ことごとく祝福を受くべ

1ニ-15,18-1,と言って結びたもうた誓約のことである。

1ニ-15,19,私ニーファイは、これらのことについて兄弟たちに多くの話をした。まことに私は末の日にユダヤ人がもとの状態に帰ることについて話をした。

1ニ-15,20,そしてユダヤ人、すなわちイスラエルの家がもとの状態に帰ることについて語ったイザヤの言葉を兄弟たちに言って聞かせたが、その言葉はイスラエルの家がもとの状態に帰ってからは、もうあわてふためくこともなければまた散らされることもないと言うのであった。

1ニ-15,20-1,かように私は兄弟たちに多くの言葉を話して聞かせたから、兄弟たちは心が解けて主の御前にへりくだった。

1ニ-15,21,そして私にまた“父が夢の中で見たこたは何の意味であるか。父の見た木は何を意味するのか”と問うから、

1ニ-15,22,私はその木は生命の木を象ると言う、

1ニ-15,23,兄弟たちはまた“父の見た木のところに達する鉄の棒は何の意味か”とたずねるから、

1ニ-15,24,私は兄弟たちに、それは神の言葉である、誰でも神の言葉を聞いてこれを固く守る者はけっして亡びることなく、また悪魔の誘惑やその火矢もかれらをうち破って盲目となし、亡びに導くこともできないと言った。

1ニ-15,25,そこで私ニーファイは、まことに主の言葉に心を留めるように兄弟たちをすすめ、また真に兄弟たちが神の言葉に心を留めてこれを憶え、たえず何事においても神の命令を守るように、私の精神の力をつくし、私の持っている全能力をかたむけて兄弟たちをすすめた。

1ニ-15,26,そうすると、兄弟たちは“父の見た川の流れは何の意味か”と言うから、

1ニ-15,27,私は、父の見た川の水はけがれである。しかし、父の川の水のけがれを見ないほどその心をほかの物事にとられていた。

1ニ-15,28,この川は、悪人を生命の木と神の聖徒とからへだてているおそろしい淵である。

1ニ-15,29,また、あの天使が私に悪人を入れるために用意してあると言ったおそろしい地獄を表している。

1ニ-15,30,また父は、神の正義もまことに悪人を義しい人からへだて、神の正義の輝きがとこしえにつきることなく神の御座に燃え上る焰の輝きのようなのを見たと言った。

1ニ-15,31,すると兄弟たちは“今言ったことは肉体がこのころみの現世で受ける苦痛を指すのか、または肉体が死んでから後の人間の最も終りの有様を指すのか、それともまた現世のことを言うのであるか”と聞くから、

1ニ-15,32,私は“それは現世のことにも霊のことにも2つながらにかかわることを象るのである。と言うのは、このころみの世で肉体によってした行いによって世の人々が裁かれねばならない日が必ずくるからである。

1ニ-15,33,したがって、もしも人が罪悪を行ったまま死ぬならば、その人たちは神霊について義しさに関係のあることから棄てられなければならない。それであるから、これらの者はその行いについて裁きを受けるために、神の御前に引き出されなければならない。そしてもしも

1ニ-15,33-1,そしてもしもこれらの者の行いがけがれているならば、これらの者は必ずけがれているにちがいない。もしもこれらの者がけがれているならば、これらの者は必ず神の王国に住むことができないにちがいない。もしもこれらの者が住めるならば、神の王国もまたけがれて

1ニ-15,33-1-1,神の王国もまたけがれているにちがいないのである。

1ニ-15,34,しかしごらん、またよく聞け、神の王国はけがれているものでないから、どんな不潔なものも神の王国に入ることができないのである。それであるから、けがれたものを入れるためには、けがれた所の用意が必ずあるにちがいない。

1ニ-15,35,実際、用意された場所が1つあるのであって、これが私のすでに話したあのおそろしい地獄と言うもので悪魔がその基となっている。それであるから、人間の最後の状態と言うものは、神の王国に住むか、さもなければ私が前に話した正義によって追い出されるかのどち

1ニ-15,36,それであるから、悪人は義しいものたちからしりぞくられ、また生命の木の実からもうち捨てられるのであるが、生命の木の実是非常に貴いものであって、あらゆるほかの木の実よりもさらに好く、神のすべての賜のなかで最も大きな賜であると、私はかように私の兄弟

1ニ-15,36-1,私の兄弟たちに話をした。 アーメン。

1ニ-16,,ニーファイ第1書 第16章

1ニ-16,\*-\*,リーハイの息子たちと、イシメルの娘たちと結婚をする。旅行をつづける。指向器または指向球を授けられる。イシメル死ぬ。

1ニ-16,1,さて、私ニーファイが私の兄弟たちにこの話をしようとして、ごらん、兄弟たちは“汝はわれわれの聞くに

堪えないほど残酷なことを言った”と私に言ったから、

1ニ-16,2,私は兄弟たちに“私が真理に従い悪人をせめて残酷なことを言ったのはよく知っている。しかし、私は義しい者を正しいとし、これらの者が最後の日に当然救いあげられることを証明した。それであるから、罪のある者は真理が胸の底まで刺しつらぬくために真理を残酷

1ニ-16,2-1,残酷だと思うのである。

1ニ-16,3,さて兄さんたちよ、もしも神の御前に正しく行いをするためにあなたがたが義しくあり、進んで真理に耳を傾けてこれに従い真理に心を留めるならば真理のために不平をもらして“汝はわれわれに向って残酷なことを聞かせた”などと言わないであらう”と言った。

1ニ-16,4,そして私ニーファイは私の兄弟たちに主の命令を守るようにと熱心にすすめた。

1ニ-16,5,それで兄弟たちが主の御前にへりくだったから、私の兄弟たちが義しい道をふむであらうと心によろこび、また兄弟たちが必ずそうなるように希望を抱いたのである。

1ニ-16,6,さて、以上のことはすべて私の父がレミュエルの谷と呼んだ谷に天幕を張って住んでいた時に話をしました起ったことである。

1ニ-16,7,それから、私ニーファイはイシメルの娘の1人を妻にめとり、私の兄弟たちもまたイシメルの娘たちを選んで妻とし、ゾーラムもまたイシメルの長女をめとって妻とした。

1ニ-16,8,かようにして私の父は主から命令をことごとく遂げ、また私ニーファイも主から非常に豊かな祝福を受けた。

1ニ-16,9,ところが夜になって主の御声が私の父に聞え、そのあくる日に荒野へ旅をつづけよと命じたもうた。

1ニ-16,10,そこで私の父が翌朝起きて天幕の入口へ出ていったところが、父の非常に驚いたことには、地上に珍しい細工の円い球が1つあった。それは純良な真鍮でできていて、その円い玉の内部には2本の指針があり、その1本は荒野で行くべき方向を指していた。

1ニ-16,11,そこで、私たちは荒野へ持って行くべき一切のものと、主に賜わった食糧の残りとをことごとく集め、また荒野へ持って行くためにあらゆる種類の種子を取った。

1ニ-16,12,そして私たちは天幕を携え、レーマン川を横ぎって荒野へと出発をした。

1ニ-16,13,され、私たちは4日の間、ほぼ南南東の方角へ旅路を進み、ここに再び天幕を張ってその地をシェゼルと名づけた。

1ニ-16,14,そして私たちは弓矢を携え家族の食料にする肉をとるため荒野へ出かけて行ったが、その肉をとってから再びシェゼルへ、荒野の中で待っている家族のところへ帰ってきた。そしてまた前と同じ方向へ向って、紅海に近い国境の荒野の中で1番土地が肥えたところを追っ

1ニ-16,14-1,追って進んで行った。

1ニ-16,15,私たちは、道々食料にする肉を弓矢と石と石投器によってとりながら何日も何日も旅をした。

1ニ-16,16,そして私たちは、いつもあの球の指す方向へ進んで行ったが、球は私たちを荒野の中で一そう土地の肥えたところへ導いて行った。

1ニ-16,17,私たちは何日も何日も旅をしてからまた休息をして、家族の食料をとすためにしばらくの間天幕を張った。

1ニ-16,18,ここで私ニーファイは食料にする肉をとろうとして出て行ったが、その時純良な鋼でできている私の弓を折ってしまった。ところがごらん、弓を折ってからは肉がとれなかったから、弓を折ったと言うので私の兄弟たちは私に腹を立てた。

1ニ-16,19,かようにして、私たちは肉をとらずに家族のところへ帰ってきたが、家族の者たちは旅のためにひどく疲れていたので食物がないので非常に苦しんだ。

1ニ-16,20,それでレーマンとレミュエルとイシメルの息子たちは、荒野の中で逢った艱難と苦しみのために非常に不平を言い始め、また私の父さえも主なる神に向って不平を言い始めた。まことに皆の者は非常に悲しかったから、主に向って不平の言葉をもらしたのであった。

1ニ-16,21,さて私ニーファイは私の弓を折ったために兄弟たちから苦しめられたが、兄弟たちの弓もまたその弾力がなくなったから事が非常にむつかしくなり、そのために私たちも食糧をとることができなかった。

1ニ-16,22,そして私の兄弟たちが主なるかれらの神に向って苦情を言うほどまたその心をかたくなにしたから、私は兄弟たちにさまざまと聞かせたのであった。

1ニ-16,23,やがて私ニーファイは木で1本の弓をつくり、まっすぐな枝から1本の矢をつくったので、1本の弓と1本の矢と石投器と石とでわが身を固め、さて私の父に向ってどこへ行って食物とろうかとたずねた。

1ニ-16,24,父も家族の者たちも、私が心をつくしてさまざまいさめたから、私の言葉に感じて自らへりくだり父は主にお伺いをした。

1ニ-16,25,すると主の御声が父に聞こえ、父が前に主に向って不平の言葉をもらしたのでをきびしくこらしめたもう

たので父は悲しみの底に沈んだ。

1ニ-16,26,ところがまた主の御声があって“球を見て書き記してあることをよく心に留めよ”と仰せになった。

1ニ-16,27,そこで父は球の上を書いてあることを見ると非常におそれおののき、また私の兄弟たちもイシメルの息子たちも、私たちの妻たちも同様におそれおののいた。

1ニ-16,28,私ニーファイが球の中にある指針を見ると、私たちがこれを信ずる信仰と熱心と注意の強弱に従って指針が動くのを知った。

1ニ-16,29,またそれらの上には主の道について私たちに知らせる新しいことが読みやすく書き記してあったが、これがまた私たちがそれを信ずる信仰の強さと、これに従う熱心の強さとに応じて時々書きかえられた。かようにして、主は小さな手段によって偉大なことを遂げたもう

1ニ-16,29-1,遂げたもうことを私たちは悟るのである。

1ニ-16,30,さて私ニーファイは球の上にあらわれた指図に従って山の頂まで登って行った。

1ニ-16,31,そして野獣を何匹も殺したので、私たちの家族に食べさせる食料ができた。

1ニ-16,32,それで私は殺した獣をかついですぐに私たちの天幕へ帰ってきたが、さて私が食料をとってきたのを見た時の家族の者たちの喜びよと言ったら大したものであった。そして家族の者たちは主の御前にへりくだり、主に感謝を捧げたのである。

1ニ-16,33,さて私たちは再び旅路につき、始めとほぼ同じ道筋を進んで行ったが、何日も何日も旅をした後しばらく留まるためにまた天幕を張った。

1ニ-16,34,しかしここにイシメルは死んでネホムと言うところに葬られた。

1ニ-16,35,ところがイシメルの娘たちは、その父の亡くなったためと荒野の中で苦しい目に逢ったために非常になげき悲しみ、自分たちをはじめにエルサレムの地をつれ出したのは私の父であると言って、父に向い“私たちの父は亡くなってしまった。まことに私たちは久しく荒野

1ニ-16,35-1,荒野の中をさまよって多くの艱難に逢い、飢えと渇きと疲れとに苦しんだ。かような苦しい目に逢った末は結局荒野の中で飢死をしてしまうにちがいない”とつぶやいた。

1ニ-16,36,イシメルの娘たちはかように私の父と私に向ってつぶやき、またエルサレムに帰りたいと望んだのである。

1ニ-16,37,ところでレーマンとレミュエルの息子たちに語って“見よ、われらの父とわれらの弟ニーファイとを殺そうではないか。われらはニーファイの兄であるのに、かれはあえてわれらの支配者となり勝手にわれらを教える者になっている。

1ニ-16,38,かれは主がかれと共に語りたもうたと言い、また天使から導きと恵みとを受けたと言っているが、見よ、われらはかれが偽を言っていることがわかっている。かれはわれらの目をくらましておそらく人の知らぬ荒野の中へわれらを誘い込めると思い、その目的がかれのわ

1ニ-16,38-1,わるだくみによりいろいろなことをするのである。そして1度荒野の中へ誘い込んでしまったら、かれはわれらの王となりわれらの支配者となって、心のまま思のままにふるまおうと思っているのだ”と、こう言う風に私の兄レーマンはかれらの心をかき立てて怒らせ

1ニ-16,38-1-1,怒らせるようにしたのである。

1ニ-16,39,しかし主は私たちと共にいましたから、まことに主の御声が聞えてレーマン、レミュエルあよびイシメルの息子たちにさまざま語り聞かせ、かれらをひどくこらしめたもうた。それで、かれらは主の御声によってこらしめを受けた後、その怒りを解き自分たちの罪を悔い

1ニ-16,39-1,よって主は私たちが飢死をしないように再び食物を与えて祝福したもうたのである。

1ニ-17,,ニーファイ第1書 第17章

1ニ-17,\*-\*,イリアントム、すなわち、多くの水のあるところ、主、ニーファイに命じて1隻の船を造らせたもう。ニーファイの兄弟たちこれに反対して言い伏せられる。

1ニ-17,1,私たちはまた荒野の中を旅して行ったが、この時からはほぼ東の方へ進んで行った。私たちはみな荒野を旅して多くの艱難をふみこえて行ったが、そういう中でも私たちの妻は荒野の中で子供を生んだ。

1ニ-17,2,しかし、主は私たちに大きな祝福を与えたもうたから、私たちは荒野の中で生肉を食べて暮らしたのに、私たちの妻は子供らに十分な乳を飲ませることができ、まことに男のように身体が強かったのでつぶやかずに旅行に堪えるようになった。

1ニ-17,3,かように神の命令はこれをふみ行わなければならないことがわかる。もしも世の人々が神の命令を守るならば、神はまことにこれを養いこれを強くし、また人に命じたもうことをなし遂げることができる方法を与えたもう。それであるから神は私たちが荒野に留まってい

1ニ-17,3-1,私たちにいろいろな方法を与えたもうた。

1ニ-17,4,さて私たちは長い間すなわち8年もの間荒野の中に留って、

1ニ-17,5, ついに果実と野蜜が豊にあるから、バウンテフルと名づけた土地にきた。しかもこれらのすべては私たちが亡びぬように主が備えたもうたのであった。私たちはここで海を見てその名をイリアントムと名づけた。これを解けば多くの水と言う意味である。

1ニ-17,6, 私たちは、天幕を海辺の近くに張った。私たちはこれまでまことに書きつくし難いほど多くのつらい難儀に逢ったけれども、今海辺に着いて皆は非常によろこべ、果実の豊かにある所なのでそこをバウンテフルと名づけた。

1ニ-17,7, さて私ニ-ファイは、バウンテフルの土地に何日も過ごしたが、主の御声が聞こえて私に“起って山へ行け”と仰せになったので私は起って山へ行き主に祈った。

1ニ-17,8, この時主は私に“われが汝の民にこの大海を渡らすため、これより示す方法に従い1隻の船をつくれ”と仰せになった。

1ニ-17,9, そこで私は、主よ示したもうた方法に従い、船をつくる道具をこしらえるためには、どこへ行って溶すべきあらがねを見つけたらよろしいかと言うと、

1ニ-17,10, 主は私がその道具をこしらえるためのあらがねのありかを告げたもうた。

1ニ-17,11, そこで、私ニ-ファイは獣の皮で火を吹くための“ふたご”を1つ作り、それができてから火を出すために2つの石を撃ち合せた。

1ニ-17,12, それはこれより前私たちが荒野の中を旅していた時に、主が私たちに多くの火を用いさせたまわなかったからであって、主は私たちに“われは汝らの食物の旨くする故に、汝らはその食物を料理するために火を使うに及ばず。

1ニ-17,13, われは荒野の中にて汝らの光とならん、もし汝らわが命令を守らば、われは汝らの前に道を備うべし。故に汝らわが命令に従わば約束の地に導かれ、かくして汝らを導く者のわれなることを知り”と仰せになったからである。

1ニ-17,14, 主はまた“汝らその約束の地に着かば汝らは主なるわれの神なることを知り、また主なるわれが汝らの亡びんとするところより救い出し、まことに汝らをエルサレムの地より導き出したることを知るべし”と仰せになった。

1ニ-17,15, それで私ニ-ファイは主の命令を守ろうと自らはげみ、また私の兄たちにも忠実であり勤勉であるようにすすめた。

1ニ-17,16, さて私は岩石から溶し出したあらがねで道具をつくったが、

1ニ-17,17, 私の兄たちは私がまさに1隻の船をつくらうとするのを覚ると、私に向ってつぶやき始めて言うのには“われらの弟はおろか者である。それは自分1人で船をつくることができると思い、またまことにこの大海を自分で渡れるとも思っているからである”と。

1ニ-17,18, かように私の兄たちは私に向って不平を言い、私がよく船をつくることのできるのを信ぜず、また私が主に教えを受けたことを信じようとしなかったから、自分たちが骨折って働かなくてもよいようにと心に願った。

1ニ-17,19, それで私ニ-ファイは、兄たちの心がかたくなであるために非常に悲しかったが、さて兄たちは私の悲しく思い始めるのを見ると、心の中でよこばしく思うから私の悲しむのをうれしく思い“われらは汝によい智恵が足りないのを知っているから、汝に船がつくれない

1ニ-17,19-1, 解っている。従って汝はそんな大仕事をなし遂げることはできない。

1ニ-17,20, 汝は自分の心の愚な空想にまどわされたわれらの父と同じような者である。父がまことにわれらをエルサレムの地つれ出したために、われらはこの永の年月荒野の中にさまよってきた。そしてわれらの妻は身重になって大いに苦しんで旅をつづけ、荒野の中で子供たちを

1ニ-17,20-1, わずかに死ななかつただけであらゆる苦しみに逢った。かれらは、このように苦しみに逢うよりも、エルサレムを出る前に死んだ方がよかつたであろう。

1ニ-17,21, 見よ、われらはこの永の年月荒野の中で苦しんできたが、この年月の間にわれらは自分たちの財産を保ち、受け嗣ぎの地を持って居ろうと思えば居れたし、またそうしてしあわせに暮した方がよかつたであろう。

1ニ-17,22, われらは、エルサレムの地に居た民はモーセの律法により主の法令と裁決とすべて主の命令とに従っていたから、義しい民であることを知っている。しかるにわれらの父は自分で判断を下し、われらがまた父の言葉を聞き入れたからわれらをエルサレムからつれ出した。

1ニ-17,22-1, まことにわれらの弟ニ-ファイは父のような者である”と言った。そして、こう言う風の言葉で私の兄たちはぶつぶつぶやき父と私に向って不平を言ったのである。

1ニ-17,23, そこで私ニ-ファイは兄たちに向って“あなたたちは、イスラエルの子孫である私たちの先祖が、もしも主の言葉に聞き入れなかったならエジプト人の手から導き出されていたであろうと信ずるか。

1ニ-17,24, まことにあなたたちは、もしも主がモーセに私たちの先祖を奴隷の身の上から導き出すように命じたまわなかったなら、先祖は奴隷の身の上から導き出されていたであろうと思うか。

1ニ-17,25, あなたたちは、すでにイスラエルの子孫が奴隷になっていたことを知り、かれらが堪え難いほどの苦役

を負っていたことを知っている。それであるから、かれらが奴隷の身の上から救い出されることは、必ずかれらにとって幸福であるに違いないことを知っている。

1ー17,26,あなたたちはすでにモーセがああ偉大な仕事をせよと主に命ぜられたのも、またモーセの言葉によって紅海の水が右と左にひきわかれ、イスラエルの子孫が乾いた土地を渡って海を渡ったところが、

1ー17,27,パロの軍勢であるエジプト人らが紅海で溺れたことも、

1ー17,28,その後イスラエルの子孫が荒野で食物としてマナを与えられたのも、

1ー17,29,モーセが自分の身に宿る神の権能によって命令を発して岩を打ったところ水が湧き出し、これを飲んでイスラエルの子孫が渇きを止めたことも知っている。

1ー17,30,イスラエル人の主なる神、イスラエルの贖い主はかれらに先だつて進み、昼はこれを導き夜はこれに光を与え、人が受けて幸福になるあらゆることをかれらのためになしたもうた。それにもかかわらずイスラエル人はそのところをかたくなにし、その智慧を暗くしてモ

1ー17,30-1,モーセとまことの生ける神に向ってののしりの言葉を出した。

1ー17,31,それで神はその言葉によってイスラエルの子孫を亡ぼし、その言葉でこれを導き、その言葉でかれらのためにあらゆることをなしたもうた。神の言葉によらないで行われたことは何事もないのである。

1ー17,32,そしてイスラエル人はヨルダン川を渡ってからその地に住む者たちを追い散らして、ほんとうにかれらを亡ぼすまで主によって兄弟になったのである。

1ー17,33,さてあなたたちはその地すなわち約束の地に住んでいて、しかも私たちの先祖に追い出されたその土地の人々を義人だと思うか、ごらん私は義人ではないと言う。

1ー17,34,かれらがもしも義人であったなら、私たちの先祖はさらに選りぬきの貴い者であったとあなたたちは思うか。いや、私は貴い者ではないと言う。

1ー17,35,ごらん、主はあらゆる人間を公平に見たもうて、義しい者は神から祝福を受ける。ところがごらん、この民はあらゆる神の言葉をはねつけて罪悪が熟しているから、神のはげしい怒りがかれらに下った。主はかれらに対してはその土地をのろいたもうが私たちの先祖のた

1ー17,35-1,先祖のためにはその土地をのろいたもうが私たちの先祖のためにはその土地を祝福し、まことにかれらに対してはその土地をのろって住む者を亡ぼしたもうが、私たちの先祖のためにはその土地を祝福してこれを手に入れる力を与えたもうた。

1ー17,36,ごらん、主は人が住むために大地をつくり、これを所有させるために自分の子らをつくりたもうた。

1ー17,37,そして主は義しいことをする1国民を起して悪いことを行う諸国民を亡ぼし、

1ー17,38,義しい者たちを貴い地へ導いて行った悪人たちを亡ぼし、また悪人たちのためにその土地をのろいたもうのである。

1ー17,39,天は主の御座であるから主は高く天に在って支配したまい、この大地は主の足台である。

1ー17,40,そして主は、主を自分たちの神と仰ぐ心のある人々を愛したもうのである。ごらん、主は私たちの先祖を愛して誓約を結びたまい、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブらと誓約を結びたもうて、後にこの誓約を忘れずに私たちの先祖をエジプトの力つれ出して下さった

1ー17,41,しかし、かれらはちょうどあなたたちのように心をかたくなにしたから、主は荒野の中で棒をもってかれらの罪を罰し、かれらの曲がっているのを直し、火のように飛び蛇をかれらの中につかわしたもうた。しかし、かれらがかまれたあとでこれを癒す方法は備えて置き

1ー17,41-1,そして癒されるための骨折りといえ、ただ目を剥けて見るだけのことであったが、この骨折りが簡単で容易であったがためにかえって死んだ者が多かった。

1ー17,42,そしてイスラエル人は時々その心をかたくなにし、モーセに向ってまた神に、向ってののしった。それにもかかわらず、かれらが神のたぐい御力によって約束の地に導かれて行ったことはあなたたちがよく承知している。

1ー17,43,さてすべてこれらのことがあってから、イスラエルの子孫はよこしまになってその罪悪がほとんど熟する時節がきているので、今日にもまさに亡ぼされるかも知れない。それはとらわれの身となってよそへつれて行かれるただ僅の者をのぞくほかには、かれらが亡ぼされ

1ー17,43-1,かれらが亡ぼさなければならぬ日が必ずくるにちがいないことを、私は知っているからである。

1ー17,44,それであるから、主は私の父に荒野へ出て行くように命じたもうた。またそれはユダヤ人が父の命をとろうとしていたのもあるが、あなたたちもまた父の命をとろうとしたことがある。それだから、あなたたちは心の中で人殺しをしたのであって、ユダヤ人と同様であ

1ー17,45,あなたたちは悪事をするのは早いけれども、あなたたちの神である主を思い起すのはおそい。あなたたちは、これまで1人の天使はまたあなたたちに言葉をかけた。まことにあなたたちはその御声を時々聞いている。その時それは静かな細い声で話したもうたが、あなた

1ニ-17,45-1,あなたたちはなんらの感じもなかったのものでその御声を感じることができなかった。それでそれは雷のような声であなたたちに語りたまい、その声はあたかも引き裂かんばかりに大地をゆり動かした。

1ニ-17,46,またあなたたちは主がその全能の言葉の力をもってこの大地を消えうせさせ、まことにその言葉によって高低のあるところを平にし、平まところを崩したもうことができるのを知っている。ああ、それならばあなたたちはなぜあなたたちの心をかたくなにするのか。

1ニ-17,47,ごらん、私の心はあなたたちによって裂けるばかりに苦しみ私の胸は痛む。私はあなたたちが永久にうち捨てられはしないかと思うのである。"ごらん、私は神の"みたま"に満されてからだの力がなくなっている"。

1ニ-17,48,私がこれらの言葉を行った時、兄たちは私に腹を立てて海の深みに私を投げ込もうと思った。そして、兄たちが私を捕えようとして近よってきた時に、私は"全能の神の御名によって命ずる、私に手を触れるな。私は身も燃えんばかりに神の力に満たされているから、私

1ニ-17,48-1,私に手をかける者は誰でも乾いた芦のように枯れてしまうからである。また神がかれを打ちたもうから、神の力の前には有れども無きがごとくになるであろう"とかれらに言った。

1ニ-17,49,そしてまた私ニーファイは兄たちにこれから父に向って不平を言ってはならないこと、また神が私に船を造れと命じたもうたから私と共に働かなくてはならないことなどをすすめた。

1ニ-17,50,私はまた"もしも神が私にするように命じたもうならば私はあらゆることをすることができる。もし、神が私にこの水よ土になれと言え、と命じたもうならば、水は土になるから、私がもしそう言えばその通りになる。

1ニ-17,51,さてもし、主がこのように偉い力をもちたもうて、かほどに多くの奇跡を世の人々の中で行いたもうているならば、どうして私に1隻の船を造ることをお教えになれないであろうか"とも言った。

1ニ-17,52,私ニーファイは、兄たちに多くのことを言ったので兄たちは言い伏せられて私と言い争うことができず、それから長い間にもあえて私に手をかけず指1本私に触れようとしなかった。それは神の"みたま"が非常に力強くましましたから、兄たちは私の前に枯れしぼむ

1ニ-17,52-1,枯れしぼむことをおそれて、あえて以上のことをなし得なかったのである。神の"みたま"はこれほどまでにかれらの心に響いたのであった。

1ニ-17,53,さてまた主は"汝の手をまた汝の兄らに向けて申べよ。さらばかれらは汝の前に枯ることなからんも、われはかれらの身を震わすべし。かくするは、われが主なるかれらの神なることを知らしめんためなり"と仰せになった。

1ニ-17,54,そこで私が手を兄たちへ伸すと、兄たちは私の前に枯れはしなかったが、主は前に言いたもうた通りかれらの身を震わせたもうた。

1ニ-17,55,ここにおいて、兄たちは"このようにわれわれの身が震えたのは主の御力であることを知るによって、たしかに主が汝と共にいますことがわかる"と言い、私の前に平服して今や私を拝もうとした。しかし、私はそれをさせないで私は汝の兄弟である。いや弟ではない

1ニ-17,55-1,それであるから、汝らは主なる神を拝して主の賜わる地に幾久しく暮らすよう汝らの父母を敬えとかれらに言った。

1ニ-18,,ニーファイ第1書 第18章

1ニ-18,\*-\*、船が完成した。ヤコブとヨセフのこと。航海を始めた。おどり歌う大さわぎと反逆。海上の嵐。約束の地へ着く。

1ニ-18,1,さて私の兄たちは主を拝して私と一しょに出かけて行き、材木を珍しい形に加工したが、主はたびたび船材の造り方を私に教えたもうた。

1ニ-18,2,さてまた私ニーファイは、人の知ったやり方で材木を加工することもなく、また人のやり方で船をつくりもしなかった。私は主が私に教えたもうた方法で船をつくったから、その船は人のつくるものとはちがっていた。

1ニ-18,3,私ニーファイは度々山の中へ行って度々主に祈ったので、主は私に偉大なことを示したもうた。

1ニ-18,4,さて私が主の言葉に従って船をつくり上げてしまうと、私の兄たちはそのできのよいのを眺め、しかもその手ぎわが非常に立派なのを見たからまた主の御前にへりくだった。

1ニ-18,5,やがて主の御声が私の父に聞こえ、一同起って船に乗れと言いたもうた。

1ニ-18,6,そこでそのあくる日、野の中からとった多くの木の実と食べる肉とまた多くの蜂蜜と、そのほか主がわれわれに命じたもうたような食料を容易するなどあらゆる準備を終ってから、全部の荷物と種子とを持ち、また各がその年齢に応じて携帯してきた一切の品物を持ち、

1ニ-18,6-1,妻子を引きつれて一同船に乗り込んだ。

1ニ-18,7,さて私の父は荒野にいた間に2人の息子をもうけていたが、その兄をヤコブと言い弟はヨセフに言った。

1ニ-18,8,私たちは命ぜられた食糧と品物とを共に携え、一同船に乗り終ると海に乗り出し、約束の地を指して追風に送られて走ったのであった。

1ニ-18,9,さて、追風に吹き送られてすでに多くの日がたってから、ごらん私の兄たちとイシメルの子息たちおよびその妻たちはみな自分たちをここまで導きたもうた全能者を忘れるほどに心が浮れ、果ては非常に粗暴となるに至った。

1ニ-18,10,そこで私ニファイは、主が怒りたもうて悪い行いのために私たちをこらしめたまい、そのため私たちは海の深みみのまれてしまいはしないかと非常に恐れる心を起し兄たちを全く真剣に戒めた。ところがごらん、兄たちは私に腹を立てて“われらは年下の弟に支配され

1ニ-18,10-1,支配されたくない”と言った、

1ニ-18,11,レーマンとレミュエルが2人してわたしをとらえ、縄で私をしぼり情けようしやもなくとりあつかった。それにもかかわらず、主は悪人たちについてかねて仰せになっていた言葉を成就して、主の道からを現わして見せたもうためにこれをだまらせて置きたもうた。

1ニ-18,12,さて、レーマンとレミュエルの2人が私をしぼって動けなくしてしまうと、主がつくりたもうた羅針盤の働きがびたりと止まってしまった。

1ニ-18,13,それであるから、かれらはどちらへ船を向けてよいか向けてよいか解らず、その上嵐が起って一大暴風となり、3日の間海上をもと来た方へ吹きかえされたから、かれらは海に溺れはしないかと非常に恐れ始めた。しかし、それでも私の縄を解いてはくれなかった。

1ニ-18,14,ところが風に吹きかえされた4日めに、嵐が非常にはげしくなり始め、

1ニ-18,15,私たちは今やまさに海の深みにのまれようとするに至った。私たちはすでに4日の間海の上を吹きかえされて、私の兄たちは今や神の罰が自分たちにきているから、自分たちの罪悪を悔い改めなければ亡びてしまうにちがいないことを覚った。それで兄たちは私のところ

1ニ-18,15-1,ところへきて私の手首をしぼっていた縄を解いたが、ごらん、私の両の手首は大きくはれあがり、私の両の足首もまたひどくはれてその痛みはまことに甚だしかった。

1ニ-18,16,それでも私は私の神を頼んで1日中神を讃美し、私の逢った苦しい目に向って不平を言うようなことはしなかった。

1ニ-18,17,私の父レーハイは、私の兄たちにすでにさまざまとし聞かせ、イシメルの子息たちにもさまざまとしたのであるが、ごらんかれらは誰でも私をとりなす人に向ってひどくおどかしの言葉を吐いたそれで私の父母は年もすでにとり、その子供たのために大そう悲しい目

1ニ-18,17-1,逢ったのでとうとう病の床に倒れた。

1ニ-18,18,もことに父母は深い憂いと大きな悲しみと、私の兄たちの悪い行いとのために、ほとんどこの世を去ってかれらの神と顔を合わせんばかりとなった。まことにわが父母のしらがあたまはまさに低く垂れて塵の墓に、いな悲しくも大海の墓に葬られようとするにさえ至った

1ニ-18,19,ヤコブとヨセフもまた当時幼くて乳がたくさんに要ったのでその母の悩みによって共に苦しみ、また私の妻子女たちもあるいは涙を流しあるいは祈りをしたのであるが、私の兄たちの心を和らげ解き放つには至らなかった。

1ニ-18,20,そして、今は兄たちを亡ぼすとおどしたもうた神の道からのほかには、何も兄たちの心を和げ得るものはなかったが、兄たちは自分が今や海の深みにのまれようとするのを見ると、今までの行いを悔い改めて解き放った。

1ニ-18,21,さて、兄たちが私を解き放った後、ごらん、私がああ羅針盤を手にとるとそれは私の心が望むように方角を指した。この時私は主に祈りを捧げたが、私が祈ってしまうと風がなぎ嵐がおさまり、天候はきわめておだやかになった。

1ニ-18,22,そこで私ニファイは船の舵をとって再び約束の地に向って海上を進んで行った。

1ニ-18,23,かようにして、私たちは海上に何日も何日も暮らした後、ついに約束の地に着き、陸に上って天幕を張りその地を約束の地と名づけた。

1ニ-18,24,やがて私たちは土地を耕し種子を蒔く仕事にとりかかったが、エルサレムから私たちが持ってきた種子をみな地に蒔いたところ、この種子がよく芽を出し非常によく伸びて茂ったので、私たちは多くの祝福を受けた。

1ニ-18,25,また私たちは野の中を旅したが、この約束の地には森の中にあらゆる種類の獣すなわち牝牛も牝牛もろばも馬も山羊も野山羊も、そのほか人の役に立つあらゆる野獣がいるのを見つけた。また私たちは金、銀、同等あらゆる種類のあらがなも見つけた。

1ニ-19,,ニファイ第1書 第19章

1ニ-19,\*-\*,ニファイがつくったその民の記録。いろいろの予言者をあげる。ゼノスとからの予言。

1ニ-19,1,ここに主が私に命じたもうたから、私は私の民の記録を刻むために金で版をつくり、つくったその版の上に私の父の伝記と私たちが荒野に旅をした時の記録と父の話した予言と、また私自身が話した多くの予言などを刻みこんだ。

1ニ-19,2,私がこの版をつくった時には、主がこの版をつくれと命じたもうとは知らなかった。それであるから、私の父の伝記とその先祖の系図とすべて私たちが荒野でした行動の大部分は、私が先に言った第1の版の上に刻んである。従って私がこの版をつくる前に起ったことは

1ニ-19,2-1,まことに一そうくわしく第1の版に述べてある。

1ニ-19,3,私がこの版を主の命令によってつくった時、私ニ-ファイは教会の仕事のことと予言との中で、はっきりしていて貴重な部分をこの版に刻むように、またこの版に刻んだことはこれからこの土地を所有する私の民を教える目的と、主の知れたもうそのほかの賢い目的との

1ニ-19,3-1,保存するようにとの命令をたまわった。

1ニ-19,4,これを以て私ニ-ファイは、私の民の戦と不和と滅亡の顛末を一そうくわしく述べる記事をほかの版に記録した。私はこれを記録してしまってから、私の民に私の死んだ後になすべきことを命じ、また主が追って命じたもうまでは、この版を子孫代々ゆずり伝えまたは予

1ニ-19,4-1,呼べんやから予言者へゆずり伝えよと命じた。

1ニ-19,5,私はまたあとからこの版をつくった次第を話すから、今は私がこれまで話したことに従って書き進める。それは最も神聖なことを保ち伝えてわが民に知らせたいと思うからである。

1ニ-19,6,さりながら、私は神聖であると思うことでなければ、何ごともこの版に書き記さない。そこでもしも私が誤りをするならば、昔の人でも誤りをしたのであるけれども、他人の例を引いて申しわけをしようとは思わないで、ただ肉体をもつ者の習いである弱さのために申し

1ニ-19,6-1,申しわけをしたいと思うのである。

1ニ-19,7,そもそも、ある人々が肉体にも霊にも大いに価値があると思うことを、ほかの人々がこれを何とも思わないで足の下に踏みつけることがある。まことにもったいなくもイスラエルの神をすら人々は下に踏みつけているのである。足の下に踏みつけているとは言葉をかえて

1ニ-19,7-1,イスラエルの神を何とも思わず、その戒めの声に聞き従わないと言うことである。

1ニ-19,8,ところがごらん、天使の言葉によればイスラエルの神は私の父がエルサレムを立ち去ってから600年たつと来りたもう。

1ニ-19,9,しかるに世の人々は自分たちの悪事のためにイスラエルの神をつまらぬ者と判断して神を鞭つが神はこれを忍びたもう。人々は神を打つが神はこれを忍びたもう。まことに人々は神に唾を吐きかけるが、神は人間に対して慈悲と堪忍に富みたもうから、これまでも忍びた

1ニ-19,9-1,忍びたもうのである。

1ニ-19,10,われらの先祖の神、すなわちわれらの先祖を奴隷の有様から救ってエジプトからつれ出し、荒野の中でこれを守りたもうた神、すなわちアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は天使の言葉のようにあたりまえの人間として悪人たちの手にその身をゆだねたもうて、ゼ

1ニ-19,10-1,ゼノクのようにはりつけにかけられ、ニ-アムの言葉のように十字架につけられ、ゼノクの言葉のように墓に葬られたもうのである。ゼノスは海の島々に住む者たち、ことにイスラエルの家の者たちに、神の死にたもう時のしるしとして現われる3日間の暗黒につ

1ニ-19,11,予言者ゼノスは行った”その日、主なる神は必ずイスラエルの家のすべての者に臨みたまひ、ある者にはかれらが義しいから御声を賜うて大きな喜びと救いとを与えたもうが、またほかの者には御力の起す雷鳴と電工そのほか暴風、火、煙、暗黒の霧、地震のために裂け

1ニ-19,11-1,移される山々によって現われたもう。

1ニ-19,12,これらのことはみな必ず起るのであって、地の岩は必ず裂け崩れ、大地が鳴りひびくによって海の島々にある多くの王は神の”みたま”に感動して”宇宙万有の神これをなしたもう”と叫ぶ。

1ニ-19,13,エルサレムにある人々と言えば、これはイスラエルの神を十字架につけ、自分たちの心をそむけてしるしも奇跡もまたイスラエルの神の能力と光栄をも顧みないから、世の人すべてに苦しめられる。

1ニ-19,14,またその心を背けてイスラエルの聖者をないがしろにするために、肉体でさまよい歩いて亡び失せ、万国の民の口の端にかかり笑いぐさとなり憎まれる。

1ニ-19,15,さりながら、かれらがイスラエルの聖者にもはや心を背けて逆らわない日になれば、その時には神はかれらの先祖と結びたもうた誓約を忘れたまわらない。

1ニ-19,16,まことにその時に神は海の島々を忘れたまわらない。まことに主は、予言者ゼノスの言葉に応じてイスラエルの家に属する民をことごとく地の4方より集めようと仰せになる。

1ニ-19,17,ここにおいて全世界の人々は主の救いがわかりあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、およびあらゆる人々がことごとく祝福されるのである”と。

1ニ-19,18,そもそも私ニ-ファイがこれらのことをわが民に書き伝えるのは、かれらに勧めてかれらの贖い主である主を忘れぬようにさせるためである。

1ニ-19,19,それであるから、もしもこれらの記録がイスラエルの家のすべての者に伝わるならば、私がかれらにも告げるのである。

1ニ-19,20,ごらん、エルサレムにいる人々のために私の精神は立ちさいわいでいるから、全身の関節がことごとくゆるむほどにさえ私は疲れている。何となれば、もしも主が昔の予言者に示したもうた通り私を憐れんでエルサレムにいる人々のことを私にも示したまわなかったなら

1ニ-19,20-1,私もまた同じように亡びてしまっていたからである。

1ニ-19,21,しかも、主は確かにエルサレムの民にかかわるすべてのことを昔の予言者たちに示したまい、また私たちにすることも多くの予言者に示したもうた。それでこれらのことはあの真鍮版にのっているから、私たちは必ずこれを知らなくてはならない。

1ニ-19,22,さて私ニ-ファイは私の兄弟たちにこのことを教え、また主がほかの地で昔の民の中でなしたもうたことを知らせるために真鍮版に刻んである多くのことを読み聞かせた。

1ニ-19,23,私はまたモーセの書に記してある多くのことを読み聞かせたが、かれらの主なる贖い主を信ぜよと言うことを一そう切に勧めるために、予言者イザヤ記したことを彼らに読み聞かせた。そのわけは私たちの学問と利益になるように、すべての聖文を私たちのためと見立て

1ニ-19,23-1,見立てたからである。

1ニ-19,24,それであるから私は兄弟たちに“この予言者の言葉を聞け、イスラエルの家の残った子孫であって、元木から折りとられた枝であるあなたたちよ聞け。イスラエルの家のすべての者に書かれた予言者の言葉を聞き、あなたたちが別れて来た兄弟たちと同じ様に望みを抱く

1ニ-19,24-1,望みを抱くためにその言葉を自分たちに言った言葉と考えよ。この予言者はそう言う風に記しているからである”と追って聞かせた。

1ニ-20,,ニ-ファイ第1書 第20章

1ニ-20,\*-\* ,真鍮版の上に記録された予言。イザヤ書第48章と比べよ。

1ニ-20,1\*2,イスラエルと呼ばれてユダの水からすなわちバブテスマの水から出、主の御名によって誓い、イスラエルの神を口にしながら、真実をもって誓わず義しきを以て誓わず自ら聖い都の者であると言いながら万物の主であるイスラエルの神(イスラエルの神の御名はすなわち

1ニ-20,1\*2-1,に依り頼まぬヤコブの家よ、これを聞け。

1ニ-20,3,見よ、われはすでに過ぎ去ったことを世の始めから示した。それらのことはわが口から出してこれを示した。われはまことにわかにかれを示したのである。

1ニ-20,4,それは、われは汝らがからくなであってその首の筋が鉄でありそのひたいが真鍮であることを知るからである。

1ニ-20,5,それ故にわれは始めから汝らに事を述べ、それらの事が起るに先立ってこれを汝らに示した。かように示したのは汝らをして“わが偶像はこれらのことをした。わが刻んだ像とわが鑄た像はこれらのことを命じた”と言わせないがためである。

1ニ-20,6,汝らはすでにみなこれらの事を見これらを聞いている、しかるに汝らはこれらを宣べ伝えないのか。また汝らはわれが始めから新たなこと、汝らがいま知らなかった隠れたことを汝らに現わしたが汝らはこれが解らなかつたか。

1ニ-20,7,わが示したことは今成就したのである。始めから成就したのではない。しかしわれは汝らが解る前にすでにこれを汝らに告げた。これは汝らに“われはすでにこれを知っている”と言わせないためである。

1ニ-20,8,われは汝らが甚しく二心のある行いをなし、生れながらそむく者と呼ばれることを知っているから始め汝らに知らせることも解らせることもなく、始めから汝らの耳を開かせなかつた。

1ニ-20,9,しかしわれはわが名のためにわが怒りを猶予し、わが誉のために罰をさしひかえて汝らを絶ち亡ぼすことをしまい。

1ニ-20,10,見よ、われはすでに汝らを清煉し、艱難の炉に入れて汝らを試しかつ選んだからである。

1ニ-20,11,われはわがためにこのようにする、まことにわがためにこのようにする、それはわれはわが名の汚されるのをゆるさず、またわが栄光を他の者に与えたまいとするからである。

1ニ-20,12,ヤコブよ、わが召を受けたイスラエルよわれに聞け、われは神である。始めにしてまた終りである。

1ニ-20,13,わが手は地の基を据えた、わが右の手は天を測った。われが天地を呼ぶならば天地は共に立つであろう。

1ニ-20,14,イスラエルの家よ集って聞け、予言者らの中でこれらのことを汝らに宣べ告げたのは誰か。主はその人を愛したもうた。その人はまことに予言者らの宣べ伝えた主の御言葉を成就し、主のみこころのままをバビロンに行い、その手をカルデア人の上に下す。

1ニ-20,15,主はまた仰せになる、まことに主なるわれであるわれが命じた。われは宣べ伝えるためにその人を召

しその人を連れてきた。主はその人の道を栄えさせよう、

1ニ-20,16,汝らわれに近ずけ、われは始めからひそかに語ったことはない、なにごとでもその宣言の時からこれを語った。主なる神とその“みたま”がその人を遣わしたもうた。

1ニ-20,17,汝らの贖い主、イスラエルの聖者である主はかように言う。われはその人を遣わした。汝らに益のあることを教え、汝らをその行くべき道に導く汝らの主なる神がこれをなした。

1ニ-20,18,ああ汝らイスラエルはわが命令に聞き従ったらよかつたものを、しからば汝らの平安は川のように、汝らの義は海の波のように、

1ニ-20,19,汝らの子孫は砂のように、汝らは腹から生まれる子はいさごのように数多くなって、その子の名はわが前から断ち切られることもなく、消えてなくなることもなかったであろう。

1ニ-20,20,汝らバビロンから出よ、カルデヤ人から逃れよ歌声をもって宣べ伝え、地の端に至るまで言い伝え、主はその僕のヤコブを贖いたもうたと言え。

1ニ-20,21,ヤコブの族は渴いたことがなかった。主がこれを導いて砂漠を行かせ、かれらのために岩から水を流れ出させたもうた。岩を打ち割ると水がほとばしり出たのである。

1ニ-20,22,主はすべてこのようなことだけでなく去らに大きなことをなしたもうたが、それでも悪人には平安がないと仰せになった。

1ニ-21,,ニ-ファイ第1書 第21章

1ニ-21,\*-\*、真鍮版の上に誌されたままのイザヤの書、つずき。イザヤ書第49章と比較せよ。

1ニ-21,1,再び言う、汝らイスラエルの家の者よ、わが民の牧者らが罪悪を犯したために折り去られ追い出された汝らは、みなわが民に属するイスラエルの家の者である。4方に散らされたものである。もろもろの島よ、われに聞け、もろもろの民よ、遠い所から耳を傾けよ。われ

1ニ-21,1-1,われが母の体内に宿った時に主はすでにわれを召し、われが母の胎を出ないうちに主はすでにわが名を語り告げたもうた。

1ニ-21,2,主は、わが口を鋭い剣のようになし、御手の蔭にわれを隠し、われをとぎすました矢となしてそのえびらに隠したもうた。

1ニ-21,3,そしてわれに言いたもうた、イスラエルよ、汝はわが僕である。われは汝によって栄えを得ようと。

1ニ-21,4,それでわれは答えて“われはいたずらに働き、益なく空しく能力を費やした。しかしまことにわが裁きは主が定めたもう、わが働きはわが神が知りたもう”と言った。

1ニ-21,5,われがなお体内にあったときから、ヤコブを再び主に連れて来させるためにわれを定めてその僕となしたもうた主は言いたもう。イスラエル人がたとえ集められなくとも、われは主の前に栄光を得わが神はわが力となると。

1ニ-21,6,また言いたもう。ヤコブのもろもろの支族を起し、イスラエルの保存された子孫を元に復させるために汝をわが僕とするは小さいことである。われはまた汝を異邦人に光として遣わし、世界のはてにいたるまでわが救いをひろめる者としよう。

1ニ-21,7,主なるイスラエルの贖い主イスラエルの聖者は次の如く言いたもう。人にいやしめられる者、もろもろの民の忌み嫌う者、治める者の僕たちになる者は、真実なる主のためにもろもろの王がこれを見て立ち、もろもろの往時もまたこれを拝する。

1ニ-21,8,主はまた次の如く言いたもう。もろもろの島よ、われはここに適うた時に汝らにこたえ、ある救いの日に汝らを助けた。われはこれから汝らを守り、民の誓約としてわが僕を汝らに与え以て世界を建て荒れすたれた受け嗣ぎの地をつがせよう。

1ニ-21,9,されば、汝らはとらわれ人に出よと言ひ、暗い所にいる者に現われよと言ひすることができる。かれらは道にあって食物を食い、その牧場はみな高い所にある。

1ニ-21,10,かれらは飢えず渴かず暑さにも日の光にもかかれらは苦しまない。かれらを憐れむものがこれを導いて泉のほとりにつれて行くからである。

1ニ-21,11,われはわがもろもろの山をことごとく道となし、わが大路を高くする。

1ニ-21,12,イスラエルの言えよ、その時が来ればこれらの者は遠い所から来、これらの者は北から来、西から来、まらこれらの者はサイニムの地からくる。

1ニ-21,13,天よ唱え、地よよろこべ、東に居る人々の足が確かに定まるからである。もろもろの山よ唱い出せ、これらの者はもはや打たれることがない。主はその民を慰めその苦しむ者を憐れむからである。

1ニ-21,14,しかるに見よ、シオンは言った。主はわれを捨てたもうた、わが主はわれを忘れたもうたと。しかし、主はそうでないことを証明する。

1ニ-21,15,およそ母であって自分の生んだ子を憐れまないほどその乳児を忘れることができるであろうか。たとえかれらが忘れようとも、イスラエルの言えよ、われは必ず汝らを忘れない。

1ニ-21,16,見よ、われはわが掌に汝らを彫り刻んだ。汝らの石垣はたえずわが前にある。

1ニ-21,17,汝らの子らは取り急いで汝らを亡ぼす者に立ち向い、汝らを荒した者は汝たのために追い出される。

1ニ-21,18,汝ら目をあげてあたりを見廻せ、これらの者は皆寄り集って汝らの所にくる。その時主は言いたもう、汝らは必ずかれらをことごとく身に装って飾りとし、身にまどってはなよめの帯の如くにする。このことはわれの生きているように確である。

1ニ-21,19,汝らの荒れすたれた所とこわされた地は、その時に当ってさえ住む者のために狭すぎる。そして汝らを呑みつくした者たちは遙に離れ去る。

1ニ-21,20,始めの子供らを失ってから次に汝らの持つべき子供らは、再び汝らの耳に言う。この所はわれらにはあまりに狭い、わが住むために所を与えよと。

1ニ-21,21,その時汝らは心の中で言う。われはすでに子供らを失い心淋しくとらわれの身となってここかしこにさまよって歩いたのに、わがためにこれらの子供を生んだのは誰か。誰がこの子供らを養い育てたか。見よ、われは独りのこされたがこの子供らはどこに居たのか。

1ニ-21,22,かように主なる神は宣う。見よ、われは手を異邦人に向ってあげ、わが旗をもろもろの民に向って立てよう。さらば、かれらは汝らの息子たちを手に抱いて来、汝らの娘たちを肩にのせてくる。

1ニ-21,23,もろもろの王は汝らの養父となり、その後らは汝らの養母となって顔を地に向けて汝らの前に平伏し、汝らの足につく塵をなめる。ここにおいて、われが主であることを汝らは知る。われを待ち望む者は恥を受けないからである。

1ニ-21,24,勇士から獲物をどうして取り返せようか。また正当な捕虜をどうして救出せようか。

1ニ-21,25,しかし、かくの如く主は言いたもう。勇士の捕えた捕虜さえも取り返し、荒々しい者の獲物さえも救い出す。われは汝らと争う者と争って汝らの子供らを救うからである。

1ニ-21,26,われは、汝らをしいたげる者にその者たちの肉を食わせる。かれらはまた甘い葡萄酒に酔うように地震の地を飲んで酔う。されば、天下の民は主なるわれが汝らの救主であって、汝らの贖い主、ヤコブの全能者であることを知るのである。

1ニ-22,,ニ-ファイ第1書 第22章

1ニ-22,\*-\*,ニ-ファイ、イザヤの予言を解き明す。約束の地に置ける巨大な異邦人国家の予言。リーハイの子孫、その異邦人に養われること、シオンに逆らって戦う者の運命。

1ニ-22,1,私ニ-ファイが真鍮版に刻んであるこれらのことを読んだ後、私の兄弟たちがやってきて“お前が読んだことは何を指して言うのか。見よ、これらのことは肉体によらず“みたま”によって起る霊に関することで解釈すべきであるか”と私に言った。

1ニ-22,2,そこで私ニ-ファイは兄弟たちに答えて“ごらん、これらのことは“みたま”の声で予言者に示されたものである。およそ“みたま”によってすべてのことは予言者たちに知らされ現世の中で人間に起るのである。

1ニ-22,3,それで、私が読んだことは肉体にも霊にも関係のあることである。それはイスラエルの家はおそかれはやかれ全地の面に散り、また万国の民と入り交るであろうと思われるからである。

1ニ-22,4,ごらん、もうすでにエルサレムにいる人たちにとってゆくえ知れずの者が多くある。まことに全支族の大半はすでによそへつれて行かれ、そして海の島々にここかしこ散り乱れている。私たちはかれらがつれて行ってしまわれたことだけは知っているがそれがどこにい

1ニ-22,4-1,誰も知らない。

1ニ-22,5,これらのことはかれらがすでによそへつれて行かれて以来かれらについて予言せられ、またこれからイスラエルの聖者のために散り乱れるはずのすべての者についても予言されている。それはこれらの人たちがイスラエルの聖者に対してその心をかたくなにするであろう

1ニ-22,5-1,またそれがために万国の民の中に散らされ、すべての人々に憎まれるからである。

1ニ-22,6,さりながら、これらの者が異邦人に養われてから、主は異邦人の上に御手をあげたまい、これらの者を旗として立てたもうそしてこれらの異邦人たちは、イスラエルの子供らを手に抱いて来、娘らを肩に乗せて来る。ごらん、今私が言ったことは主が私たちの先祖と結び

1ニ-22,6-1,誓約がこのようなものであるからである。これはこの世にかかわることであって未来の私たちのことも指し、またイスラエル之家に属するすべて私たちの兄弟らのことも指しているのである。

1ニ-22,7,またこれはイスラエル之家の者がことごとく散り乱れてから、主なる神がこの土地において異邦人の中に1つの巨大な国民を起したまい、この国民のために私たちの子孫が追い散らされる時かくるのを指している。

1ニ-22,8,そして私たちの子孫が追い散らされてから、主なる神は私たちの子孫にとって大そう価値のある驚嘆すべき技を異邦人の中で始めたもう。それであるから、これは私たちの子孫が異邦人に養われ、その手に抱かれ、その肩に乗せてつれて来られるのにとえてある。

1ニ-22,9,またこの驚嘆すべき技は、異邦人にとっても、価値のあることである。これは異邦人のみならずイスラエ

ルの家のすべてにとっても、価値のあることであって'汝の子孫により世界の眷族ことごとく祝福を受くべし'と天の御父がアブラハムと結べたもうた誓約がこれで

1ニ-22,9-1,これではっきりと人に知られるのである。

1ニ-22,10,それで天の御父が万国の民の目の前にその能力を現わしたまわなければ、世界の眷族のことごとくが救われないことを私は私の兄弟たちに知ってほしいと思うのである。

1ニ-22,11,それであるから、主なる神はイスラエルの家に属する者たちに誓約を果しその福音を伝えたまい、かようにしてやがて万国の民の前にその能力を現わしたもうのである。

1ニ-22,12,それであるから、主がイスラエルの家の者たちを束縛の身の上からつれ出したもうから、かれらはその受け嗣ぎの土地に寄り集って人の知らぬ暗黒の生涯からつれ出され、こうしてかれらは主がかれらの救い主かれらの贖い主イスラエルの全能者であることを悟るのであ

1ニ-22,13,そして全地の浮れ女であるあの憎むべき大教会の人々の流した血の責任はそれらの人々の頭に帰する。それはかれらが互いに戦争をして自分の手に持つ剣を自分の頭に落とし、自身の血を飲んで酔うからである。

1ニ-22,14,イスラエルの家よ、汝と戦うすべての国民は互に刃向合い、主の民を陥し入れようとして掘って陥し穴に自分が落ちる。そしてシオンに向って戦う者はことごとく亡び、主の義しい道を曲げたあの大きな浮れ女、あの憎むべき大教会は塵の中にころび倒れてその亡びが

1ニ-22,15,見よ、予言者は言う。サタンがもはや人の心を司ることのできない日が速やかにくる。すべてたかぶる者と悪を行う者がわらのようにになって焼かれる日がじきにくるからである。

1ニ-22,16,神は悪人が義人を亡ぼすのを許したまわないから、あらゆる人が神のはげしい怒りを蒙る日がじきにくる。

1ニ-22,17,それであるから、神がそのはげしい怒りを下したまい義人たちを守るために火をもってその敵を亡ぼさねばならなくとも神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。故に義人はおそれるに及ばない、予言者の言葉に'たとえ火の力を以てするに至るともかれらは救わるべ

1ニ-22,17-1,とあるからである。

1ニ-22,18,ごらん私の兄弟たちよ。これらのことは間もなく必ず起る。真に血も火も烟の霧も必ずくる。しかもこれらのことはこの世界の上で起るに相違なく、すべての人間がイスラエルの聖者に対してその心をかたくなにするならば、肉体をもつこの世の人間にくるのである。

1ニ-22,19,ごらん、義人たちは亡びない。シオンに敵対して戦う者たちがすべて絶ち亡ぼされる時が確かにくるに相違ないからである。

1ニ-22,20,そして主は確かにその民のために道を設けてモーセの言葉を成就したもう。モーセは'汝らの神なる主は、われの如き予言者を1人汝らのために起したもう。かれの汝らに語るころは何事でもこれを聞け、この予言者の言葉を聞かぬ者は、すべて民の中から絶ち切られ

1ニ-22,20-1,と言っている。

1ニ-22,21,さて私ニ-ファイはあなたたちに断言する。モーセの言ったこの予言者とはイスラエルの聖者のことであるから、この方は義によって裁きをなさるのである。

1ニ-22,22,そして義人は散り乱れない者たちであるから恐れるには及ばないが、恐れるのは悪魔の王国であってこれは人の中に立てられる王国、すなわち肉体のあるこの世の人間の中に設けられる王国である。

1ニ-22,23,すべて利を得るために立つ教会も、人を支配する権力を得るために立つ教会も、世の人々の人気を得るために立つ教会も、肉欲を追い求めこの世の物を貪りあらゆる悪事をなす教会も、要するにすべて悪魔の王国に属する教会がおそれてふるえあがる日が速やかにくる。

1ニ-22,23-1,すなわちかような教会は塵の中に引き倒されねばならぬものであり、わらのように焼きつくされねばならぬものである。これは予言者の言ったことばの通りである。

1ニ-22,24,また義人たちは必ずおりの子牛のように導いて行かれ、イスラエルの聖者が主権と異性と能力と大きな栄光とをもって治めたもう日が速やかにくる。

1ニ-22,25,そして聖者は世界の4方からその子らを集め、その羊を数えたもうから羊は聖者を知るのである。それから羊はただ1つの群れとなり、羊飼はただ1人となって、聖者はその羊を養いたまい、羊は牧草を聖者から受けるのである。

1ニ-22,26,また聖者の民が義しいためにサタンは全く無力であり、聖者の民が義しい生活をシイスラエルの聖者が治めたもうから、サタンは民の心を支配する力がなく長年の間開放されることができない。

1ニ-22,27,さてごらん、私ニ-ファイは今あなたがたによく言うておく。これらのことは必ず現世の中に起るにちがいない。

1ニ-22,28,しかしごらん、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、およびあらゆる人々がもし悔改めをす

るならば、イスラエルの聖者によって安全である。

1ニ-22,29,さて私ニーファイは、今まだこれらのことについてもっと言うことをはばかるからこれで終りにする。

1ニ-22,30,それであるから私の兄弟たちよ。ねがわくは真鍮版に記してあることが真理であると信ぜよ。そうすれば、これらのことは人が神の命令に従わねばならないことを証明する。

1ニ-22,31,それであるから、あなたがたは私と私の父だけが神の命令を教えまた証をしたのだと考えるには及ばない。従って、もしもあなたがたが神の命令に従い終りまで堪え忍ぶならば、終りの日に救われることができるのである”と言った正に以上の通りである。アーメン。

2ニ-1,\*-A,ニーファイ第2書

2ニ-1,\*-A,レーハイが死んだ記事、ニーファイ、その兄弟たちに叛かれる。主がニーファイに荒野の中へ立ち去れと警告したもう。荒野を行くニーファイの旅など、

2ニ-1,,ニーファイ第2書 第1章

2ニ-1,\*-\* ,義しい者たちのためには祝福されるが、悪人たちのためにはのろわれる自由の地、リーハイの勧め。

2ニ-1,1,さて私ニーファイが兄弟たちに教えてしまってから、父のリーハイもまた多くの事を兄弟たちに話した。すなわちかれらをエルサレムの地からつれ出すに当り、主がかれらのため偉大な御業を多くなしたもうたころを話し、  
2ニ-1,2,またかれらは大海の上で謀反をしたが、神はかれらを憐みかれらの命を助けて、海の中のにまれないうよになしたもうたことを話し、

2ニ-1,3,それからまたかれらが得た約束の地について、すなわちエルサレムの地から逃れよと言う警告に見えている主の慈悲が深いことを話して聞かせた。

2ニ-1,4,父のリーハイは言った”ごらん、私は示現を受けたが、それによってエルサレムがすでに亡びてしまっていることを知っている。万一私たちがエルサレムに残っていようものなら、私たちもまた亡びてしまっているだろう。

2ニ-1,5,しかし私たちはいろいろの艱難に逢ったにもかかわらず、今や約束の地を手に入れている。これはまことにあらゆるほかの土地に勝って優れた土地であって、主なる神が私の子孫の受け嗣ぐべき地として私に誓約したもうた土地である。まことに主はこの土地を、私と私

2ニ-1,5-1,また主の御手に導かれてほかの国々からここにくるあらゆる人々とに永久に下さると誓約をなしたもうた。

2ニ-1,6,それによって、私リーハイは私の中にある”みたま”の働きによって予言する。すなわち、主の御手によって導かれなければ何人もこの土地には来れない。

2ニ-1,7,それであるから、この土地は主のつれて来たもう者が所有するために神聖にされている。もしもこの人々が、主の与えたもう命令に従って主に仕えるならば、この土地はかれらにとって自由の国となり、従ってここに住む者は決して自由を奪われることがないであろう。

2ニ-1,7-1,もしも自由を奪われるならば、それは彼らの罪悪によるのであって、罪悪がはびこる時地は悪人のためにのろわれるが、義しい者たちにとってはいつまでも祝福をされるからである。

2ニ-1,8,ごらん、この土地を今なお他国の民が知らないようにしておくのは賢いことである。それでなければ、多くの国の民が一ぱいにはびこって、私たちの子孫の受け嗣ぐ土地がなくなってしまうからである。

2ニ-1,9,それであるから私リーハイは、主なる神にエルサレムからつれてこられる人々が、もしも主の命令を守らばこの土地の上で栄え、またあらゆるほかの国の民からも離して守られ、この土地を自分のものとして所有すると言う約束を賜わっている。よって、かれらがもし主

2ニ-1,9-1,主の命令を守るならばこの土地の上で祝福を受け、かれらを苦しめる者もなく、また受け嗣ぎの地を取り上げる者もなく、いつまでも安全に住まうのである。

2ニ-1,10,しかしながらごらん、かれらが主の御手から非常に大きな祝福を受けた後無信仰に陥る日がくる時には、すなわち大地とあらゆる人々が造られたことを知り、世の始めからこのかたの主の為したもうた驚嘆すべき大御業を知り、信仰によってよるずの事を為す能力を与えら

2ニ-1,10-1,この世の始めからの命令をことごとく保ち、しかも主の限りないめぐみによってこの貴い約束の地へつれてこられたのに、ごらん、もしもかれらが居すれ得るの聖者まことのメシヤ、かれらの贖い主であってかれらの神であるお方を捨てる日がくる時には、正しい神の裁

2ニ-1,10-1-1,裁きがかれらに下る。

2ニ-1,11,まことに主はこの地に住む者の中に他国の民をつれて来たもうてこれに力を授けたまい、そしてこn国に住む者の持っている土地を取り上げさせ住民を追い散らさせてこれを懲らしめたもう。

2ニ-1,12,まことに代が移るに従って住民の中には流血の惨事があり大きな禍が下る。それであるからわが子らよ、お前たちは私の言葉を忘れずにまことにそれをよく守ってほしい。

2ニ-1,13,願わくはお前たちが目を覚まして、まことに地獄の熟睡から目覚めお前たちを縛るおそろしい鎖をふり切るように。その鎖は人間たちを縛って、これを永遠の不幸と禍の淵におとし入れるおそろしい鎖である。

2ニ-1,14,目を覚ませ。そしてお前たちは塵の中から立ち上り、ふるえている父の声を聞け、お前たちは父の体をじきに冷ややかなさびしい墓に横たえねばならない。そこから旅人は2度と帰ってくるのできぬその墓の中に。私は日ならずして生きとし生ける者の行く道を行く

2ニ-1,15,しかしごらん、主はわたしを地獄から贖いたもうた。私は主の栄光を見ていつまでもその慈愛の見うでに抱かれています。

2ニ-1,16,私が願うのは、お前たちが主の法令と裁決とを忘れずに守ることであるが、ごらん、これが最初から私の心配していたところである。

2ニ-1,17,私の心は嘆きのためにたびたび重く苦しい。それはお前たちの心がかたくなであるから、主なるお前たちの神が激しい怒りを下したまい、お前たちが追い出されてとこしえに亡ぼされはせぬかと恐れるからである。

2ニ-1,18,あるいはまた多くの世々のろいがお前たちにかかって、剣に見まわれ飢饉に見まわれ憎み嫌われて、悪魔の意志と束縛とにより惑わされはせぬかと恐れるからである。

2ニ-1,19,私の息子たちよ。願わくはお前たちがこのような悲しい目に逢わずに主に選ばれた愛せられる民となるように。しかしながらごらん、主の履みたもう道は永久に義しいのであるから、みこころのままに為したまわんことを。

2ニ-1,20,主齒'汝らが命令を守らば地に栄ゆべし。されど、汝らわが命令を守らずば、わが前より追い出さるべし'と仰せになった。

2ニ-1,21,さて私がお前たちのことを面打て喜びに満ち悲しみ憂いて墓の中に配流ことなくお前たちのために喜び楽しんでこの世を去るよう、わが息子たちよ、塵の中から立ち上がって男らしい者となれ。そして精神をひとつにし心をひとつにして決心を固めあらゆる事に一致拙速

2ニ-1,21-1,これはお前たちが束縛の身の上にならないためであり、

2ニ-1,22,またひどいろいでのろわれないため、また霊も肉体も共に永久に亡びるまで正義の神の怒りを招かないようにするためである。

2ニ-1,23,わが息子たちよ目を覚ませ。そして義のよろいを着よ。お前たちを縛っている鎖をふり切りかくれた暗い境遇から出てちりあきたから立ち上がれ。

2ニ-1,24,もうこれから汝らの兄弟(ニーファイ)に背くな。彼の見た示現はまことに広大な見事なものであつて、彼は私たちがエルサレムを出た時から神の命令をよく守り、神の御手に使われて私たちを約束の地へ導いて来た。

もしもニーファイが居なかったなら、私たちは必ず

2ニ-1,24-1,荒野の中で飢死をしたことであろう。それにもかかわらず、お前たちは彼の生命をとろうとしてまことに彼はお前たちのためにひどく憂い苦しんだ。

2ニ-1,25,それであるから、私はこの後またニーファイがお前たちに苦しめられはせぬかと思つて非常に恐れおののくのである。それと言うのはごらん、お前たちがニーファイを責めて彼はお前たちを支配する力と権威とを得ようとはせず、かえつて神の栄光とお前たち自身の永

2ニ-1,25-1,永遠のさいわいとを求めているのを知っている。

2ニ-1,26,また、みーふぁいが思った通りをはっきり言ったのでお前たちは不平を鳴らして、彼はきびしくした、彼は自分たちに怒ったなどと言うが、ごらん、彼がきびしいのはニーファイに宿った神の言葉の力のきびしさによるのであつて、またお前たちの言う怒りは神にそなわ

2ニ-1,26-1,外ならない。それをニーファイは自らおさえることができなくて、お前たちの悪事についてはばからずにいさめたのである。

2ニ-1,27,彼はまたお前たちに従わねばならぬとさえ命じたが、これまでに神の権力を彼がもつのは実に必要なことであつた。しかしごらん、こうさせたのはニーファイではなくて彼に宿った主の"みたま"である、それがニーファイの口を開いて語らせるので、かれは口をつぐむ

2ニ-1,27-1,つぐむことができなかつたのである。

2ニ-1,28,さて、私の子のレーマン、レミュエル、サームならびにイシメルの息子である私の子たちよ。ごらん、お前たちがもしもニーファイの言うことに聞き従えば亡びないであろう。そしてもしもこれに聞き従う心があるならば、私はお前たちに私の持っている第1等の祝福を

2ニ-1,28-1,伝えてのこそう。

2ニ-1,29,しかし、もしもお前たちにこれを聞く心がないならば、私はまことに私の第1等の祝福を取り上げてこれをニーファイに伝える。

2ニ-1,30,さてゾーラムよ、汝に言うがよく聞け、汝はレーバンの僕であつたが、それにもかかわらずエルサレムの地からつれてこられ、今は私の息子のニーファイにとっていつまでも変わらぬ真の伴であることを私は知っている。

2ニ-1,31,それであるから、汝が忠実であつたために汝の子孫はニーファイの子孫と一しょに祝福を受けて、永らくこの地の住んで栄える。そして汝の子孫の中に悪事が行われなければ、汝の子孫がこの地の上で栄えるのをきずつけて乱す者はいつまでもない。

2ニ-1,32,それでももしも汝が主の命令に従うならば、主はこの地を神聖にしたもうて、汝の子孫を私の息子の子孫と一しょに安全に守りたもうのである”。

2ニ-2,,ニーファイ第2書 第2章

2ニ-2,\*-\*,リーハイの息子ヤコブにカタル。よろずの事には、その反対のものがなければならぬ。禁断の実と生命の木。アダムの墮落は人間の在らんがためである。人類を贖うためのメシヤすなわち大いなる仲保者。

2ニ-2,1,”さてヤコブよ、よく聞け。汝は私が荒野で艱難をしていた当時の最初に生れた子である。そして汝は幼い時汝の兄たちが乱暴なためにいろいろの艱難に逢い、大そう悲しい目をした。

2ニ-2,2,さりながら荒野で最初に生れた私の子ヤコブよ。汝は神の広大なことを知っている。神は汝の受けた艱難を神聖なものにしてこれを汝の利益にして下さる。

2ニ-2,3,それであるから、汝は祝福を受けて兄のニーファイと一しょに安全に住み、汝の神に仕えて生涯を送るのである、故に私は汝がその贖い主の義によって贖われるのを知っている。それは時が満ちると、人間を救うために贖い主が来りたもうことを汝は知っているからであ

2ニ-2,4,また汝は若い時にすでに贖い主の栄光を見たから、汝は贖い主が肉体で世に出たもう時に主から親しく導きと恵みを受ける人々のように幸福である。それは、“みたま”は昨日も今日もいつまでも同じにましますからである。そして贖いは、人類の始祖が墮落した時から

2ニ-2,4-1,用意せられてあつてしかも救いは無料で自由である。

2ニ-2,5,人は皆善悪をわきまえることを十分に教えられている。人間には律法が与えられていつが、この律法によって何人も義とされる者はない。すなわちこの律法によって人間は追い出されているのである。まことに、肉体に関わる律法によって人間は追い出されてしまった。

2ニ-2,5-1,また霊に関わる律法によって人間は善なるものから立ち亡ぼされ、永久に苦しみを受ける有様となる。

2ニ-2,6,それであるから贖いは聖いメシヤに在りしかも聖いメシヤによって人間に施される。それは、メシヤが恩恵と真理に満ちて居りたもうからである。

2ニ-2,7,ごらん、メシヤは真にへりくだった心と悔いる精神のあるあらゆる人たちのために律法の要求する所に応じようとして、人間の罪を贖うために自分の身を犠牲となしたもうのである。メシヤは上に述べたような人々のほかに誰にも律法の要求する所に応じたまわらない。

2ニ-2,8,それであるから、これらの事をこの世に住まえる人々に聞かせて、聖いメシヤの功德と慈悲と恩恵とに頼らなければ、神の御前二住まえる人が1人もないことを知らせるのは非常に大切ではないか。そしてこのメシヤは肉体の生命を1度捨てたもうが、死者の復活を来ら

2ニ-2,8-1,来らせるためにその後“みたま”の力によって再び生き返り、ほかすべての死者に先立って復活したもう。

2ニ-2,9,これを以てメシヤは神の取り入れたもう最初の実であるが故に、あらゆる人間のためにとりなしをしたもう。召しやを信ずる者は救われるのである。

2ニ-2,10,かつまたあらゆる者にメシヤのとりなしがあるから、人間はことごとく神にくるのであつて、すべての人は神の御前に立ち、神にそなわる真理と聖潔とによって神に裁かれる。それであるから聖者の定めたもうた律法の目的はこれについている刑罰の執行にあるが、これ

2ニ-2,10-1,これについている刑罰は、救い主の身代りの贖罪の目的にかなわせるためについている幸福とは相反している。

2ニ-2,11,それは、すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。荒野に於て初めて生れた私の子よ、もしも物事にその反対のものがなければ、正義も不正も聖潔も憐むべき様も善も悪も生ずることができぬ。それであるから、すべての物事はみな合して1

2ニ-2,11-1,1つとならなければならぬ。故に仮に万物がことごとく一体となるならば、それは生死なく滅不滅なく幸不幸なく知覚の有無もないままで一切の差別を失つてあたかも死のような有様で存続しなければならぬ。

2ニ-2,12,こう言うわけで、万物は無用に造られたと言わなければならぬし、またそれ故に想像の結果は目的のないものであつたであらう。従つて、これは神の智恵とその永遠の目的とまた神の能力と慈悲と正義とを亡ぼしてしまふと言わなければならぬ。

2ニ-2,13,もしも律法がないと言うならばまた罪もないと言わずばなるまい。もしも罪がないと言うならば、また義もないと言わずばなるまい。しかし、もしも義がないならば幸福はないであらう。義も幸福もないならば、罰も不幸もないであらう。そして、もしもこれらの事が

2ニ-2,13-1,ならば神もまたないのである。従つて、もし神がないならばわれわれもなくこの大地もない、何となれば、これでは作用するものも作用せられるものもないから万物の創造ができるはずもなく、従つて万物はことごとく消えうせていたに違いないからである。

2ニ-2,14,さて息子らよ、私はこれらの事をお前たちの利益と学問とになるように話す。それは現に1人の神がまし

まして、天も地もすべてのものを造り、天地の中の万物を作用するものと作用するのと作用せられるものにと造りたもうたからである。

2ニ-2,15,そして、神がわれわれの最初の両親と野の獣と空の鳥、つまりあらゆる造られるものをことごとく造りたもうてから、人間の行末にかかわる永遠のみこころを成就したもうためには、物事に必ずその反対がなくてはならなかった。すなわち、禁断の実に対しては生命の木

2ニ-2,15-1,あつてこれは甘くかれは苦かった。

2ニ-2,16,それであるから、主なる神は随意に行う自由を人間に許したもうた。しかし人間はもしもあれに誘われこれに誘われなければ、随意に選ぶ行ふことはできないのである。

2ニ-2,17,私リーハイ、自分の読んだ所によって考えるのに、書に誌された通り1人の神の使いが天から墮ちたが、かれは神の御前に悪を為そうとしたから悪魔になったと思わざるを得ない。

2ニ-2,18,そして彼は天から墮ちて永久にみじめな様になったから、あらゆる人間もまたみじめな様にしようとした。それで以て、まことにかの昔の蛇、悪魔、あらゆる偽りの父である彼はイヴに言った'禁断の実を食え、これを食えば死ぬことがなくて神のようになり善悪を知る

2ニ-2,19,アダムとイヴは禁断の実を食ってから、2人ともエデンの園から追い出されて地を耕すこととなった。

2ニ-2,20,そしてかれらは子供をもうけ、まことに前世解の人類の両親ともなった。

2ニ-2,21,そして神のみこころによって、人間の命はかれらが肉体に在る中に悔改めをするようにと延された。それであるから、かれらの人生は例の生涯となり、そのつづく長さは主なる神が人間に与えたもうた命令によって延された。神は全人類に、かれらはその始祖が罪を犯し

2ニ-2,21-1,墮落したことを知らせたまい、すべての人は悔い改めねばならぬと命じたもうた。

2ニ-2,22,さてごらん、もしもアダムが罪を犯さなかったならば、彼は墮落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造された万物は造られた後の状態そのままに続いてあつたに違ひなく、また必ずそのまま永久に続いて終りがなかったであろう。

2ニ-2,23,また、アダムとイヴは子供をもうけることもなかったであろうし、それから不幸を知らないから喜びもなく、罪を知らないから善もなさず、そのまま罪が無い状態に留つたであろう。

2ニ-2,24,しかしながらごらん、万物は万物を知る者の全智に由つて成つた。

2ニ-2,25,アダムが墮落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に或のは幸福を得んためである。

2ニ-2,26,そして時が満ちると、人間の始祖の結果から人間を贖うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の墮落の結果から贖われるから、すでに永久に自由となつて、ただ大いなる終りの日に、神の下したもうた命令に従つて律法が定める罰を受けるほかには何事も自分

2ニ-2,26-1,心のままに行いほかから強いられることはない。

2ニ-2,27,それであるから、人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして番人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか、または悪魔は番人がじゆんのようにみじめになることを求めているから、そ

2ニ-2,27-1,その束縛と能力とに由つて定まる束縛と死とを選ぶか、これは全く人間の自由である。

2ニ-2,28,さてわが息子たちよ、私の願うのはお前たちがかの神と人との間を取り持つ大いなるお方にすがつてその大きな賢い命令を聞き、真実その言葉を守り、その聖い"みたま"のみこころに従つて永遠の生命を選ぶことである。

2ニ-2,29,またお前たちが肉体の翌念と肉体に宿る邪悪に負けて永遠の死を選ばないように願う。これらのものがある時は、悪魔の霊力はお前たちを捕えて地獄におとし入れ自分の王国の中でお前たちを支配するのである。

2ニ-2,30,わが息子たちよ、私は自分の例の生涯が今や終わろうとする時にこれらのわずかな言葉をお前たち皆の者に語り聞かせたが、私は予言者の言葉に従つてすでに善い道を選んだ。私が心に望むところは、お前たちが永遠の福利安泰を受けることのほかに何も無い。アーメン

2ニ-3,,ニ-ファイ第2書 第3章

2ニ-3,\*-\*、リーハイ、息子のヨセフにカタル。エジプトに於けるヨセフの予言。選ばれた聖見者のことが予言せられる。モーセの使命。ユダヤ人の聖典とニ-ファイ人の聖典。

2ニ-3,1,"私の末子であるヨセフよ。私は今汝に語り聞かせる。汝は私が艱難をした荒野で生れた。まことに、私もっとも憂い悲しんだころに汝は母から生れたのである。

2ニ-3,2,汝と汝の子孫がもしイスラエルの聖者の命令を守るならば、願わくは主が汝の受け嗣ぎとしてまた汝の兄弟たちと共に汝の子孫の受け嗣ぎとして、また永久に安全に住める地として、この最も貴い地を汝にもまた神聖になしたまわんことを。

2ニ-3,3,さて、私が艱難をしたこの荒野からつれて来た末子のヨセフよ。願わくは主がとこしえに汝を祝福したまわんことを。汝の子孫が全く亡びてしまうことはない。

2ニ-3,4,ごらん、これは汝が私の子であってしかも私がエジプトへ捕らわれてつれて行かれたヨセフの子孫であるからである。主がヨセフに立てたもうた誓約は真に大きなものであった。

2ニ-3,5,それであるから、ヨセフは正に今日のあることを先見し、また主なる神はイスラエルの言えのために1つの義しい枝をヨセフの子孫から生ぜしめたもうという1つの約束を主から受けた。しかもこの枝はメシヤではなく、折り取られなくてはならぬ1本の枝ではあるがそ

2ニ-3,5-1,それにもかかわらずこの枝は、末日に於てメシヤが全能の“みたま”によってかれらに現われたまい、かれらを闇から光につれて行き、暗黒と束縛の中から自由へ救い上げると言う主の誓約が履行される。

2ニ-3,6,ヨセフはまことに証明して言った‘主なるわが神は1人の聖見者を起したもう。これは私の子孫を教え導く優れた聖見者である’と。

2ニ-3,7,まことにヨセフは‘主は私に仰せになった’われは汝の子孫より1人の優れたる聖見者を起す。この者は汝の子孫の中にて大いに尊ばるべし。しかして、われは彼の同胞なる汝の子孫のために1つの仕事を為せと彼に命ぜん。この仕事は汝の子孫にとりて大いなる価値

2ニ-3,7-1,実にわが汝の祖先と結びたる誓約を汝の子孫に知らしむる仕事なり。

2ニ-3,8,しかしてわれは、わが命ずる仕事の他には何の仕事もなすべからずと言う命令をこの聖見者に与うべし。彼はわが命ずる仕事を為すがゆえに、わが目の前に於て彼を大いなる者となさん。

2ニ-3,9,われは、モーセを汝らのために起し、以てイスラエルの言えなるわが民を救い出さんと約したるが、この聖見者はモーセのごとく偉大なる者となるべし。

2ニ-3,10,われは汝たの民をエジプトの地より救い出すために実にモーセを起すべし。

2ニ-3,11,されど、われは汝の子孫より1人の聖見者を起し、わが言葉を汝の子孫に宣べ伝うる権能をこれに授けん。しかして、ただわが言葉を宣べ伝うるのみならず、またすでに汝の子孫の中に伝わりたるわが言葉をかれらに証明する能力をもこれに与えん。

2ニ-3,12,それ故に、汝の子孫は記録を書き、またユダの子孫も記録を書くべし。しかして、汝の子孫の書き誌す書と、ユダの子孫の書き誌す書とは、相合して偽りの教えをうち破り、争論を鎮め、汝の子孫の中に平和を起し、また末日に於て汝の子孫にその先祖とわが誓約とを知

2ニ-3,13,イスラエルの家よ、汝を回復せしむるためのわが仕事は一切のわが民の中に始まる日来る時、かの聖見者は弱きより強きに移るべし”と”と言った。

2ニ-3,14,またヨセフはかように予言して言った。すなわち‘見よ、主はかの聖見者を祝福したもう、わが子孫について主が私に為したもうたこの約束は必ず果たされるから、かの聖見者を亡ぼすそうとする者供は恥を受ける。見よ、私はこの約束が果たされることを確に知る。

2ニ-3,15,しかしてかの聖見者には私と同じ名がつけられ、またその名は彼の父の名をとってつけられる。また主がこの聖見者の手によって起したもうことは、主の能力によってわが民を救うものであるから、この聖見者は私に似た者であろう’

2ニ-3,16,まことにヨセフは次のように予言した‘私はこの事の起るのを、モーセについての約束が確であるように確であると認める。それは主が“われは汝のしそんを永久に保存すべし”と私に仰せになったからである。

2ニ-3,17,また主がかつて仰せになったには“われはモーセを起し、1本の杖に備えたる力を彼に与え、また聖版の方法を書き誌して彼に与えん。されど、彼を弁舌の力ある者となる心なきが故に彼に多くを語らせるためにその舌をゆるめはずまじ、しかしながら、われは自らの手

2ニ-3,17-1,指をもってわが律法を彼に書き誌し、また彼に代りて語る者を備えん”と。

2ニ-3,18,また主が私に仰せになったことがある“われは汝の子孫に1人の聖見者を起し、また彼に代りて語る者を備えん。見よ、われは汝の子孫の書物を汝の子孫に書き伝うることをこの聖見者に任ず。しからば、汝の子孫にて彼に代りて語る者はこれの真実なることを証すべし

2ニ-3,19,しかしてこの聖見者の書き伝うる言葉は、汝の子孫に伝わる必要ありとわが心に思う言葉なり。故にその言葉の伝わるは、あたかも汝の子孫が人々に土の中より叫ぶかの如くならん。われは汝の子孫の信仰を知ればなり。

2ニ-3,20,汝の子孫は多くの代を経てのち、土の中より叫びて悔改めをその兄弟たちに勧め、しかしてその叫び声は易しき言葉のままにて伝わるべし。

2ニ-3,21,かれらの信ずる信仰厚きによりて、その言葉はわが口より出て汝の子孫なるかれらの兄弟たちに伝わるべし。われはその言葉の弱きところをかれらの信仰によりて強くし、汝の父祖に立てたるわが誓約を思い起して実行すべし”と’。

2ニ-3,22,さて見よ、わが子ヨセフよ、私の遠い先祖はこのように予言をした。

2ニ-3,23,ゆえに、この誓約によって汝は祝福されている。それは汝の子孫がかの書物の言葉に聞き従う故に亡ばされないからである。

2ニ-3,24,汝の子孫の中に1人の大いなる者が起る。その者は神の御手に使われて大いなる奇跡を行い、神の目に大いなりと見える事を為しイスラエルの家と汝の兄弟達の子孫とを大いに回復するところがあるほどの非常に強い信仰があるから、言葉にもおこないにも大いに善い事

2ニ-3,25,さてヨセフよ。汝は幸福である。ごらん、汝はまだ小さいから汝の兄のニーファイの言うことを聞け、そうすれば私の言った言葉のように汝に何事も成就する。今やこの世を去ろうとする汝の父の言うことをよくおぼえておけ。アーメン”。

2ニ-4,,ニーファイ第2書 第4章

2ニ-4,\*-\*、リーハイ、レーマンとレミュエルの息子、娘たちを祝福する。イシメルの1家およびサームとその子孫に与えた祝福。リーハイの死。先につまづいて謀叛が起る。

2ニ-4,1,さて 私ニーファイ齒、エジプトへつれて行かれたヨセフつき私の父が語った予言に関して話をする。

2ニ-4,2,ごらん、そのヨセフはまことに自分のすべての子孫について予言ういすが、およそ予言の中でヨセフ誌した予言に勝るものは少い。ヨセフは私たちとこれから先の子々孫々について予言をした。その予言は真鍮版に刻んである。

2ニ-4,3,それで、私の父はヨセフ予言について話をしてしまってから、レーマンの子供である息子や娘たちを呼びよせてかれらに言った”さて私の長男の息子や娘である私の孫たちよ。私の言う言葉をよく聞いてほしい。

2ニ-4,4,それは主なる神が、汝らわが命令に従わば、地に栄ゆべし。されど汝わが命令を守らばわが前より追い出さるべしと仰せになったからである。

2ニ-4,5,しかしごらん、私の孫たちよ。私はお前たちに祝福を与えなかったなら安心して死ねない。私はお前たちが従うべき道に従って育てられたなら、その道から外れないことを知っているからである。

2ニ-4,6,それで、もしもこれからお前たちがのろわれるならば、そののろいがお前たちから取り去られて、のろいの下った責がお前たちの両親の頭に帰するように、私は祝福をお前たちに残しておく。

2ニ-4,7,それで私が授ける祝福のために、主なる神はお前たちが亡びるままにまかせたまわず、お前たちとお前たちの子孫をいつまでも憐みたまう”と。

2ニ-4,8,父はレーマンの息子や娘たちに話をしてしまってから、レミュエルの息子や娘たちを自分の前につれて来させ、

2ニ-4,9,これらの者に言った”さて、私の次男の息子や娘らである私の孫たちよ。私はレーマンの息子や娘たちに残したと同じ祝福をお前たちに残す。それであるから、汝らは全く亡ぼされることなく、汝らの子孫もついに恩恵を受ける”と。

2ニ-4,10,私の父はかれらに話終ると、イシメルの息子たちと自分の家内中の者全部にまでも語り聞かせた。

2ニ-4,11,そしてかれらに話終ると、父はサームに向って”汝はニーファイと同様にこの地を受け嗣ぐのであるから、汝と汝の子孫とは幸福である。汝の子孫は、ニーファイの子孫と共に数えられる。汝はニーファイ同様の者となり、汝の子孫はニーファイの子孫同様のものとな

2ニ-4,11-1,そして汝は一生涯祝福を受ける”と言った。

2ニ-4,12,私の父リーハイは、その心の思いをうち明け、その身に宿る主の”みたま”によって家内中の全部に語った後すでに都市もっていたからついに死んで葬られた。

2ニ-4,13,さて父の死後日数も多くたたない中に、レーマンとレミュエルはイシメルの息子たちと共に主の訓戒について私に腹を立てた。

2ニ-4,14,それは、私ニーファイが主の言葉に従ってやむを得ずかれらに語ったからである。私はそれまでに多くの事をかれらに語り、私の父もまた亡くなる前に多くの事をかれらに語り聞かせたが、その言ったことの多くは私の作ったほかの版に誌してある。それは、私の作った

2ニ-4,14-1,ほかの版にはおもに歴史に関わる部分が記してあるからである。

2ニ-4,15,そして本版には、私の心のことを誌し、また真鍮版に刻んである聖文の多くも書き誌してある。それは私の身も心も聖文を喜ぶので、私が心にそれをよくよく考えて私の子孫たちの学問と利益とになるようにこれを書き誌すのである。

2ニ-4,16,ごらん、私は身も心も主に関する事を喜び、私の心は私がこれまでに見聞きしたことを絶えずよくよく思っている。

2ニ-4,17,と言うものの、主がその驚嘆すべき大御業を私に示したもうときに現われる恩恵が大きいにも関わらず、私は心の中で叫ぶのである。”ああ、私は不幸な人間である”と。まことに、私はわが肉体のために個々に憂いがあり、自分の罪悪のために私の心は悲しむ。

2ニ-4,18,私は非常にたやすく迫ってくる誘惑と罪悪とのために取り巻かれている。

2ニ-4,19,故に私が喜ぼうとすると、自分の罪のために私の心は苦しみにうめく。さりながら、私は今までに誰を頼みにしているかを知っている。

2ニ-4,20,すなわち、私がこれまでに杖柱と頼んだのはわが神である。わが神は私が荒野で艱難をした時に始終私を導き、私が深い大海の上に逢った時に私を守りたもうた。

2ニ-4,21,わが神は私の肉体が燃えんばかりに、私の中にその愛を満したまい、

2ニ-4,22,私の敵をして私の前にふるいおののかせんばかりにこれを破りたもうた。

2ニ-4,23,ごらん、わが神は昼の嘆願を聞きたまひ、夜は示現を以て私に智恵を授けたもうた。

2ニ-4,24,私は昼は熱烈な祈りを神の御前に力強く捧げ、まことに私の声が登って天に届いたから、使いたちが天降って私に導きと恵みとを施した。

2ニ-4,25,私は神の"みたま"の翼の上にわが身をのせられて非常に高い山の上に運ばれて行き、まことに大なる物事を自分の目で見た。しかしそれは人間にとってまことに高尚に過ぎるからお前はそれらのことを書き誌してはならぬと言われた。

2ニ-4,26,そこで、もしも私がかほどに偉大な事を目にし、もしも主が人間に対するいつくしみ深いお思召で、かほどに大きな憐みを人間に与えたもうたとするならば、たとえ私がいかに苦しむからと言ってもどうして私の心が嘆いてよいだろうか、私の心がいつまでも悲しみの谷

2ニ-4,26-1,留まってよいだろうか、私の肉体がやせ衰え、私の力が弱くなってよいだろうか。

2ニ-4,27,またどうして私の肉体のために罪に負けてよいだろうか。どうして誘惑に負け、悪魔が私の心の中に入ってその平安を破り、私を苦しめるに任せてよいだろうか。また何故敵のために怒りを抱こうか。

2ニ-4,28,目醒めよ、わが心よ。もはや罪のために溺れるな。喜べ、わが心よ。これからはもはやわが身と霊の敵を近づけるな。

2ニ-4,29,再びわが敵のために怒ってはならない。わが苦しむために力を弱くしてはならない。

2ニ-4,30,喜び楽しめ、わが心よ。主に裂けんで言え"主よ、われはとこしえに主を讃め奉る。まことにわれは主なるわが神、わが救いの岩によりて喜ぶ。

2ニ-4,31,おお主よ、われを贖いたまえ。われを敵の手より救いたまえ。罪のきざすのみを見て恐れおののくようにわれを成らせたまえ。

2ニ-4,32,わが心は真にへりくだりわが精神は悔ゆれば、地獄の門を常にわが前に閉じたまえ。おお主よ、われに低き谷の道を歩み慎みて平かなる道を踏ますために、わが前に義の門を閉じたもうなかれ、

2ニ-4,33,おお主よ、主の義の衣をわれに着せたまえ。主よ、わが敵よりわれの逃るる道を設けわが前にわが道を直したまえ。わが行く道につまずく石を置かずわが前に道を平木たまえ。しかして、わが道を塞がず敵の道をせき止めたまえ。

2ニ-4,34,おお主よ、われ今日まで主を信じて頼り奉る。われは人間の腕に依り頼む者はのろわることを知るゆえに、人間の腕に依り頼むことなし。まことに人に信頼を置き、人間を依り頼む腕と為す者は禍なるかな。

2ニ-4,35,まことに神は願う者に惜しまず与えたもうことをわれは知る。わが求むるところよこしまならずば、わが神われに与えたまわん。されば、まことにわが神よ、わが義の岩よ、われ声高らかに神に祈らん。わが岩にしてわが永遠の神よ、わが声はいつまでも神に捧げられん

2ニ-4,35-1,アーメン"と。

2ニ-5,,ニ-ファイ第2書 第5章

2ニ-5,\*-\*、ニ-ファイ、神に警告を受けて、その命をとろうとする者たちと別れる。ゾーラム、サーム、ヤコブ、ヨセフおよびその他の者たちが行を伴にする。レーバンの剣、1つの神殿が建立される。王、あるいは保護者たるニ-ファイ。謀叛した者たちはのろわれて黒い膚とな

2ニ-5,\*-\*-1,祭司および教師たちが按手任命される。

2ニ-5,1,ごらん、私ニ-ファイは兄たちが怒ったから、ひたすら主なるわが神に祈りを捧げた。

2ニ-5,2,しかし、兄たちは私に大していよいよひどく怒り、私の命を取ろうとした。

2ニ-5,3,まことに兄たちは私に向って不平を鳴らし"弟はわれわれを支配しようと思うからわれわれは彼のらめにこれまで大いに苦勞をした。だから、もうこれから弟の言葉で悩まされないように弟を殺そうではないか。見よ、われわれは弟に支配されたくない、この民を支配す

2ニ-5,3-1,兄であるわれわれの持つものである"と言った。

2ニ-5,4,さて、私は兄たちが私に向ってふじえいをならした言葉を全部この版に載せるものではない。ただ、かれらが私の命を取ろうとしたと言えは充分である。

2ニ-5,5,主は私に警告して、私ニ-ファイに従って共に行きたい人々は全部兄たちのもとを幸手荒野に逃れよと仰せになった。

2ニ-5,6,それで私ニ-ファイの妻子と、ゾーラムとその妻子と、兄サームと妻子と2人の弟ヤコブとヨセフ、私の姉妹たちそのほか私と1しよに行きたい者たちの全部をつれて出たが、私と1しよに行きたいと言う人たちは、皆神の警告と啓示とを信ずる人たちであったから、私

2ニ-5,6-1,私の言うことを聞いてこれを守った。

2ニ-5,7,私たちは天幕とそのほかに持つてる者はなんでも携えて荒野へ出て多くの日数を旅に費してから天幕を張った。

2ニ-5,8,そして、私と1しよに来た人たちがその所の名をニーファイと呼びたいと言ったのでそう呼んだ。

2ニ-5,9,また、私と1しよにいた人たちは全部進んで自身たちをニーファイの民と言うことにした。

2ニ-5,10,私たちは何事にもモーセの律法に従って、主の裁決と律法と命令とを守った。

2ニ-5,11,主が私たちと共に在したので、私たちは種子を蒔き豊かに刈り入れをして大そう栄えた。やがて私たちは羊の群牛の群その他あらゆる獣を飼うことを始めた。

2ニ-5,12,私ニーファイはまた真鍮版に刻んだ記録とさきに誌した通り主がその御手で私の父に備えたもうた球、すなわち羅針盤も1しよに持ってきておいた。

2ニ-5,13,そして私たちは非常に栄え、人の数もその始めた。

2ニ-5,14,それで私ニーファイはレーバンの剣を取り出し、これにならって多くの剣をきたえたが、それは当時レーマン人と呼ぶ民が、私と私の子供たちとまた自分から私の民と呼ぶ人々に対してどんなにひどい怨みを抱いているかを言っていたから、この民たちがいかにもして私

2ニ-5,14-1,襲って亡ぼすのを恐れたからである。

2ニ-5,15,私は私の民に建築を教え、また木材鉄真鍮鋼金銀および非常に豊富にあった貴重なあらがねであらゆる細工をすることを教えた。

2ニ-5,16,私ニーファイはまたソロモンの神殿にならって1つの神殿を建てたが、そのちがっている所はさほど多く貴重な品を使って建てなかつただけである。それはかように貴重な島が当時この地になかつたから、それでソロモンの神殿とちがわない様に建てることができなかつ

2ニ-5,16-1,しかし、その建築の洋式はソロモンの神殿と同じであって、その製作の技倆は非常に見事であった。

2ニ-5,17,私ニーファイは、私の民に勉め励ませ、また手を働かせて仕事をさせた。

2ニ-5,18,そのうちに、私の民は、私を立ててその王にしようと思った。しかしニーファイはかれらには王がないのがよいと思い、ただ私のできる限りを民の為につくした。

2ニ-5,19,ごらん、主は私の兄弟たちについて仰せになるとき私が私の兄弟たちの支配者となりその教師となると仰せになったが、その言葉はすでにその通りに鳴っていた。それであるから、兄弟たちが私を殺そうとしたころまで、私は主の命令によってかれらの支配者であり教師

2ニ-5,19-1,教師であったのである。

2ニ-5,20,それで、私は主が“かれら汝の言うことを聞かずば主の前より追い打猿べし”と仰せになった言葉はすでに成就された。ごらん、私の兄弟たちはたしかに主の御前から追い出された。

2ニ-5,21,そして主はかれらの罪悪のために、あののろいをかれらに襲い来らせたもうたが、それはまことに恐ろしいのろいであった。ごらん、これはかれらが主に対してその心をかたくなにして、あたかもひうちいしのように堅くなってしまったからである。それであるから主な

2ニ-5,21-1,主なる神は、かれらが始め皮膚が白くて非常に美しく人目にたのしい者であったから、私の民がこれに心を奪われないようにその皮膚を黒くならせたもうた。

2ニ-5,22,そして、このように主なる神は仰せになった。すなわち“かれらその悪事を悔い改めずば、汝の民に嫌われるようになすべし。

2ニ-5,23,かれらの子孫と縁を結ぶ者の子孫もまたのろわるべし。しかもかれらと同じのろいにてのろわるべし”と。そして、主がこう仰せになった通りになった。

2ニ-5,24,まことに、かれらは自分の身に下つたのろいのためにわるさと狡猾にトンだ怠け者の民となって食料にする獣を荒野の中であさつた。

2ニ-5,25,そして主なる神は、私に“かれらは汝の子孫にわれのことを思い起こさしむる1つの鞭となり、また汝の子孫もしもわれを思い起してわが言葉を守らずばかれらは汝の子孫を打ち悩まして亡ぼすに至るべし”と仰せになった。

2ニ-5,26,私ニーファイはヨコブヨセフに按手をし、かれらを立てて私の民の土地で民を教え導く祭司と教師とにした。

2ニ-5,27,そして、私たちはみな幸福に暮らしたが、

2ニ-5,28,その中にエルサレムを出てからもはや30年過ぎ去つた。

2ニ-5,29,私ニーファイは自分の造つた版に、私の民についてこれまでの記録をつけた。

2ニ-5,30,主なる神は私に告げて“別に版を造りて、汝の民のためになるようわが目に善しとする多くのことをその上に刻むべし”と仰せになった。

2ニ-5,31,それであるから、私ニーファイは主の命令に従うために行った以上のことを刻んだこの版を造つた。

2ニ-5,32,そして私は神のみこころに適うことをこれに刻んだが、もしも私の民が神の獅アとを喜ぶならばこの版に私の刻んだことを喜ぶであろう。

2ニ-5,33,それで、もしも私の民が自分の歴史についてもっとくわしく知りたいならば、私の造ったほかの版をぜひ調べなくてはならない。

2ニ-5,34,しかし、ここにはもう40年の年月が過ぎ去って、私たちがすでに私の兄弟たちと戦争や争いをしたと言うにとどめて置く。

2ニ-6,,ニ-ファイ第2書 第6章

2ニ-6,\*-\*、ヤコブがその民に語った訓戒。ヤコブ、イザヤの予言を引いて語る。

2ニ-6,1,ニ-ファイの弟ヤコブが、ニ-ファイの民に語った言葉、

2ニ-6,2,"さて、愛する兄弟たちよ。私ヤコブは神に召され、またあなたたちが王または保護者として仰ぎ安全を得ようと依り頼む私の兄ニ-ファイによって神の神権に定まっている按手札を授けられて神聖な者にされたから、ごめん、あなたたちは私が非常に多くのことをす

2ニ-6,2-1,話したのを知っている。

2ニ-6,3,それにもかかわらず、私はあなたたちにさいわいを与えたいと思うからここにまたあなたたちに話をする。まことに、私はあなたたちのために非常に心配をしているが、あなたたちはいつも私が心配をしてきたことを自分で知っている。なぜならば、私は全く熱心にあな

2ニ-6,3-1,勧告をし私の言ったことを教え、まらこの世が造られた当時から書き誌された一指のことについてあなたたちに話をしてきたからである。

2ニ-6,4,さてごらん、私はあなたたちに現在あることとこれから起ることについて話をしたいと思うから、まずイザヤの言葉を読んで聞かせよう。これらの言葉は、私があなたたちに離すように私の兄が望んだ言葉である。それで私はあなたたちが物事を憶えてあなたたちの神の

2ニ-6,4-1,御名をあがめるように、あなたたちのために思うてこれを話す。

2ニ-6,5,さて私がこれから読み聞かせる言葉はイザヤがイスラエルの全家について語った言葉である。それであるから、あなたたちもイスラエルの家に縁があるから、今私の読む言葉は、これをあなたたちの身に引き比べてもさしつかえがない。またあなたたちはイスラエルの家

2ニ-6,5-1,あるから、イザヤの語った言葉にはあなたたちの身に引き比べてもさしつかえないものも多くある。

2ニ-6,6,さて、イザヤの語った言葉といえばかように主なる神は宣う。見よ、われは手を異邦人に向けて挙げ、わが旗をもろもろの民に向けて立てよう。さらばかれらは汝らの息子たちを手に抱いて来、汝らの娘たちを肩に乗せて来る。

2ニ-6,7,もろもろの王は汝らの養父となりその後は汝らの養母となって、顔を地に向けて汝らの前に平伏し汝らの足に着く塵をなめる。ここに於て、汝らはわれが主であることを知る。われを待ち望む者は恥を受けないからである'と言う言葉である。

2ニ-6,8,さて私ヤコブはこれらの言葉について少し話をしたい。ごらん、主は私たちが出てきたエルサレムにいた人たちが、殺されたり捕虜になってつれて行かれてしまったことを私に示したもう。

2ニ-6,9,それにもかかわらず、主はかれらが再び帰ってくることを示したまい、またイスラエルの聖者である主なる神が肉体でかれらに現れたもうことと、主が現れたもうた後、私に話した天使の言葉通りにかれらは主を鞭って十字架にかけられることを私にお示しになった。

2ニ-6,10,さてかれらユダヤ人はイスラエルの聖者に対してその心をかたくなにしその首筋を堅くした後に、必ずイスラエルの聖者の裁きを受ける。また打たれて苦しむ日が必ずくる。

2ニ-6,11,それであるから、かれらがここかしこに追われてから、多くの者が天使の言葉のように肉体に苦しみを受けるが、忠実な者たちの祈りによって主はかれらを死なせたまわず、やがてかれらは散り乱れ打ち苦しめられ憎み嫌われる。けれども主がかれらを憐みたもうので、

2ニ-6,11-1,その贖い主を知るようになる時には、再びその受け嗣ぎの地へ集められる。

2ニ-6,12,予言者に書き誌された異邦人たちは幸福である。何となればかれらがもしも悔い改めてシオンと戦わず、あの憎むべき大教会に加わらなかつたら救われるからである。それはまた、主なる神がその子たちと結びたもうた誓約を履行したもうからであり、そのために、予

2ニ-6,12-1,予言者はこれらのことを書き誌している。

2ニ-6,13,それであるから、シオンと主の誓約を受けた民と戦う者たちは、これらの人々の足の塵をなめ、主の民は辱しめを受けない。主の民とは主を待ち望む者であって、かれらは今なおメシヤの来りたもうのを待ち望んでいる。

2ニ-6,14,ごらん、予言者の言葉によれば、メシヤはこれらの者をまた再び元に復そうとし始めたもう。それでかれらがメシヤを信ずる日がくる時には、メシヤは力と大きな栄光とを以てかれらに現われその敵を亡ぼしたもう。そして

メシヤを信ずる者は1人も亡ぼされない。

2ニ-6,15,しかしメシヤを信じない者たちは、火と嵐と地震と殺戮と疫病とによって亡ぼされ、主がイスラエルの聖者である神にましますのを悟るのである。

2ニ-6,16,勇士から獲物を取り返せようか。または正統な捕虜を救い出せようか。

2ニ-6,17,しかし書は次のように'勇士の捕らえたる捕虜さえも取り返し、荒々しき者の獲物さえも救い出すべし'と仰せになる。全能の神は、その誓約の民を救いたもうからである。また主が仰せになるには'われは汝らと争う者と争い、

2ニ-6,18,汝らをしいたぐる者に、自分の肉を食わしむべし。かれらは甘き葡萄酒に酔う如く、自身の血を飲んで酔うべし。さればs添加の民は、主なるわれが汝らの救い主にして、汝らの贖い主ヤコブの全能者なることを知るなり'と”。

2ニ-7,,ニ-ファイ第2書 第7章

2ニ-7,\*-\* ,ヨコブの教えのつずき。イザヤ書第50章と比較せよ。

2ニ-7,1,“まことに、主はこのように仰せになる。'われは汝たをしりぞけたのであるか、または汝らを永遠に棄てたのであるか。主は言う、汝らの母を去った離縁状はどこにあるか。われは誰に汝らをしりぞけたか、またはいずれの債主に汝らを売渡したのであるか。見よ、汝

2ニ-7,1-1,汝らはその罪悪のために自分の身を売り、汝らの咎のために汝らの母は棄てられた。

2ニ-7,2,それゆえに、われの来た時には誰も居らず、われの読んだ時には誰も答える者がなかった。イスラエルの家よ。わが力が少しでも減ったから贖うことができないのか、それともわれには全然救う能力がないのであるか。見よ、われが叫りつけば海はかれ河は荒地となり

2ニ-7,2-1,水が乾くによってその中の魚は乾き死んで臭くなる。

2ニ-7,3,われは黒い衣を天に着せ、粗い布をもってその覆いとする。

2ニ-7,4,イスラエルの家よ、主なる神は学者の舌をわれにたもって汝らに時の宜しきを得た1言をかたることを知らせたもう。汝らの疲れた時主は朝ごとにわれを醒し、わが耳を醒して学者のように聞かせたもう。

2ニ-7,5,主なる神はわが耳を開きたもうたが、われは逆らいもせず退くこともしなかった。

2ニ-7,6,われは鞭うつ者にわが背を向け、わがひげを抜く者にわが頬をまかせ、はずかしめられても、唾を吐きかけられても、わが顔をおおわなかった。

2ニ-7,7,主なる神がわれを助けたもう。それであるから、われは恥しめを受けないのである。われはすでにわが顔をひうちいしのように堅くしたから、恥ることがないのを知っている。

2ニ-7,8,主は近くにましましてわれを義しとしたもう。誰がわれと争うであろうか。さあ相対して共に立とう。わが敵は誰であるか近づいて来い。さらば、われはわが口の力を以てその敵を打とう。

2ニ-7,9,主なる神がわれを助けたもう。されば、およそわれを罪する者はことごとく衣のように古び、“しみ”のために食いつくされよう。

2ニ-7,10,汝らのうち主をおそれその僕の声に従いながら、しかも暗やみの中を歩いて光をもたぬ者は誰であるか。

2ニ-7,11,見よ、およそ火を燃やし、火の粉を以て身をかこむ者よ。汝らはみなその火の光を歩め、汝らの燃やした火の粉の中を歩め、汝らがわが手から受けるのは悲しみのうちに死ぬことである”。

2ニ-8,,ニ-ファイ第2書 第8章

2ニ-8,\*-\* ,ヤコブの教えのつずき。イザヤ書第51章と比較せよ。

2ニ-8,1,“汝ら義を追い求める者たちよ、われにきけ、汝らが切り出された岩と、汝らが掘り出された穴とを思い見よ。

2ニ-8,2,汝らの先祖アブラハムと汝らを運だサラとを思い見よ。われはアブラハムただ1人を選んでこれを祝福した。

2ニ-8,3,主はシオンを慰めすべてその荒れた所を元に復してその荒野をエデンのようにし、その沙漠を主の園のようになす。かくしてシオンの中には喜びとたのしみがあり感謝と歌声もある。

2ニ-8,4,われ民よ、わが言葉を聞け、わが国民よ、われに耳を傾けよ。われは1つの律法を出し、民を照らす光としてわが裁きをおこなおう。

2ニ-8,5,わが義はすでに近く、われ救いはすでに始まった。わが腕は民を沙漠。また諸々の島はわれを待ち望み、わが腕によりすがる。

2ニ-8,6,汝ら仰い天を見、伏しては地を見よ。天は烟のように消え、地は衣のように古び、その中に住む者は皆かようにして死ぬ。しかしわが救いは永遠にながらえて、わが義はずたらない。

2ニ-8,7,義を知る者たち、すなわちその心の中にわが律法をわれに誌された民らよわれに聞け、人のそしりをおそれるな、人の罵りをこわがるな。

2ニ-8,8,彼らは衣服のように虫に食われ、羊の毛のように虫にくわれるからである。しかしわが義は永遠に永らえわが救いは代々に続く。

2ニ-8,9,醒めよ、醒めよ。主の腕よ、力を添えよ。古えの時のように目を醒せ。かつてラハブを切り、龍を傷けたもうたのは主ではないか。

2ニ-8,10,海を乾かし、大きな淵の水を乾かし、購われた者たちを過ぎ行かせるために海の底を路としたもうたのは主ではないか。

2ニ-8,11,それゆえに、主に購われた者たちはうたを唱いながらシオンに帰って来る。そしてとこしえの喜びと聖潔はその頭にあり、楽しみと喜びとを得て、悲しみと嘆きとは逃げ去る。

2ニ-8,12,われこそは汝らを慰める者である。見よ、汝らは死ぬべき人を恐れ、草のようにされるべき人間を恐れるとは何者であるか。

2ニ-8,13,汝らは何して天をのべ地の基を据えた汝らの造り主である主を忘れるのか。何してしいたげる者の烈しい怒りを見て、あたかもまさに亡ぼされるかのように日々絶えずおそれるのか。しいたげる者の烈しい怒りは一体どこにあるのか。

2ニ-8,14,捕らわれた追放者はすみやかに解き放たれて、穴の中に死ぬことなくまたその食物が無くなることもない。

2ニ-8,15,われは浪をとどろかせる主なる汝の神である。万群の主とはわが名である。

2ニ-8,16,われは天を据え地を置き、シオンに向って、見よ、汝らはわが民であると言うために汝らの口にわが言葉置きわが手の陰に汝らを覆った。

2ニ-8,17,目醒めよ、目醒めよ、起きよ、エルサレムよ。汝は先に主の手からその怒りのさかずきをうけて飲み、おののかす杯を飲み干しても余さなかった。

2ニ-8,18,エルサレムの運だ息子たちのうちエルサレムを導く者は1人もなく、エルサレムの育て上げた息子らの撃ちでエルサレムの手をとって導く者は1人としてない。

2ニ-8,19,しかし、これら2人の息子たちは汝のところに来ている。誰が汝のために嘆くであろうか、汝の荒廃と破壊、飢饉と戦争を誰が嘆くであろうか。われは誰によって汝を慰めようか。

2ニ-8,20,汝の息子たちは、この2人のほかにみな気が遠くなってあたかも網にかかった野の牡牛のように街々の口に伏している。かれらには主の怒りと神の懲しめが満ちている。

2ニ-8,21,この故に、汝苦しみ悩む者、酒も飲まぬに酔っている者よ、次の言葉を聞け。

2ニ-8,22,汝の主は言う。主なる汝の神はその民のためにとりなす、見よわれは汝の手からおののかすさかずきを、すなわちわが怒りの杯のおりを取り除いた。汝は再びこれを飲まぬ。

2ニ-8,23,しかし、われはこれを汝を苦しめる者の手にわたす。かれらは先に汝に告げて、平伏せよ、さらばわれらは汝を踏みこえて行こうと言ったが、汝は踏みこえて行く者に、地面のごとく路のごとくになってその身を横たえた。

2ニ-8,24,目醒めよ、目醒めよ、シオンよ。汝の力を添えよ。聖い都エルサレムよ。汝の衣を着けよ。今から後、割礼を受けぬ者と汚れた者とは再び汝に入らぬからである。

2ニ-8,25,汝、その身の塵をふり落せ、起きて坐れ、エルサレムよ、おお捕らわれたシオンの娘よ、汝の首にからまった縄を時すてよ”。

2ニ-9,,ニ-ファイ第2書 第9章

2ニ-9,\*-\*、ヤコブの訓えのつずき。限りないキリストの贖罪。救い主の苦しみが先見される。律法のないところに罰なし。

2ニ-9,1,“さて、愛する兄弟たちよ。私がこれらのことを読む目的は、主の誓約についてあなたたちに知らせるためであって、その誓約とは主がイスラエルの全家と結びたもうたものであり、またそれは、

2ニ-9,2,ユダヤ人が神の真の教会と羊の群に再び復され、その受け嗣ぎの地に帰して集められそのすべての約束の地に住む日がくるまで、主が世の始めから代々聖い予言者たちの口によってユダヤ人に語りたもうていることであるのを知らせるためである。

2ニ-9,3,ごらん愛する兄弟たちよ。私がこれらのことを話すのは、主なる神があなたたちの子孫に与えたもう祝福のために、あなたたちがいつまでも頭を高く挙げて喜ぶように話すのである。

2ニ-9,4,私はあなたたちの多くが未来の事を知ろう思って、大いに探し求めたことを知っている。それ故にあなたたちはわれわれの肉体は必ずやせ衰えて死ぬものであるけれども、未来に於てわれわれは復活体となって神に会うと言うことを知っているとは私は明らかに認めている

2ニ-9,5,また真に、私たちが出てきたエルサレムに於て神が肉体のまま世の人々に現れたもうと言うことをあなたたちが知っていると明らかに認めている。その事が世の人々の間に起るのは真実大切である。それは大いなる造り主が万人を自分に服従されるためにはまず自らこの

2ニ-9,5-1,服従し万人のために死にたもう必要があるからである。

2ニ-9,6,大いなる造り主の憐み深い道が成就するために万人に死が伝わったから、必ず復活を来す能力がなくてはならない。そしてこの復活は人間の始祖が墮落をしたから必ず人間にこなくてはならない。そして人間の始祖が墮落をしたのは律法を破ったから 生じたのである。

2ニ-9,6-1,人間は墮落をしたために、主の御前から追い出されてしまった。

2ニ-9,7,それでその罪の贖いは、キリストの限り無い贖罪でなければならない。すなわちそれがキリストの限り無い贖罪でなかったならば、この朽ちる肉体が朽ちないものになることができないから、人間に下った最初の裁きが限りなく続かなくてはならない。もしそうであるな

2ニ-9,7-1,この肉体は墓に横たえられて朽ち果てもとの土に帰って再びよみがえることはない。

2ニ-9,8,おお大いなる神の智恵よ。その深い憐みと御恵みよ。ごらん、もし肉体がもうよみがえらないならば、私たちの霊は必ずあの天使、すなわち永遠の神の御前から墮ちて悪魔となった天使に服従してもうよみがえることは決してない。

2ニ-9,9,そして私たちの霊は必ずあの天使のようになり、私たちは悪魔すなわち悪魔に属する使たちとなって私たちの神の御前から締め出され、あの偽りを生む親と共に、彼自身のように不幸の中に留まらなければならない。まことにその者は私たちの始祖をだまし、真の天使と

2ニ-9,9-1,ばかりにその姿を変えて人間たちをそそのかし、人殺しをする秘密の結社を造らせたり、あらゆるかくれた悪い行いをさせたりする者である。

2ニ-9,10,私たちがこの恐ろしい怪物につかまれないように、1つの道を備えて下さる私たちの神の恵みはいかにも大きいではないか。まことにその恐ろしい怪物とは死と地獄とであって、私のいわゆる肉体の死と霊の死である。

2ニ-9,11,しかしイスラエルの聖者である私たちの神が救いの道を立てたもうから、私が今言った肉体の死である墓は1時的のものであって、やがてその中にある死体を解き放つ。

2ニ-9,12,また、私が今言った霊の死である地獄もやがてその中にある死んだ霊を解き放つ。それであるから、墓と地獄とは何れもその中にある死者を出さなければならない、すなわち地獄はその捕えた霊を放ち、墓はその捕えた肉体を放たなければならない。そこで人の体と霊と

2ニ-9,12-1,通りしよになるのであるが、これは全くイスラエルの聖者のもちたもう復活の能力による。

2ニ-9,13,おお私たちの神の計画の偉大なことよ。何となれば、今言った事のほかに神のパラダイスは義人の霊を放ち、墓は義人の体を放たなければならない。そこで、その霊と体とはまたもとの通りしよになる。ここですべての人間は不朽で不死不滅の者となり、しかもかれら

2ニ-9,13-1,生ける人出あってこの世で肉体を持っている私たちのように物事を知る力はその時に完全になるのである。

2ニ-9,14,それで私たちは、自分に罪があること、汚れていること、裸であることをすべて完全に覚るのである。しかし義人たちは自分の喜びと義しさとを覚りつくして、清浄の衣すなわち義の衣を着せられる。

2ニ-9,15,さて、すべての人々がこの第1の死から復活するとかれらはすでに不死不滅となっているから、イスラエルの聖者の裁きの座に出なければならない。それから裁判があって、すべての人々は神の神聖な裁判の法によって裁かれなければならない。

2ニ-9,16,そして義しい者たちはやはり義に留り、汚れた者たちはやはり汚れに止まる。従って汚れた者たちは悪魔と悪魔の使たちとなり、かれらのために用意された永久に消えぬ火の中へ行ってしまふのであって、かれらの苦しみは、果しなくいつまでも炎が昇る燃える硫黄の湖

2ニ-9,16-1,この事の確であるのは、主の生きていますように確であるのは、主の生きていますように確である。それはこれを主なる神が仰せになったからであって、また主のとこしえの言葉は決して空しくなるはずがないからである。

2ニ-9,17,おお私たちの神の偉大なことと義しいことよ。神はその言葉をことごとく遂げたもうからである。そしてその言葉がすでに神の朽ちから出たのであるから、神の律法は必ず履み行われねばならない。

2ニ-9,18,しかしごらん、イスラエルの聖者を信じ、この世の苦難を堪え忍び、世の辱しめを物ともしないイスラエルの聖者の聖徒である義人たちは、この世の始めからかれらのために用意された神の王国を受け嗣いで、その喜びはとこしえに充ち満ちる。

2ニ-9,19,おお私たちの神イスラエルの聖者の憐みの大きなことよ。神はその聖徒らをあの恐ろしい怪物である悪魔と死と地獄と永遠の苦しみである燃える硫黄の湖から救いたもう。

2ニ-9,20,おお私たちの神の偉大な神聖さよ。神はよるずのことを知りたもうから、その知りたまわないことはない。

2ニ-9,21,誰でもみな神の声に聞き従うならば、神はあらゆる人を救うためにこの世に降りたもう。見よ、神はおよそアダムの家族である物は男でも女でも子供でも、差別なくあらゆる命のある者の苦痛を受けたもう。

2ニ-9,22,神がこのように苦痛を受けたもうのは、一切の人類をあまねく復活させて、あの大裁判の火にすべての人を神の御前に立たせんがためである。

2ニ-9,23,神はすべての人に向って、汝らはイスラエルの聖者を全く信仰して悔い改め、神の御名によってバプテスマを受けよ。さもなければ神の王国には救われないと仰せになる。

2ニ-9,24,よって、もしもすべての人々が悔い改めて神の御名によってバプテスマを受けることなく終りまで忍ばなければ必ず救われないのである。イスラエルの聖者、主なる神がこう宣うたからだ。

2ニ-9,25,だから、神は律法を立てたもうたが律法がないところには罰がない、罰のないところには罰がない、罰のないところには罪の宣告もない。そこで、罪の宣告のない人々はイエスの身代りの贖罪によって、イスラエルの聖者の憐みを蒙る。それは、これらの人々が聖者の御

2ニ-9,25-1,救われるからである。

2ニ-9,26,身代りの贖罪は、律法を与えられたことのないすべての人々に主の正義が要求するところを満すから、かような人々は、あの恐ろしい怪物である死と地獄と悪魔と永遠の苦しみである燃える硫黄の湖から救われて、かれらに息をたもうたイスラエルの聖者である神の御許

2ニ-9,26-1,再び復されるのである。

2ニ-9,27,しかしながら、これまで律法を与えられ、まことにわれわれと同じ様にあらゆる神の命令を受けていても、これらの命令に背き、その試しの生涯を徒らにすごす者は禍なるかな。その有様は恐ろしいものであるからである。

2ニ-9,28,おお悪魔の狡猾な謀ごとよ。おお人間の虚栄と意志の弱さと愚さよ。人間は学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず、自分独りで解るとして神の訓戒をうち捨てるから、その智慧は愚かであって何の駅にもならず、かれらはついに亡びるのである。

2ニ-9,29,しかし、人間がもしも神の訓戒に従うならば、学問のあるのも善いことである。

2ニ-9,30,しかしながら、この世の物を豊に持つ富者たちは禍なるかな。かれらは自分がトシているから貧しい人々を見下げ、謙遜な人々をいじめ、そして心にいつも自分の宝を思っているから、かれらの宝はかれらの神である。しかしごらん。かれらの宝はかれらと共にまた

2ニ-9,31,また、聞こうともしないつんぼのような人たちは禍なるかな。かれらは亡びるからである。

2ニ-9,32,見よ、うともしないめくらのような人たちは禍なるかな。かれらも亡びるからである。

2ニ-9,33,心の清くない者は禍なるかな。かれらは終りの日に自分の罪悪を知って良心に責められるからである。

2ニ-9,34,偽りを言う者は禍なるかな。かれは地獄に落し入れられるからである。

2ニ-9,35,はかりごとを以て人を殺す者は禍なるかな。かれは殺されるからである。

2ニ-9,36,みだらな行いをする者は禍なるかな。かれらは地獄に落し入れられるからである。

2ニ-9,37,偶像を拝む者たちは禍なるかな。かれらは悪魔の王に呼ばれるからである。

2ニ-9,38,これを要するに、およそ罪を抱いたまま死ぬ者は皆禍なるかな。かれらは1度神の御許に立ち帰ってその御顔を仰ぐけれどもやはり罪があるからである。

2ニ-9,39,おお私の愛する兄弟たちよ。あの聖い神に対して罪を犯すのが恐ろしい悪事であることを思い起し、またあの狡猾な者の誘惑に負けるのもまた恐ろしい悪事であることを思い起せ。肉欲に迷う心は死を招き霊のことを思う心は永遠の生命を招くということを記憶せよ。

2ニ-9,40,おお私の愛する兄弟たちよ。私の言葉をよく聞け。イスラエルの聖者の偉大さを記憶せよ。私があなたたちに向ってひどいことを言ったと言うな。もしそう言うなら、あなたたちは真理をののしることになるのだ。なぜなら私はあなたたちの造り主の言葉を告げたのだか

2ニ-9,40-1,私は真理の言葉が、あらゆる汚れた者に対してひどく当るのが解っている。しかし、義しい者たちは真理を愛してゆるがないから真理の言葉を恐れぬ。

2ニ-9,41,それで、私の愛する兄弟たちよ。聖者である主の許へきて主の道が義しいことを記憶せよ。ごらん、人のふみ行うげき道は狭いけれども、それは人の前に真直ぐに通じている。その門を守る者はイスラエルの聖者であって、ここには僕をお使いにならない。そしてこのほ

2ニ-9,41-1,1つも通る所がないからこの門から入るほかはない。しかし、門を守る者が主なる神であるから、人はこれを欺むことができない。

2ニ-9,42,そして、門を叩く者には誰にでもこれを開きたもうのであるが、自分の学問があるからとて誇る学者、自分の智慧があるからとて誇る智慧、自分の宝があるからとて誇る富者、これらはみな主なる神がいやしみたもう者たちであるから、もしもかれらがその誇る所をうち捨

2ニ-9,42-1,神の前に自分らを愚な者だと思つて低くへりくだるのでなければ、神はかれらに門をお開けにならない。

2ニ-9,43,そして、かれらには誠の智者と慎み深い人たちの事などすなわち聖徒たちのために用意された行空はとこしえに隠される。

2ニ-9,44,おお私の愛する兄弟たちよ。私の言葉を記憶せよ。ごらん、私は私の衣を抜いでこれをあなたたちの前

に振り、私を救いたもう神がそのあらゆるものを見通す目を以て私を御覧になるように祈る。それであるから、終りの日にすべての人が各々その行いに応じて裁かれる

2ニ-9,44-1,あなたたちは私があなたたちの罪悪の責をわが身から振り払ったのをイスラエルの神が現に御覧になったことと、私があなたたちの亡びの責から免れて神の御前に輝いて立っていることを知るであろう。

2ニ-9,45,おお私の愛する兄弟たちよ。あなたたちの罪を悔い改めてあなたたちを堅く縛ろうとする者の鎖を振りほどき、あなたたちの救いの岩である神のところへ来れ。

2ニ-9,46,あなたたちが非常に恐れて縮み上がらないようまた自分のおそろしい罪悪をことごとく思い返して'全能の主なる神よ。汝の裁判は聖いが上に聖い。しかし、私は自分に罪のあることを知っている。私は汝の律法に背いたから、私の罪は私が犯したのである。悪魔が私に

2ニ-9,46-1,私はそのおそろしい悲慘に悩まされている'とやむを得ず叫ぶことのないように、正義の報いが義人たちに下る栄えの日、すなわち裁判の日を迎えるためにあなたたちの霊と肉体との用意をせよ。

2ニ-9,47,しかしごらん、私の兄弟たちよ。私がこれらのことのおそろしい真実をあなたたちに知らせる必要があるであろうか。あなたたちの心がもしも清ければ、私はあなたたちを責め苦しめようとするであろうか。もしもあなたたちに罪がなければ、私はあなたたちに真理の明

2ニ-9,47-1,明白さに従ってあからさまに勝たようとするであろうか。

2ニ-9,48,ふおらん、あなたたちがもしも聖かったならば、私は聖いことについてあなたたちに話をしよう。しかし、あなたたちは聖くないしまた私を師と仰ぐから、私は罪の結果をあなたたちに教えることがぜひ必要である。

2ニ-9,49,ごらん私は身も心も罪をにくみ、私の心は義を楽しむ。されば、私の神の聖い御名を讃めたたえよう。

2ニ-9,50,さあ、私の兄弟たちよ。誰でもどの渴いている人たちよ、水のところへ来れ。お金のない人たちよ、来て受けて食べよ。まことに、来てお金を払わず代金もなしに葡萄酒と乳とを受けよ。

2ニ-9,51,それであるから、価値のないものに金を使うな。満足させることのできぬものに労力を費すな。勉めて私の言うことを聞き、私のこれまでに言ったことを記憶せよ。そしてイスラエルの聖者のもとに来て鎖もせず汚れることもできぬものを飽くまで食べて、あなたたちの

2ニ-9,52,ふおらん私の愛する兄弟たちよ。あなたたちの神の言葉を記憶せよ。そしてたえず昼は神に祈り、夜は神の聖い御名に感謝せよ。そしてあなたたちの心を喜ばせよ。

2ニ-9,53,ごらん、主の誓約が如何に大きいかを。また、主が人間にいかばかりいつくしみ深いかを。主は偉大であり恩恵と憐みに富ませたもうので、私たちの子孫はこの世からことごとくは肉体で亡びてしまわず、主に守られてこれから先の代に師すら得るの家の義しい枝となる

2ニ-9,53-1,約束をなしたもうた。

2ニ-9,54,さて、私の兄弟たちよ。私はもっとあなたたちに話をしたいのですが、明日になったら私の言い残したことを言うことにしよう。アーメン”。

2ニ-10,,ニ-ファイ第2書 第10章

2ニ-10,\*-\* ,ヤコブの訓えのつずき。イスラエルの降臨。約束の地に王のないこと。シオンに向って戦う者の滅亡。

2ニ-10,1,“さて、私の愛する兄弟たちよ。私ヤコブは先に私が話したこの義しい抱についてもう1度話をする。

2ニ-10,2,ふおらん、私たちが得た約束は私たちが得た約束は私たちが肉体をもっているこの世についてんの約束である。それで私に示されたように、私たちの子孫の中には無信仰のために肉体の命を落す者が多いが、神は多くの者を憐みたまうから、私たちの子孫は元に復されて

2ニ-10,2-1,贖い主が真に解る道にくる。

2ニ-10,3,それで私があなたあたちに話をしたように、キリストは(贖い主の御名をこう申し上げるように昨晚天使が私に告げたもうた)世界の中で1番罪深いユダヤ人の中へお出にならなければならない。そしてユダヤ人はキリストを十字架にかけるが、それは私たちの神が必要

2ニ-10,3-1,認めたもうからであって世界中どこにもかれらの神を十字架にかけるような国民はユダヤ人のほかにない。

2ニ-10,4,それは、もしも神がほかの国民の中で大きな奇跡を現したもうならば、その民は悔い改めてこの奇跡を現わす者が自分たちの神であることを知るからである。

2ニ-10,5,エルサレムにいる人たちは、その罪深い行いと祭司の偽善売教とによって、キリストに向ってその心をかたくなにしキリストを十字架にかける。

2ニ-10,6,それであるから、かれらの罪深い行いのために、破滅と飢饉と疫病と流血とがかれらを襲い、その中で滅亡を免かれる者たちは万国の民の中に散らせる。

2ニ-10,7,しかしごらん、主なる神が仰せになるには、かれらがわれをキリストであると信ずる日がくる時には、肉体があるこの世のうちにその受け嗣ぎの地へ復される。これはわれがかれらの先祖と誓約をしたことである。

2ニ-10,8,その時には、かれらは永く散り散りになっていた海の島々と世界の4方から集ってくる。また異邦人から成る諸々の国民は、これをその受け嗣ぎの地へつれ戻す業によってわが目に大いなる者となるのであると、これは神の仰せになる言葉である。

2ニ-10,9,まことに異邦人の王たちはかれらの養父となり、后らはその養母となる。それであるから、主の約束は異邦人にとって大きなものである。何となれば、主がこれを仰せになったのであって誰がこれと争えるであろうか。

2ニ-10,10,しかしごらん、神が仰せになるには「この世は汝らの受け嗣ぎの地となるべく、異邦人その上にて祝福を受くべし。

2ニ-10,11,またこの地は異邦人にとりて自由の地となり、その異邦人を治むる王はその地になかるべし。

2ニ-10,12,われはすべてほかの国民が侵さざるようにこの地を防ぎ固めんとす。

2ニ-10,13,シオンに逆らいて戦う者は亡びん。

2ニ-10,14,われに背きて王を立つる者は亡ぶべし。主にして天の王なるわれは、わが言葉に聞き従う者の王となり、とこしえにその光となる。

2ニ-10,15,故にわれが人間が肉体をもつこの世に在る中に履むべきものとして人間に約束をなしたる誓約をなしたる誓約を果すためには、人が秘密に行う暗黒の業、殺人そのほか諸々の憎むべき業を必ず破らざるべからず。

2ニ-10,16,故にシオンに逆らいて戦う者は、ユダヤ人も異邦人も、奴隷も自由民も、男も女も差別なく伴に亡ぶべし。これらは全世界の浮れ女なるによりてわれにくみさざる者はわが敵なればなり。

2ニ-10,17,われは、人間が肉体をもつこの世に在る中に履むべきものとして人間に約束したる誓約を果さん'と。

2ニ-10,18,それであるから私の愛する兄弟たちよ、神は仰せになる'われは異邦人の手によりて汝らの子孫を悩まさんとす。さりながら、われはその後異邦人の心を柔ぐるにより、かれらは汝らの子孫にとりて父のごとくに成るべし。それ故に、異邦人は祝福を受けてイスラエルの

2ニ-10,18-1,共に数えらるべし。

2ニ-10,19,されば、われはこの地を神聖にして、汝らの子孫と汝らの子孫の中に数えらるる者とが、いつまでも受け嗣ぎの地として持つようになすべし。この地はあらゆるほかの土地に勝りたる選り抜きの土地なれば、われはそこに住む者が皆われを礼拝せんことを求む'と。

2ニ-10,20,さて、私の愛する兄弟たちよ。私たちの憐み深い神は、これらの事について大そう偉大な知識を与えたもうたから、私たちは神を心に思い起して、私たちの罪を捨てようではないか。また私たちは神に捨てられたのではないから、頭を垂れて恥じないようにしようではな

2ニ-10,20-1,しかし、私たちは一旦受け嗣ぎの地から追い出されはしたけれども今はそれよりも善い土地につれてこられた。これは主が海を私たちの道となしたもうたからであって、私たちは今海の島の上に着いている。

2ニ-10,21,しかし、主が海の島々の上にある者たちと結びたもうた誓約は大きな誓約であるから、島々というからにはこの島のほかにももっと島があって、これにも私たちの兄弟たちが住んでいる。

2ニ-10,22,ごらん、それは主なる神がそのみこころのままに、時々イスラエルの家の人々を、よそへつれ出したもうたことがあるからである。さてごらん、主は折り取られた人々を皆忘れたまわらないから、私からのこともまた忘れたまわらない。

2ニ-10,23,それであるから、あなたたちは喜び勇め。そして、あなたたちは自分の思う通りに行う自由があるから、限り無い死の道を選ぶかまたは永遠の生命の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえておけ。

2ニ-10,24,それであるから、私の愛する兄弟たちよ、神のみこころに従って悪魔と肉体の意志に従ってはならない。神に従った後あなたたちの救われるのは、神の御恵みにあり、また神の御恵みによることを記憶せよ。

2ニ-10,25,それであるから、願わくは神が復活の能力をもってあなたたちを肉体の死からよみがえらせ、またキリストの身代りの贖罪の力によって、あなたたちを永遠の死からよみがえらせたもうて、あなたたちが神の永遠の王国に迎え入れられ聖い恵みによって神を讚美するよう

2ニ-11,,ニーフアイ第2書 第11章

2ニ-11,\*-\*,ヤコブの訓えのつずき。神の御言葉の証明。贖い主の予表。

2ニ-11,1,さてヤコブは、その時このほかに多くのことを私の民に話をした。しかしながら、私は以上のことだけを記すにとどめた。私はそれだけで充分であるからである。

2ニ-11,2,さて私ニーフアイは心にイザヤの言葉を喜び楽しむから、もっとその言葉を書き誌そう。イザヤも、私が贖い主を見たと同じようにまことにわが贖い主を見たから、私はイザヤの言葉を私の民へ告げる言葉になぞらえてこれを私のすべての子孫に伝えよう。

2ニ-11,3,私の弟の夜昆布もまた、私が見たと同じように贖い主を見た。それであるから、私の言うことがほんとうであることを私の子孫に証明するために、私はこの2人の言葉を子孫に伝えよう。神"われは3人の証言をもってわが言葉を確めん"と仰せになったけれども、神は

2ニ-11,3-1,多くの証言を遣わしたもうて、その言葉をことごとく証明したもうのである。

2ニ-11,4,ごらん私はキリストの降臨がほんとうであることを私の民に証明するのを心に喜ぶ。何となれば、モーセの律法はキリストの降臨が確であることを証するために与えられたからである。また、世の始めから神が人間に与えたもうたのは、ことごとく前もってキリストのこ

2ニ-11,4-1,表している。

2ニ-11,5,私はまた主が私たちの先祖と結びたもうた誓約を身も心も挙げて喜び、またまことに人間を死から贖う永遠の大きな計画にあらわれる主の恵みと正義と力と憐みとを見て身も心も楽しむ。

2ニ-11,6,また私はキリストが来りたまわないならば、番人が亡びなければならぬことを私の民に証明するのを心に喜ぶ。

2ニ-11,7,それは、もしもキリストがなければ神もなく、もしも神がなければ万物の創造もないから私たちの存在もない。しかしながら、神は実在し、その神はキリストであって自ら定めたもうた時期が満ちる時に降臨したもうのである。

2ニ-11,8,さて私はイザヤの言葉を少し書く。それは誰でも私の民の中でこれらの言葉を見る者が、万人のことを心に勇み喜ばんがためである。さて、イザヤの言葉は嗣ぎのようであるが、私の民はこれを自分たちとすべての人となぞらえるがよい。

2ニ-12,,ニ-ファイ第2書 第12章

2ニ-12,\*-\* ,真鍮版に誌された予言、イザヤ書第2章と比較せよ。

2ニ-12,1,アモツの子、イザヤが見たユダとエルサレムとにかかわること。

2ニ-12,2,これは終りの日に主の言えの山が山々のいただきに立ち、もろもろの古山よりも高くぬきんでて、よろずの国民が流れのように集ってくる時に起ることである。

2ニ-12,3,その時、多くの民が行って言う。さあ、われらは主の山にのぼり、ヤコブの神の家に行こう。行けば神がその道を教えたまひ、われらは神の道を歩むであろうと。何となれば、律法はシオンからで、主の言葉はエルサレムから出るはずであるからである。

2ニ-12,4,主は諸々の国の中に裁きをして多くの民を責めたもうから、かれらは剣を鋤の先にうちかえ槍を鎌にうちかえ、国は国にむかって剣をあげずまた戦の術も学ばない。

2ニ-12,5,ヤコブの家よ、きたれ。われらは主の光の中にあゆもう。まことにきたれ。汝らはみな迷ってたれもかれも悪い道に行かぬ者はない。

2ニ-12,6,それであるから主よ、汝は主の民ヤコブの家をすてたもうた。これはかれらが東の方から養いを受け、ペリシテ人のように占い者の言葉に耳を傾け、よその国の人たちの子らと好むからである。

2ニ-12,7,またかれらの地は金銀に満ちその宝にかぎりがなく、馬もその地に満ち、戦車もまた数かぎりない。

2ニ-12,8,かれらの地には偶像も充ち満ちて、人はみな自分の手のわざ自分の指の造る物をおがむ。

2ニ-12,9,位の低い者はひれ伏せず辛いのは高い者はへりくだらない、それであるから、これを許したもうな。

2ニ-12,10,悪人たちよ、岩の中にはいり、土の中にかくれよ、汝らは主をおそれそのみいつのかがやきに当たって打たれるからである。

2ニ-12,11,その日には、目をあげてたかぶる顔はひくくせられ、おごる人々はかがめられ、ただ主だけがあがめられたもう。

2ニ-12,12,それは、万群の主の日がじきに万国の民あらゆる者の上に来て、たかぶる者、おごる者あらゆる高慢な者がこれに遭ってひくくせられるからである。

2ニ-12,13,すべてレバノンの杉も高くそびえるから主の日に遭い、バシヤンの樅もことごとくこれを遭い、

2ニ-12,14,すべての高い山、すべての低い山、すべてのおごる諸国も、もろもろの民も、

2ニ-12,15,すべての高いやぐら、堅固にめぐらした石垣も、

2ニ-12,16,海に浮ぶすべての船も、タルシシのすべての船も、美しく楽しい景色もまたことごとくその日に遭う。

2ニ-12,17,この日には、人のたかぶる心はかがめられ、人の高慢はひくくせられ、ただ主だけがあがめられたもう。

2ニ-12,18,こうして、主は偶像を全く廃したもう。

2ニ-12,19,主が立ってはげしく地をふるい動かしたもうとき、人々はそのみいつのかがやきに打たれて主を恐れるに至るから岩の洞穴と地の洞くつに入る。

2ニ-12,20,その日、人々は自分のおがむために造った銀の偶像と金の偶像とを、もぐらもちとこうもりになげ与え、

2ニ-12,21,岩のすき間か、しわしい岩の頂ににげこむ。かれらは主が立ってはげしく地をふるい動かした時、そのみいつのかがやきに打たれて主をおそれるからである。

2ニ-12,22,なんじら、話から息の出入りする人間に依りたのむことをやめよ。かようなものがなんでかぞえるに足りようか。

2ニ-13,,ニ-ファイ第2書 第13章

2ニ-13,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき、イザヤ書第3章と比較せよ。

2ニ-13,1,見よ、万群の主なる主は、エルサレムとユダとがたのむ杖柱すなわち杖とたのむすべてのパン、柱とたのむすべての水、

2ニ-13,2,威勢のある者、いくさびと、さばきびと、予言者、分別の深い者、故老、

2ニ-13,3,50人のかしら、位の高い者、顧問、名匠、言葉の巧みな者を除いてしまいたもう。

2ニ-13,4,われは小児らをかれらの君とし、みどり児らにかれらを治めさせよう。

2ニ-13,5,民は民を相しいたげ、人はみなその隣びとを相しいたげ、子供は故老にむかって高ぶり、賤しい者は貴い人にむかって偉がる。

2ニ-13,6,その時、人は父の家にある兄弟を引き留めて言う。汝は衣服がある、汝はわれわれのつかせ人となって、汝の手でこの零落をとりおさめよと。

2ニ-13,7,その時その兄弟は誓って言う。わが家には食も衣服もないから汝らを回復する者にはなれない。われを民のつかさ人にしてくれるな。

2ニ-13,8,エルサレムとユダとの言葉と行いとは、みな主にそむいてその栄光の目を怒らせたから、エルサレムはくずれユダは亡びたのである。

2ニ-13,9,かれらの顔色はかれらの悪いことを証し、その罪があたかもソドムの罪のようであることを示すから、かれらはその罪を隠すことができない。かれらは自分でその罪悪の報いを招いたのであるから、それらの者は永久に禍なるかな。

2ニ-13,10,お前たちは義人に言え、汝は自分の行いから生ずる善い実を味わうから幸福であると。

2ニ-13,11,悪人はその行いに相応する報いを受けて亡びるから禍なるかな。

2ニ-13,12,わが民は小児にしいたげられ、女に治められる。ああわが民よ、汝らを導く者たちは汝らを誤らせ汝らの道を破る。

2ニ-13,13,主はとこなすために立ち上り、民を裁くために立つ。

2ニ-13,14,主はその民の故老らと君主らの裁判を開く。汝らは葡萄畑の実を食いつくし、貧しい者からかすめとって自分の家に入れた物も食いつくしたからである。

2ニ-13,15,汝らはわが民をさんざんに打ち叩き、貧しい者の膏血をしぼり取る。なぜこんなことをするのか。これ万群の主なる神の言葉である。

2ニ-13,16,さらに主は伊井たもう。シオンの娘たちは高慢な風をして首を伸し、ながしめに見ながら歩み、しなを作って歩みながら足で鈴のような音を出す。

2ニ-13,17,この故に主はシオンの娘らの頭のいただきをかさぶたで悩まし、その隠し所をあらわす。

2ニ-13,18-23,その日主はかれらの鈴のように鳴るかざり者、神にかぶせる網、月形の輪かざり、鎖、腕輪、首巻、帽子、脚のかざり、頭紐、耳輪、指輪、鼻のかざり玉、幾重ねの着換、外套、頭巾、髪を縮らす金具、鏡、精巧なリンネル、被り物、顔網などのかざり立てを取り去る。

2ニ-13,24,そしてこころよい香りはかわって悪い臭となり、帯はかわって裂けた布となり、美しく整えた髪はかわってかぶるとなり、胸着はかわって粗布の帯となり、美しい顔は焼けあととかわる。

2ニ-13,25,また汝の男は剣にたおれ、汝の勇士は戦で死ぬ。

2ニ-13,26,故にその門は悲しみに沈み、シオンは廢れて地にすわるのであると。

2ニ-14,,ニ-ファイ第2書 第14章

2ニ-14,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき、イザヤ書第4章と比較せよ。

2ニ-14,1,その日には7人の女が1人の男にとりすがって言う。われらは自分の力で食べ自分の力で着るから、ただわれらに汝の名前を与えてわれらに汝の名前を与えてわれらの恥をとり除けと。

2ニ-14,2,その日にはまた主の杖が栄光を得て美しくなり、地から生ずるものの実はイスラエル人の中で逃げのこっている者にとりすぐれて美しくまた善くなる。

2ニ-14,3,そしてシオンにのこる者、エルサレムに留まっている者、すべてこれらエルサレムの中に生きのこっている者の中に記された者は聖いと言われる。

2ニ-14,4,それは主がその裁判の力と焼きつくる力を以て、シオンの娘らの汚れを洗い清め、エルサレムの中からその血を除きたもう時がくるからである。

2ニ-14,5,主はシオンの山にあるすべての住所と諸々の会堂の上に、昼は煙と雲とを起し夜は焰の出る火の光を發したもう。シオンの栄えのある所にはすべてふせぎがあるからである。

2ニ-14,6,また1つの幕屋があつて昼は熱さをふせぐ陰となり避け所となり、また暴風と雨とを避けて隠れる所となる。

2ニ-15,,ニ-ファイ第2書 第15章

2ニ-15,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第5章と比較せよ。

2ニ-15,1,さの時にわれはわが深く愛する者に、その葡萄畑を歌ったかれの歌を唱って聞かせよう。わが深く愛する者は土のよく肥えた小山に1つの葡萄畑がある。

2ニ-15,2,かれらはまわりに垣根を結び、その中の石をとりつけて最もよい葡萄を植え、畑の中にはやぐらを建て葡萄のしぼり場をつくって葡萄の生るのを待ち望んでいたのに実ったのは野葡萄であった。

2ニ-15,3,さてエルサレムに住む人よ。ねがわくは、われが悪いが畑が悪いが審判せよ。

2ニ-15,4,われがすでに葡萄畑にしたことのほかに、まだ何のなすべきことがあったか。かようにして、われは葡萄の生るのを待っていたのに実ったのは野葡萄であった。

2ニ-15,5,さあ、われがその葡萄畑にすることを言って聞かそう。われはその葡萄畑の生垣をとり去って食い荒らされるにまかせ、その石垣を壊して畑がふみ荒らされるにまかせよう。

2ニ-15,6,われは畑を荒らさせて、枝をさらせも土をたがやさせもせず、いばらとおどろとを生えさせてやり、また雲にいいつけてその植えに雨を降らせないようにしよう。

2ニ-15,7,そもそも、万群の主の葡萄畑は、すなわちイスラエルの家であってユダの人々はその喜びたもう植木である。主は正しい裁判を望たもうたのに暴虐があり、正義を望たもうたのにかえって泣く声が聞こえた。

2ニ-15,8,空き地のないまでに家を建てつらね、かようにして自分たちひとり広井聖会の中に居ろうとする者は禍である。

2ニ-15,9,万群の主がわが耳に告げても歌。実に多くの家々が荒れ果て多くの美しい大都市が無人の境となる。

2ニ-15,10,10エーカの葡萄畑はあずか1バテを結び、1ホメルの種はわずかに1エバしか結ばない。

2ニ-15,11,朝早くから起きて強い酒を追いもとめ、夜になるまで飲みつづけて酒に身を焼く者は禍である。

2ニ-15,12,その席には立琴があり胡弓があり鼓があり笛があり葡萄酒がある。しかしかれらは主の御業を重く見ずその御手の働きを考えない。

2ニ-15,13,この故に、わが民は知識がないために束縛の身となり、その位の貴い者は飢え、そのもろもろの民は渴きによって乾上る。

2ニ-15,14,その故に、地獄は拡がってその口をかぎりなく大きく開く。わが民の中の栄華、群衆、にぎわいおよび喜び楽しむ人々はついに地獄へ落ちる。

2ニ-15,15,位のいやしい者はいよいよ低くされ、威勢のある者はおとされおごる者の目は辱しめを受ける。

2ニ-15,16,しかし万群の主は裁判をしたもうからあがめられ、聖い神は義しいから神聖であると仰がれたもう。

2ニ-15,17,この時小羊はほしいだけ草を食べ、旅人は来て肥えた者のすてたところを食う。

2ニ-15,18,うぬぼれの心の縄で悪事をひき、車の縄でひくように罪をひき、

2ニ-15,19,われらにかれの業が見えるようにかれをいそがせよ。われらにイスラエルの聖者の勧めが知れるようにそれを近よらせよ、と言う者は禍である。

2ニ-15,20,悪を善と呼び、善を悪と呼び、光のかわりに闇、闇の代りに光を以てし、甘さを苦さにかえ、苦さを甘さにかえる者は禍である。

2ニ-15,21,自分を見て賢いと思い、聡明であると思う者は禍である。

2ニ-15,22,葡萄酒を飲むに強い者であり、濃い酒を合わせて飲むに堪える者は禍である。

2ニ-15,23,かれらは、いろいろによって悪いものを義しいとし、義人からその義をうばう。

2ニ-15,24,これによって、火が刈り株を焼き焔がもみがらを燃すように、かれらの根は鎖はてその話は塵のように散ってしまう。かれらは万群の主の律法をすてて、イスラエルの聖者の道を侮ったからである。

2ニ-15,25,この故に、主はその民によって怒りを燃やし、手をのばしてかれらを打ちたもうたから、山々はふるい動きその民のしかばね街の中でひき裂かれた。それでも主の怒りはまだ解けないで、なおその手をのばしたもう。

2ニ-15,26,主は国々のたみを招く旗を遠い所に立てたまい、世界の端から鋭い声を出して人々を呼びたもう。見よ、人々は急いで走って来るその中に1人の疲れる者もなくまたつまずく者もない。

2ニ-15,27,その中に1人のまどろむ者も眠る者もなく、またその腰の帯はとけず、その靴の紐も切れぬ。

2ニ-15,28,またその矢は鋭くその弓はみな張られ、その馬のひづめはひうちいしのもようであり、その車はつむじかぜのもようであり、その呼ぶ声はさながら獅子の声である。

2ニ-15,29,かれらはちょうど和解獅子のようにほえ、ほえながら獲物をとらえて安全に運び去るからこれを救う者がいない。

2ニ-15,30,その日にかれらが世の人にほえたけることは海の鳴りどよめくようであり、もし世の中をのぞめば闇と悲しみがあって天の光が暗いのが見えるであろう。

2ニ-16,,ニ-ファイ第2書 第16章

2ニ-16,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第6章と比較せよ。

2-16,1,ウジヤ王の死んだ年に、われは高くあげられた御座に主の座したもうのを見たがそのもすそは神殿に  
みちていた。  
2-16,2,御座の上にはセラフが居て各々6枚の翼があり、2枚でその顔を被い、2枚でその足を被い、2枚でもつ  
て飛び、  
2-16,3,互いに呼んで言う聖なるかな聖なるかな聖なるかな版郡の主その栄光は全地に満つと、  
2-16,4,かように呼ぶ者の声によって戸の柱はゆり動き、神殿の中は煙にみちていた。  
2-16,5,このときにわれは言った、禍なるかな、われは亡びるのだ。われは汚れたくちびるの者であり、また汚れ  
たくちびるの民の中に住むのに、版郡の主であるこの目である王をこの目で見ただからであると。  
2-16,6,このとき1人のセラフが、火ばしで祭壇の上からとった赤い火を手にしてわが側に飛んで来て、  
2-16,7,わが口にその赤い火をすえて言う。見よ、この火が汝のくちびるにさわったから、すでに汝の悪はとり去  
られ汝の罪は清められたと、  
2-16,8,また主の声がして、われは誰をつかわそうか、わがために誰が行くかと言いたもうのが聞こえた。それで  
われは言った。われここにあり、われを遣わしたまえと。  
2-16,9,主は言いたもう、言ってこの民に必ず聞けと告げよ。しかしかれらは解らなかつた。また言いたもう、必ず  
見よと告げよ、しかしかれらは悟らなかつた。  
2-16,10,また言いたもう、この民がその目に見、その耳に聞き、その心に悟によって心を改めて医されることの  
ないようその心をぶくし、その耳をふさぎ、その目をとじよと。  
2-16,11,よってわれは、いつまでこのようであるか主に問いたずねたところ、主は答えたもうた。もろもろの町が  
亡びてその中に住む者がなく、家々がなく地が全く荒れはてて、  
2-16,12,主が人々を遠方に移すまでである。その地の中には人が大いに退き去ることがある。  
2-16,13,しかしその中の十分の一の人が残ってくるが、これも食いつくされる。さりながら、テレピントと櫛の木は  
葉が落ちてもその木の実質がなくなならないように、聖い種である十分の一の人々はその地の実質となるのである。  
2-17,,ニ-ファイ第2書 第17章  
2-17,\*-\*、真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第7章と比較せよ。  
2-17,1,ウジヤの子をヨタメと言い、ヨタムの子をアハズと言う。アハズがユダヤの王であった時に、スリヤ王のレ  
ジンとレマリヤの子イスラエル王であるペカは、エルサレムにのぼってきてこれを攻めたが勝てなかつた。  
2-17,2,ここにスリヤとエフライムとが聯合したがダビデの家には知らされたから、王の心もその民の心も森の木が  
風にそよぐようにふるえ動いた。  
2-17,3,この時、主がイザヤに言いたもうた。今、汝と汝の子シャルヤシュブは一しょに出て行って布のさらし場  
の道にある上の池の水道の口でアハズを迎え、  
2-17,4,そしてアハズに言え、汝つつしんで静にせよ。スリヤと共に来たレジンとレマリヤの子がいかにはげしく  
怒っても、それはくすぶっているたいまつ2つの燃えさしのようなものである。汝おそれてはならない、また臆病に  
なつてはならない。  
2-17,5,スリヤとエフライムおよびレマリヤの子は、汝をおとし入れるためにわるだくみをめぐらして言う。  
2-17,6,われらはユダヤに攻めのぼってこれをなやまし、これを破って道を切り開き、ダビエルの子をその中に  
立てて王にしようではないかと。  
2-17,7,しかし主なる神は言いたもう。そのはかりごとを行われずまた成功もしない。  
2-17,8,スリヤの都はダマスコでダマスコの頭はレジンである。エフライムは65年もたたぬうちに破れて国をなさ  
ないようになる。  
2-17,9,またエフライムの都はサマリヤでサマリヤの頭はレマリヤの子である。もし汝らがこれを信じなかつたら必  
ず立つことができなかつた。  
2-17,10-11,主は再びアハズに付けて言いたもう。汝の神である主に1つのしるしを求めよ。そして、それが深  
い所もしくは上の高い所にあるように求めよ。  
2-17,12,アハズはこれに答えて言った。われはこれを求めない、また主を試みることをしないと。  
2-17,13,また言った。ああダビデの家よ。今汝ら聞け、汝らは人をわずらわすことを以てさいなこととして、  
なたわが神もわずらわそうとするかと。  
2-17,14,これによって主は自ら1つのしるしを汝らに与えたもう。見よ、処女がみごもって男の子を生み、そのこ  
の名はインマヌエルと言われる。  
2-17,15,この男の子は悪をすてて善を選ぶ智慧を得るために、バターと蜂蜜とを食する。  
2-17,16,この子が悪をすてて善を選ぶ智慧を得ない中に、汝らにくむ国は早くもその2人の王を失う。  
2-17,17,しかし主は汝らと汝らの父の家とにアッスリヤ王を来させたもう。これは実にエフライムがユダから離れ  
てこのかた少しもなかつた日である。

2ニ-17,18,この日、主はエジプトのはるかかなところからはえを招き、アッスリヤの地から人を呼びよせたもう。

2ニ-17,19,これらのはえと蜂とは飛んできて荒れた谷、岩の谷、岩の穴、またはあらゆるいばらと灌木の上とにとまる。

2ニ-17,20,同じ日に主は借り入れたかみそり、すなわち河の向うにあるアッスリヤの王によって頭と足の毛をそりたもう。このかみそりはまたひげもそりおとすのである。

2ニ-17,21,この日に、ある人が1匹のわかい牝牛と2匹の羊とを飼っている。

2ニ-17,22,これから出る乳が豊かであるからこの人はバターが食える。まことに地に残っている蜂蜜とを食う。

2ニ-17,23,またその日に、銀1千の価格がある千本の葡萄があったところは、みないばらとおどろが生えるところになる。

2ニ-17,24,どこもかしこもみないばらとおどろになるから、人々は弓と矢を以てそこへ行く。

2ニ-17,25,しかし鋤でたがやすすべての犯にはいばらとおどろの生えるおそれがなく、かえって牛を飼い小さな家畜のふむ所になるのである。

2ニ-18,,ニ-ファイ第2書 第18章

2ニ-18,\*-\*、真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第8章と比較せよ。

2ニ-18,1,さらに、主の言葉がわれに告げたもうた。1つの大きな巻物を取り、それに世の人の筆をもってマヘル、シャルル、ハシ、バズのことを誌せと。

2ニ-18,2,われは真実な証人を選んでこの証券をさせた。1人は妻子のウリヤで、1人はエベレキアの子のゼカリヤである。

2ニ-18,3,われがわが妻の所に行ったところ、みごもって男の子を生んだ。そのとき主がわれに言いたもうた。この子の名をマヘル、シャルル、バズとつけよ。

2ニ-18,4,この子がまだ父がまだ父よ母よとさえ言いならわれない中に、ダマスコの宝とサマリヤの分捕品とは、早くも取られてアッスリヤ王の前に出されるからである。

2ニ-18,5,主はまたわれに言いたもうた。

2ニ-18,6,この民は静かに流れるシロアの水をすてて、レジンとレマリヤの子とを喜ぶ。

2ニ-18,7,それであるから、主は大河の水をおびただしくしたたかに彼らに注ぎたもう、これはすなわちアッスリヤの王がその威勢をことごとくあげておそい来るのであって、それはあらゆる水路をこえて流れこみ、もろもろの岸をこえ、

2ニ-18,8,ユダのなかを通ってあふれひろがり、ついには首に達する。インマヌエルよ。この王の張る翼はなんじの地にあまねくみちわたる。

2ニ-18,9,もろもろの民よ汝ら聯合すればずたずたに破られる。遠くの国々の者よみな聞け。汝ら腰に帯をしめたらずたずたに破られる。腰に帯をしめたらずたずたに破られる。

2ニ-18,10,汝ら共にはかれ、その決議は空しくなる。汝ら言葉を出せ、その言葉は行われぬ。神がわれらと共にましますからである。

2ニ-18,11,主は言葉に能力を入れてこのようにわれに言いたもうた。

2ニ-18,12,汝はこの民から同盟をすすめられるものたちに、同盟をすすめてはならない。また汝はこの民のおそれるところをおそれてはならない、何ごともおそれるな。

2ニ-18,13,汝らはただ万群の主を神聖としてこれをあがめ、これをおそれよ。

2ニ-18,14,かくすれば、主は聖殿となりたもう。しかし、イスラエルの2つの家にはつまずく石となり、さまたげる岩となり、エルサレムに住む者にはわなとなりおとし穴となりたもう。

2ニ-18,15,従って、その中にはつまずき、落ち、つぶれ、わなにかかり、捕らえられる者が多い。

2ニ-18,16,わが弟子たちの中に、証詞を1つにまとめ律法を封ぜよ。

2ニ-18,17,われはヤコブの家から今顔をかくしたもう主を待ってその降臨を期待する。

2ニ-18,18,見よ、われと主のわれに与えたもうた子たは、イスラエルの中にしるしと驚嘆すべきことをあらわす者であって、シオンの山にまします万群の主からつかわされた者である。

2ニ-18,19,もし人が汝ら向って親しい霊を持つ者とぬすみ見てささやく占いに求めよとすすめる時、生きている者が死んだ者からおとずれを受けようとするなら、民は自分の神に求めるべきではないか。

2ニ-18,20,律法と証詞とにとよれ、もしもこれによって話さないとするならば、それは真の光がかれらにないからである。

2ニ-18,21,かれらはつらい境涯に飢えながらその時を送り、飢えた時にはいら立ち怒ってその王とその神とをのろい、その神を上に向けて見る。

2ニ-18,22,また地を見わたせば、禍と暗黒と苦痛の暗とが見えるだけで、かれらは暗いところに追いやられるのである。

2ニ-19,,ニ-ファイ第2書 第19章

2ニ-19,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第9章と比較せよ。

2ニ-19,1,さりながら、この暗は始め主がゼブルンの地とナフタリの地とを苦しめたまい、またその後紅海の道に沿うた地ヨルダンの向うの地もろもろの国民の住むガリラヤを、これよりも激しく悩ましたもうた時の苦悩の暗とはちがっている。

2ニ-19,2,暗やみを歩いた民は大きな光を見、その光は死のかげの地に住む人々を照らした。

2ニ-19,3,主は国民をふやしてその喜びを増したもうたから、国民は借り入れ時に喜ぶように分捕物をわける時に楽しむように御前に喜び楽しむ。

2ニ-19,4,それは汝がかれの艱難のくびきとその艱難のくびきとその肩の棒とかれをしいたげる者の鞭とを折ってしまわれたからである。

2ニ-19,5,ものふの戦はみなさわがしい響と血にまみれた衣によって行われるが、これは燃える薪と焼打によって行われる。

2ニ-19,6,ひとりのみどりごがわれらに生れた。ひとりの男の子がわれらに与えられた。かれはまつりごとを委ねられ、その名は靈妙、指導者、大能の神、永遠の父、平和の君となえられる。

2ニ-19,7,ダビデの位と国との平和と支配の権力は、いよいよ況してかぎりがない、これは今から後とこしえに正義と裁判とをもって、とこしえに位と国とを整えて確く保つためである。万群の主の熱心によってこれが成る。

2ニ-19,8,主はその言葉をヤコブに送ったもうたが、それがイスラエルに伝わってきた。

2ニ-19,9,すべて獲フライ無とサマリヤの住民はみな知るようになるが、かれらはおごり勇んで言う。

2ニ-19,10,れんがが崩れ落ちたが石で建てる。いちじくの木が切られたが杉の木でこれに代えると。

2ニ-19,11,それであるから、主はレジンの敵をこぞってイスラエルを攻めさせ、主はレジンの敵をこぞってイスラエルを攻めさせ、その敵を集めて一致させたもう。

2ニ-19,12,すなわち イスラエルの前にはスリヤ人があり、後にはペリシテ人がある。前後の敵はその口を開けてイスラエルをのみこもうとする。それでも主の怒りはまだ解けないでなおその手をのばしたもう。

2ニ-19,13,それはこの民が自分を打つ者に立ち帰らず、また万群の主を求めないからである。

2ニ-19,14,それであるから主は1日の中にイスラエルの首と尾と枝と藺草とを切り取ってしまったもう。

2ニ-19,15,その首とは古老であり、その尾とは偽りを教える予言者である。

2ニ-19,16,この民を導く者は民を誤らせるから、その導きを受ける者は亡びる。

2ニ-19,17,従って主はイスラエルの若者たちを喜びたまわぬ。またそのみなし児とやもめとを憐みたまわぬ。その民はみな偽善者であって悪事を行い、各々の口でみな愚かなことを言うからである。それでも主の怒りはまだ解けないで、なおその手をのばしたもう。

2ニ-19,18,悪は火のように燃えるもので、いばらとおどろとを焼きつくし森の木のしげる所に燃え上るから、これらは煙の柱となって立ち上る。

2ニ-19,19,万群の主の憤りによって國中みな暗くなり、民は燃えくさとなって誰一人その兄弟の命を救う者もない。

2ニ-19,20,人は右の方に物をつかんでもなお飢え、左の方に物を食ってもなお飽かず、人おのおのみなその腕の肉を食う。

2ニ-19,21,マナセはエフライムをエフライムはマナセを食い、この2つは聯合してユダを攻める。それでも主の怒りはまだ解けないでなおその手をのばしたもう。

2ニ-20,,ニ-ファイ第2書 第20章

2ニ-20,\*-\*,真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第10章と比較せよ。

2ニ-20,1,正しくない法令を定め、自分できめたきびしい条例を書くものは禍である。

2ニ-20,2,かれらは乏しい者に裁判をこぼみ、わが民の中の貧しい者から権利をうばい、やもめをしいたげ、みなし児のものをかすめ取る。

2ニ-20,3,なんじらは裁判の日がくるとき何をしようとするのか。遠い所から壊滅がくるときには何をしようとするのか。助けを求めて誰のところに逃げて行こうとするのか。自分たちの光栄をどこに残そうとするのか。

2ニ-20,4,われにたよらなければ、かれらは囚人の下にもかがみ、殺された者の下にも伏し倒れるであろう。それでも、主の怒りはまだ解けないで、なおその手をのばしたもう。

2ニ-20,5,アッスリヤ人よ、汝らはわが怒りのしもとである。かれらの手にある杖はかれらの憤りである。

2ニ-20,6,われはかれをつかわして偽善の国に攻めよせ、かれに命じてわが怒りを受けた民の物をかすめ、民の宝をうばわせ、かれらを街の泥のようにふみにじらせよう。

2ニ-20,7,しかし、アッスリヤ人はわが手に使われることを自ら悟らず、またその心にもそうしようとはせず、かえって心ひそかに少なからぬ国々を倒して亡ぼそうとする。

2ニ-20,8,かれは、わが立てた諸侯はみな王ではないかと言う。  
2ニ-20,9,カルノはカルケミンのように、ハマテはアルバチのように、サマリヤはダマスコのようにではないか。  
2ニ-20,10,わが手は偶像を拝む国々を建てたが、その彫刻した像はエルサレムとサマリヤとの偶像にも勝っている。  
2ニ-20,11,従って、すでにサマリヤとその彫刻とを処分したように、エルサレムとその偶像とを処分すべきではないかと。  
2ニ-20,12,それであるから、主がシオンの山とエルサレムにしようとしたことをみな成就したもうてから、われはアッスリヤ王の豪胆な心の実と昂って仰いでいる目の光栄とを罰しよう。  
2ニ-20,13,何故ならば、かれが言うのにわれは自分の手の力の智恵でこれをした。われは聡明であって民の国々の境を変え、その宝をうばい、勇士のように住民をおさえてこれを従えた。  
2ニ-20,14,それから、わが手はちょうど鳥の巣を見出すように民の宝を見つけ、天下をとりおさめたのは残した卵を人が集めるようであった。あるいは翼をうごかし、あるいは口を平木、あるいはさえさえずる者など1つとしてなかったと。  
2ニ-20,15,斧は自分を使って木を切る人に向って自慢をするであろうか。のこぎりは自分を使う人に向って自分をほめるであろうか。これはちょうど棒がこれを持ち上げる人に向って自ら打振るようなものであり、杖が木でないかのように自ら多角あげるようなものである。  
2ニ-20,16,それであるから、万群の主である主はアッスリヤの民をやせさせ、その民の光栄の下にちょうど火が燃えるように火焰を起したもう。  
2ニ-20,17,すなわちイスラエルの光となる者を火とし、その聖者を焰として1日の中にアッスリヤのおどろといばらとを焼きつくし、  
2ニ-20,18,その森と豊かな畑との栄えを絶やしてその形もその精気も亡ぼしたもうから、アッスリヤは旗手の気絶するような姿となる。  
2ニ-20,19,従ってその森に残る木は、おさな児にも掛かれるばかり数が少い。  
2ニ-20,20,その時イスラエルの残った子孫とヤコブの家の逃れた者とは、自分らを打った者にまたと頼らず、真心からイスラエルの聖者である主に頼り、  
2ニ-20,21,ヤコブの残った子孫は大能の神に立ち帰る。  
2ニ-20,22,汝の民であるイスラエルは、その数がたとえ海のまきごのように多くとも、その残った子孫のある部分は却ってなくてはならない。それは壊滅がすでに定まって正義が溢れるばかりであるからである。  
2ニ-20,23,万群の主なる神は全地に及ぼそうと定めた壊滅を必ず行いたもう。  
2ニ-20,24,この故に万群の主なる神は言いたもう。シオンに住むわが民よアッスリヤ人をおそれるな。かれはエジプト人のように棒で汝らを打ち、杖を汝らに振り上げる。  
2ニ-20,25,しかし、間もなくその憤りは止みわが怒りはかれらを亡ぼして止む。  
2ニ-20,26,万群の主はミデアン人をオレブの岩のほとりで撃ちたもうた時のように鞭を起してこれを攻め、むかし海の上にその棒を上げたもうたように、エジプトの例にならってその棒を上げたもう。  
2ニ-20,27,その火にはアッスリヤ人が汝らに負わせた苦難は汝らの肩から取り去られ、アッスリヤから受けたくびきは汝らの首から取り去られまた誓約のためにそのくびきは砕かれる。  
2ニ-20,28,かれはアイアテに来、ミグロンを過ぎ、ミクマシでその輸送車を止めた。  
2ニ-20,29,かれらは渡場をわたってゲバに宿ったので、ラマはおそれサウルのギベヤ人は逃げて行った。  
2ニ-20,30,ガリムの娘よ、声をあげよ、憐なアナトテよ、その声をライシに伝えよ。  
2ニ-20,31,マデメナは移り、ゲビムに住む者は逃げようと寄り集る。  
2ニ-20,32,しかしその日にかれはノブに留り、シオンの娘の山、すなわちエルサレムの岡に向って手を振る。  
2ニ-20,33,見よ、万群の主である主はおそろしい勢いをもって枝を切りはらい、たけの高いものは切り倒され、おごり立つ者はひくくされる。  
2ニ-20,34,また主は鉄をもって森のしげみを切り倒したまい、レバノンは大能のある者に倒されるのである。  
2ニ-21,,ニ-ファイ第2書 第21章  
2ニ-21,\*-\*、真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第11章と比較せよ。  
2ニ-21,1,エッサイの幹から1つの芽が出、その根から1つの枝を生ずる。  
2ニ-21,2,かれの上に主の"みたま"がとどまる。これは智恵と理解と勧告の力、勢力と知識と人に主をおそれさせる人であって、  
2ニ-21,3,かれに主をおそれることを早く悟らせる。かれは目に見るだけによって判断をせず、自分の耳に聞くだけによって咎めをせず、  
2ニ-21,4,義を以て貧しい者たちを裁判し、公平を以て柔和な者たちのために譴責をし、その口の棒を以て世を

打ち、そのくちびるの息を以て悪人を殺す。

2ニ-21,5,そして義がその腰の帯となり、真実がその腹の帯となる。

2ニ-21,6,おおかみは小羊と一しょに宿り、ひょうは山羊の子と一しょに臥し子牛と若い獅子と肥えた家畜とは一しょに臥して小さな子供がみなこれらの先に立ってつれて行く。

2ニ-21,7,牝牛と熊とは一しょに食物を食べ、子牛と熊の子とは一しょに臥し、獅子は牛のようにわらを食い、

2ニ-21,8,乳のみ児は毒蛇の穴の上で遊び、乳ばなれの児はまむしの穴に手を触れる。

2ニ-21,9,その時にはわが聖い山のどこにもそこなうこともなくまた亡びることもない、それは水が海に満ちるように主を知る知識が世界に満ちるからである。

2ニ-21,10,その時に、エッサイの1つの根が立って民の前に旗となり、異邦人がこれに求めて来てその根の与える安息は広大なものである。

2ニ-21,11,この時、主はまたその手をのばしてその民の残っている子孫、すなわちアッスリヤ、エジプト、パテロス、クシ、エラム、シナル、ハマテおよび海の島々からその民の残る人々を再び集って回復をし始めたまい、

2ニ-21,12,また諸々の国民のため旗を立てて、イスラエルの中から追い出された者たちを呼び集め、ユダの中から散らされた者たちを世界の4つのはてから集めたもう。

2ニ-21,13,また獲フライ無のねたみは止み、ユダの敵は亡び、エフライムはユダをねたまずユダはエフライムを攻めず、

2ニ-21,14,エフライムとユダはかえって一しょに西の方ベリシテ人の肩に襲いかかり一しょに東の人々を打ち破り、またその手をエドムとモアブとに下しアンモンの子孫を従える。

2ニ-21,15,主はエジプトの入江をことごとくからし、大風を起して自らの手を河の上に振り、これを打って7つの小さな流れとし、乾いた靴で人を渡らせたもう。

2ニ-21,16,このようにして、その民の残された者たちのためにアッスリヤから来る1つの通路が開かれる。これはちょうどイスラエルがエジプトの地から出て来た時にかれらに通路が開かれたと同じである。

2ニ-22,,ニーファイ第2章 第21章

2ニ-22,\*-\*、真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第12章と比較せよ。

2ニ-22,1,その時になって汝は次のように言う。主よ、われは主を賞めたたえよう。主はさきにわれを怒らせたもうが、今はその怒りがもはや和いでわれを慰めたもう。

2ニ-22,2,見よ、神はわが救いである。われは固く信じておそれない。主なるエホバはわが力である、わが歌である。またわれに救いを与えたもう。

2ニ-22,3,それであるから、汝らは喜んで救いの井戸から水をくむ。

2ニ-22,4,そして、その時汝らは言う。主を讚美し主に祈れ、主の御業を人々の間に宣傳伝えその御名のあがめられることを告げよ。

2ニ-22,5,主を賞めて歌え。主が高くすぐれた事をなしたもうたのは全地に知られているからである。

2ニ-22,6,シオンに住む者たちよ。イスラエルの聖者は汝らの中にあつて偉大である。喜んで声をあげて叫べ。

2ニ-23,,ニーファイ第2書 第23章

2ニ-23,\*-\*、真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第13章と比較せよ。

2ニ-23,1,アモツの子イザヤが見たバビロンの苦難。

2ニ-23,2,かれらを帰属の門に入らせるために、汝らは高い山の上に旗を立てかれらに向つて声をあげ手を振つて招け。

2ニ-23,3,われはわが神聖にした者たちに命じ、またわれ能力のある者たちを召した。わが高い位に在ることを喜ぶ者にわが怒りは及ばないからである。

2ニ-23,4,山の中に多くの人々の騒がしい声が聞える。これは数多くの民がいるようである。しかし、もろもろの国民が寄り集ってやかましいこの響は、万群の主が戦に出る軍勢を呼び集めたもう響である。

2ニ-23,5,主と主の怒りのこもった武器である人々とは、全地を亡ぼそうとして遠い所すなわち天の端から来る。

2ニ-23,6,汝ら泣き叫べ。主の日はすでに近付いているからである。主の日には全能者から出る破滅が来る。

2ニ-23,7,それであるから、すべての手は力を失い、あらゆる人の心は勇気を失う。

2ニ-23,8,かれらは恐れを抱き、苦痛と憂いに迫られ、互いに見合つて驚きその顔は焰のようになる。

2ニ-23,9,見よ、主の日は憤りと烈しい怒りとを以てまことに残酷におそつて来て地を荒し、主はその中から罪人を亡ぼしたもう。

2ニ-23,10,天のもろもろの星と星宿とはその光を出さず、月は昇つても照らさない。

2ニ-23,11,またわれは、悪事をするから世の人を罰し、罪悪を犯すから罪人を罰し、高ぶるものの傲慢をとどめ、暴々しく人の高ぶりを抑えよう。

2ニ-23,12,われは人を良い黄金よりもオフルの金のくさびより稀にしよう。  
2ニ-23,13,万群の主が烈しく怒ってその残酷な憤りをもらす日には、われは天をふるわせ、大地は動いてその所を移す。  
2ニ-23,14,その時、人は終われる牝鹿のように、また誰もかえりみない羊のように各々その民族に帰り、各々その国に逃げ戻る。  
2ニ-23,15,高ぶる者はみな刺され、悪人の群に入る者はみな剣にたおされ、  
2ニ-23,16,かれらのみどり児はその目の前で投げぐだかれ、その家財はかすめ取られ、その妻たちは犯される。  
2ニ-23,17,見よ、われは金銀をかえり見もせず喜びもしないメデヤ人を起してこれにむかわせよう。  
2ニ-23,18,かれらは弓を以て若者を射くだき、腹の中の子を憐まず、幼子を見てその生命を助けておかない。  
2ニ-23,19,すべての国の中で最も光栄あるバビロン、またカルデヤ人がほかよりも勝れている美観であるバビロンは、むかし神がソドムとゴモラとを破壊したもうた時と同じ姿となり、  
2ニ-23,20,ここに住む人たえてなく、また世々ここに住みつく人もなく、アラビヤ人も天幕を張らず、羊飼も羊の群れを飼わぬ。  
2ニ-23,21,野の獣がここに臥し、ものすごい声の生き物がその家々に満ち、ふくろうが住み、怪しい霊が飛びおどり、  
2ニ-23,22,鳥々の猛獣が来て荒れはてた家屋になき、栄華のあとの宮殿には龍が鳴く。バビロンの末期はすでに近づきその命はもう延ばしてはおけない。われは速にこれを亡ぼす。われはわが民を憐むけれども、悪人はかならず亡ぼすのである。  
2ニ-24,,ニ-ファイ第2書 第24章  
2ニ-24,\*-\* ,真鍮版からの聖文、つずき。イザヤ書第14章と比較せよ。  
2ニ-24,1,主はヤコブを憐みイスラエルをやがては選んで、これを各々その受け嗣ぎの地に帰しておきたもう、そして、よその国の者たちもこれに加わってヤコブの家に列る。  
2ニ-24,2,もろもろの民はイスラエル人を遠く世界の端からその受け嗣ぎの地へつれて行くから、イスラエル人はその約束の地へ帰ることができてイスラエルの家はその地を自分たちのものにし、主の地はしもべはしためたちのために備えられる。これによってイスラエルの家はさ  
2ニ-24,2-1,自分たちをとりこにしたものをとりこし、さきに自分たちをしいたげたものを司どる。  
2ニ-24,3,その時主は汝たの悲しみと恐れとを取り去り、また汝らが努めた奴隷の苦しいつとめをまぬかれさせて安息を与えたもう。  
2ニ-24,4,汝らはその時にまたバビロンの王に対して次の言葉を告げて言う。ああ、しいたげる者は亡びたか。黄金の都も亡びたか。  
2ニ-24,5,主は悪人の杖と治める者たちのしゃくを折りたもうた。  
2ニ-24,6,憤ってはたえずその民を打ち、怒ってその国を治めた者は今責められるが誰もその責を止めることができな  
2ニ-24,7,いま全世界は休んでおだやかになり、歌を唱いはじめる。  
2ニ-24,8,まことに、もみの木は汝の亡びたのを喜び、レバノンの杉の木も喜んで言う。汝が亡ぼされてからわれらを切りに来るきこりはなかったと。  
2ニ-24,9,下にある地獄は汝のことによって感じ、汝の来るのを迎えるために、全世界の今は亡い英雄をみな呼び起し、すでき国々の王たちをその王座から起ち上がらせた。  
2ニ-24,10,かれらはみな汝に告げて言う。汝もまたわれらのように弱くなったか。汝もまたわれらと同じようになったのか。  
2ニ-24,11,汝のはなやかな姿は墓に葬られ、汝の胡弓の音はたえて聞えず、うじは汝の下にしかれ、また汝の上も覆う。  
2ニ-24,12,暁の子ツシフェルよ。ああ、汝は天から墮ちたのか。もろもろの国を弱めた者よ、ああ汝は今地に切り落とされたのか。  
2ニ-24,13,これは汝がさきに心の中でわれは天にのぼり、わが座を神の星よりも高くし、来の方にある会衆の山に座し  
2ニ-24,14,雲よりも高く昇り、いと高き者の如くなるうと言ったからである。  
2ニ-24,15,しかしながら、汝は地獄におとされあなの底になげ落される。  
2ニ-24,16,汝を見る者はつらつらと汝を見、汝を心に留めて言う。この人が世をおののかせ、国々をふるわせ、  
2ニ-24,17,世界を荒野のようにし、もろもろの町を破壊し、捕えたもののひとやを開かなかった者であるか。  
2ニ-24,18,もろもろの国の王はことごとくみなその家に在って尊い有様で眠る。  
2ニ-24,19,しかし汝は忌みきらわれる枝のように、またつるぎで刺し殺されて穴の底に入れられた者の余類のよう

に、自分の墓から追い出される。まるで足の下にふみにじられる屍のようである。

2ニ-24,20,汝は自分の国を亡ぼし自分の民を殺したから、国々の王たちのようには葬れない。悪を行う者の子孫はいつまでも名誉を得ることができないのである。

2ニ-24,21,すでに先祖が罪悪を犯したからその子孫が起った国を受けつがず、都会で世界の表面を満たさないようにこれを殺す備えをせよ。

2ニ-24,22,万群の主は言いたもう。われはこれに逆らって立ち、バビロンからその名とその残っている者とその息子とその甥とを亡ぼしてしまふ。

2ニ-24,23,われはバビロンをさんかのごいの巣とし水たまりとし、またほろびのほうきでこれをはこう。これ万群の主の言葉である。

2ニ-24,24,万群の主は誓って言いたもう。わが志したことは必ず成り、わが定めたことは必ず起る。

2ニ-24,25,すなわち、われはアッスリヤ人をわが地に来させ、わが山の上でこれをふみにじろう。ここに於て、アッスリヤ人のかけたくびきはイスラエル人から取り去られ、アッスリヤの加えた重荷はイスラエル人の肩から取り去られる。

2ニ-24,26,これはすなわち全世界に行おうと定めたことであつて、これは万国の上に伸される手である。

2ニ-24,27,万群の主が定めたもうたから、誰一人これを取り消すことができない。万群の主の御手は伸ばされた。誰がこれをおし帰すことができようか。

2ニ-24,28,今話した苦難はアハズ王の死んだ年にあつた。

2ニ-24,29,パレスチナの全国よ、汝を打った者の棒が折れたとて喜んではならない。それは蛇の根からまむしがあつて、その実が飛びかける火の蛇となるからである。

2ニ-24,30,貧しい者の初子は食物を得、乏しい者は安らかに眠れる。されどわれは飢饉を以て汝らの根を枯らし、かれは汝らの残りの子孫を殺す。

2ニ-24,31,門よ、泣き叫べ、パレスチナの全国よ、汝はすでにつぶれた。煙が北からでてきた。亡びるはずの時には誰も独り居る者がいないからである。

2ニ-24,32,それであるから、国々に行く使いたちは何と答えたらよいか。主がシオンを建てたもうたからその民の貧しい者はシオンに頼ることができると答えよう。

2ニ-25,,ニ-ファイ第2書 第25章

2ニ-25,\*-\*,ニ-ファイの説明、ニ-ファイ、イスラエルが散らされつづいて集められることを予言する。メシヤが降臨したもう時を特に告げる。

2ニ-25,1,さて私ニ-ファイは、イザヤが言った言葉の1部分を記したが今これについて少々話をしよう。ごらん、イザヤが言った事母の中には、私の民の多くの者に解りにくいことが少なくない。これはかれらがユダヤ人の予言のしかたを知らないからである。

2ニ-25,2,ユダヤ人の行いが悪くその仕業が憎かったから、私ニ-ファイはその風俗について多くのことを私の民に教えなかった。

2ニ-25,3,それであるから、私が今ここに書く言葉はこの後これを受けるはずのことごとくの者にこれを伝えるために書き、そして神の仰せになつたように神の差異益が必ず万国の民に及ぶことを知らせようとするのである。

2ニ-25,4,それであるから、イスラエルの家縁のある私の民よ、耳を傾けて私の言うことを聞け。イザヤの言葉はあなたたちに明瞭でないが、およそ"予言のみたま"に満たされる人々には明瞭である。私の心に宿る"みたま"によってあなたたちに1つの予言を述べよう。すな

2ニ-25,4-1,私の父と1しよにエルサレムを出てから私がたえずつづけてきた明瞭な言葉で予言を述べよう。まことに私が民に学ばせるために明瞭な言葉で話すのは私の心が楽しみとするところである。

2ニ-25,5,そもそも、私は エルサレムから出てきた者であつて、この目でユダヤ人の事を見たから私の心はまことにイザヤの言葉を喜ぶ。ユダヤ人は予言者の言うことがよく解っている。しかし、ユダヤ人に話したことがユダヤ人ほどによく解る者は、ユダヤ人の風俗を教わる者

2ニ-25,5-1,一人もない。これは私ニ-ファイがよく知っている。

2ニ-25,6,しかしごらん、私はユダヤ人の風俗を自分の子供たちに教えなかったけれども、私自身はエルサレムに住んだことがあるので、そのまわりの国々を知っている。そして私はイザヤが予言したように、すでにユダヤ人の中に下つた神の裁きについて私の子供たちに話をした

2ニ-25,6-1,ここにはその話を書かないことにする。

2ニ-25,7,しかしごらん、私は自分の明瞭な話し方でこれから私の予言を述べよう。私がこの話し方をすれば誰でもよく解って間違いをしないことを知っている。たとえ間違つたとしても、イザヤの予言が事実となつて現れるときには、人々は確にその意義を知るであらう。

2ニ-25,8,それであるから、イザヤの予言は人間にとってためになる。これがためにならないと思ふ人には私はとく

べつに話をするつもりである。私はまた私の民にだけ関係のある言葉で話をする。それはこのような言葉が末の日に大そう私の民のためになることを知っているから

2ニ-25,8-1,またそれは末の日に私の民がこの言葉の意味を理解するからである。それであるから、私はかれらのためにこれを書く。

2ニ-25,9,ユダヤ人の中で1代の人がすでに罪悪のために亡びたように、代々のユダヤ人もその罪悪のために亡びている。しかし、ユダヤ人の中にはその亡びることを主の予言者たちに予言されずに亡びた者は1人もまだこれまでにない。

2ニ-25,10,それでユダヤ人は私の父がエルサレムを去るとすぐに亡びるはずであることをかねて教えられていたが、教えられていてもユダヤ人たちはその個々rをかたくなにしたから、果して私が予言したように、とりこにされてバビロンへ送られた者を除いて皆亡びてしまった。

2ニ-25,11,今私は私の心に宿る“みたま”によってこの話をする。さてユダヤ人はひとたびとらえてつれて行かれても、また帰って来てエルサレムの地を自分のものにする、従って、またその受け嗣ぎの地へ元通りに復るのである。

2ニ-25,12,しかしごらん、かれらの中には戦が起りまた戦の噂が行われる。そして天地の父の生みたもう独子が肉体でかれらに現れたもう日がくると、かれらは自分たちの悪事とかたくなな心と強情なために、その独子を受け入れることを拒み、

2ニ-25,13,どうとうこの独子を十字架にかける。しかし、独子は3日の間墓に横たわりたもうてから、自身にある癒しの能力をもって死者の中からよみがえりたもう。それであるから、およそその御名を信ずる者は皆神の王国に救われるのである。それであるから、およそその御名

2ニ-25,13-1,信ずる者は王国に救われるのである。従って、私の心はこの独子について予言をすることを楽しく思う。それは、私がこの独子の時代を先見したことがあって、心の中にその聖い御名をあがめるからである。

2ニ-25,14,さてメシヤが死者の中からよみがえって、その民の中でその御名を信ずる者たちに現われたもうた後、ごらん、エルサレムはまた破壊される。これは神と神の教会の聖徒たちに逆らう者は禍であるからである。

2ニ-25,15,これによって、ユダヤ人は万国の民の中に散りバビロンもまた亡びる。下勝手、ユダヤ人はバビロン以外の国民にも追い散らされる。

2ニ-25,16,そしてユダヤ人がこのように散らされ何代かたって、主なる神は神の御子キリストとその万民のためになしたもうた限りない身代りの贖罪とを信じなくてはならぬことを、ついに得心するまでたえずユダヤ人を他国の民によって悩ましたもう。しかしユダヤ人がキリスト

2ニ-25,16-1,その御名によって天の御父を廃止、もうほかのメシヤを町受けしないようになるならば、その時にはかれらが私の今ここに書いたことを信じなくてはならぬ日もくるであろう。

2ニ-25,17,その日がくると、主は墮落して迷っている有様から、またまたその民を救い出す御業を始めたもう。従って主はめずらしい業と驚嘆すべき事を世の人の中に始めたもうのである。

2ニ-25,18,それであるから、主はその言葉をその民に示したもう。これはその民にかれらがひとたび小判だ本当のメシヤを信じさせ、またもうほかのメシヤが降臨になるのを町受けるに及ばない事を認めさせるために示した言葉であるから、かれらは終りの日にこの言葉によって裁

2ニ-25,18-1,予言者たちが言ったメシヤはただ1人であって、そのメシヤはユダヤ人が拒むはずであった。それであるから、これによりほかにもしメシヤがくるとすると、それは民をまどわす偽のメシヤにほかならない。

2ニ-25,19,予言者たちの言葉によれば、真のメシヤは私の父がエルサレムを去ってから600年でこの世に來りたもうのである。また予言者たちの言葉と神の使いの言葉によれば、メシヤの音は神の子イエス・キリストと称えられる。

2ニ-25,20,さて、私の兄弟たちよ、私はあなたたちが誤解をしないように明瞭に話した。主なる神はイスラエル人をエジプトから導き出したまい、またもろもろの民が毒蛇にかまれたときに、モーセがかれらの前に立てた蛇を見たならこれをすぐに癒す能力をモーセに与えたまい、

2ニ-25,20-1,また岩を打つと水を湧かせる能力をモーセに授けたもうた。以上のことと、主なる神が生きてましますことが確実なように、私が今言ったイエス・キリストのほかにも、人間に救いを与えることのできる名は断じて天下にないこともまた確実きある。これを私はあなたたち

2ニ-25,21,それであるから、ヨセフの子孫は大地に在るかぎり決して亡びないと言う約束をヨセフのために果そうとして、主なる神は私が今ここに記すことを、子々孫々に保存して代々相伝えることを私に約束したもうた。

2ニ-25,22,それであるから、私の記すことは大地の在るかぎり神の思召のまま代々伝わるのであって、この記事を所有する国民はそれについての言葉によって裁きを受けるのである。

2ニ-25,23,だから私たちが力をつくして書き記すのは、自分たちの子孫と兄弟たちを説得してキリストを信じさせ、神との一致を得させるためであり、それは人が最前をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われることを知っ

ているからである。

2ニ-25,24,私たちはもとよりキリストを信ずるけれども、今はモーセの律法を守り、モーセの律法が目的を達してその効果がなくなるまでは、確く信じてキリストの降臨したもうことを待ち望んでいる。

2ニ-25,25,そもそも、律法が立てられたのはキリストの降臨に先立って人に用意をさせるためである。私たちは福音を知っているからモーセの律法はすでに空文であって、私たちはキリストを信ずる信仰によって生かされている。しかしながら、神の命令があるによって今もモーセ

2ニ-25,25-1,守るのである。

2ニ-25,26,私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを予言し、また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めらるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。

2ニ-25,27,従ってモーセの律法について話をするわけは、私たちの子孫にモーセの律法に生命のないことを知らせ、これを知ってキリストの与えたもう生命を待ち望み、その律法が立てられた目的を知らせるためである。またこの世のキリストによって、この律法がその目的を達し

2ニ-25,27-1,その効用がなくなり捨てなくてはならなくなったときに、かれらにその心をキリストに対してかたくなにさせないためである。

2ニ-25,28,さてごらん、私の民よ。あなたたちはかたくなな民であるから、誤解することのできないように私ははっきりと話をした。そして私の言った言葉は誰にも義しい道を教えるに足るものであるから、あなたたちを責める証詞になる。ここに正しい道とはキリストを拒まず受

2ニ-25,28-1,これを信ずることを言う。キリストを拒めば、予言者らも律法も共に拒むことになる。

2ニ-25,29,そもそも、正しい道とはキリストを拒まずにこれを信ずることを言うのである。キリストはイスラエルの聖者である。それであるから、あなたたちはキリストの御前にひざまずいて勢いと心と力をつくし、全身全霊をこめてキリストを拝さなくてはならない。そうすれ

2ニ-25,29-1,決してあなたたちは追い出されない。

2ニ-25,30,そしてモーセに与えられた律法がその目的を達して効用のなくなるまでは、必要なかぎりあなたたちは神の定めたもうた典礼と儀式とを守らなければならない。

2ニ-26,,ニ-ファイ第2書 第26章

2ニ-26,\*-\*,ニ-ファイの予言、つずき。キリストは将来ニ-ファイ人に来りたもう。ニ-ファイ人最後の滅亡。異邦人の時代。

2ニ-26,1,キリストが死人の中から復活したもうと、キリストは私の子孫と私の愛する兄弟であるあなたたちに現れたもう。そしてその時キリストがあなたたちに告げたもう言葉はあなたたちが守らなくてはならない律法になる。

2ニ-26,2,ごらん、私は多くの世が過ぎて行くうちに私の民の間に大きな戦が起り不和が生ずることを先見した。

2ニ-26,3,そしてメシヤが来りたもうときには、メシヤの降臨のしるしと死と復活のしるしが私の民に現れる。しかしこれは悪人のために大そう恐ろしい時である。かれらはその時に亡びるからである。かれらが亡びるわけは予言者たちと聖徒たちを追い出し、石で撃つたりするか

2ニ-26,3-1,それであるから、聖徒たちの血の叫びが地の中から昇って神にこの悪人らを訴える。

2ニ-26,4,それであるから、すべて高慢であって悪事を行う者はわらのようになって将来くるはずの日がかれらを焼きつくしてしまう。これは万群の主の言葉である。

2ニ-26,5,予言者たちと聖徒たちを殺す者たちは、地の深い所に吸いこまれ、山に埋められ、旋風に吹き去られ、もろもろの建物がかれらの上に倒れてこなごなになりに砕き、

2ニ-26,6,雷や電や自身や其他あらゆる破壊を受ける。それは主がかれらに向って激しく怒りたもうからかれらはわらのようになり、将来くるはずの日がかれらを焼きつくしてしまうからである。これは万群の主の言葉である。

2ニ-26,7,私の民の中に殺されて亡くなる者があるから、私の心が感ずる痛みと悲しみはいかにもひどい。私ニ-ファイはすでにこの人たちが殺されて亡くなるのを先見したから、私は主の御前でほとんど息も絶え絶えである。しかし、私は私の神に向って“汝の行いたもうところ

2ニ-26,7-1,と言わなければならない。

2ニ-26,8,しかしごらん、遂げん者たちを殺さないでその言うことに聞きしたが居、どんな迫害を受けてもただ現れるところのしるしを信じて固くキリストを待ち望んでいる義しい人たちは亡びない人たちである。

2ニ-26,9,義の御子(イエス・キリスト)がかれらに現われてかれらを癒したまい、また3代の人たちも4代目の多くの人たちも義しい行いをして世を猿ようになるまで、義しい人たちはキリストによって平安を保つ。

2ニ-26,10,しかしこの時が過ぎると私の民は速に亡びる。これはまことに私の心が苦痛に思うところであるが、私はこれをたしかに先見したのであるから、私はそれが将来必ず起ることを知り、また私の民が無益に自分の身を売ることを知っている。私の民はその高慢とその愚かな

2ニ-26,10-1,報いを受けて亡ぼされる。それは悪魔に負けて善い行いよりも悪い行いを選ぶからであって、つい

に地獄へ落ちなくてはならない。それは、

2ニ-26,11,主の“みたま”がいつまでも人を励ますものでないからである。そして“みたま”が人を励まさないようになると速に亡びがくるのであってこれが私の心が悲しく思うわけである。

2ニ-26,12,私はイエスが本当のキリストであるとユダヤ人に信じさせることについて話をしたが、異邦人にもまたイエスはキリストであって永遠の神であることを信じさせ、

2ニ-26,13,またイエスは、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々など、およそイエスを信ずるすべての者には聖霊の能力で現われ、人々の信仰に応じて大きな奇跡とするしと驚嘆すべき事とを人間になしたもうことを神事させなければならない。

2ニ-26,14,さて私は主なる神が私のここに書くことを世の人々に現したもう末の日についてあなたたちに予言をする。

2ニ-26,15,私の子孫と私の兄弟たちの子孫は無信仰に陥って異邦人に悩まされる。まことに主なる神はこれを攻め囲み山を以て取り巻き、かれらに大してとりでを築きたまい、ついにかれらは土の中に倒されて亡くなる。しかしながらその後、義しい人の言葉が書き留められ忠実な

2ニ-26,15-1,祈りがききとどけられるから、無信仰に陥って者たちの全部までが忘れられることはない。

2ニ-26,16,なぜならば、亡びる者が地の中から外に居る亡びない者に話しかけて、その言葉が低い声で土の中から外に聞え、またその声が親しい霊を持つ者の声のように聞こえるからである。また、主なる神はかの人々に能力を与えて、ちょうど土の中から出る声のように前に言った

2ニ-26,16-1,子孫のことをささやかしたもうので、かれらの話が土の中から出てささやくからである。

2ニ-26,17,主なる神は伊井たもう“かれらはかれらの間に行くことを書き誌してこれを1つの書物にのせ、その書物を封じて守るべし。無信仰に陥れる者たちは神のことを破壊せんとするによりこの書物を得べからず。

2ニ-26,18,すでに亡びたる者たちは僅かなる間に亡びしが、その大勢の荒ぶる人々も吹き散らさるるもみがらの如くに消え失すべし。まことに、にわかにもまたたく間に行われん”と。

2ニ-26,19,しそて、無信仰に陥った者たちは異邦人のために打ち悩まされる。

2ニ-26,20,異邦人は自ら誇って尊大であるから、そのつまずく石が大きいためにすでにつまずいて倒れている。従って、かれらはももとの教会を立てるけれども、神の能力と奇跡とをすてて自分の智恵を学問とで教えて宣べ、そして利益を得たり貧しい者をしいたげようとする。

2ニ-26,21,異邦人の中にはねたみと争いと怨みとを起す教会が多く立てられ、

2ニ-26,22,また昔あったような秘密の結社もあって、この結社は悪魔の起したものと類を同じくする。悪魔はすべてこのような結社の基であって、また殺人やそのほかいろいろな悪事の基となり、強い麻ひもを人の首にかけてこれをひっぱって行き、とうとう強い縄で永久に人をし

2ニ-26,23,私の愛する兄弟たちよ、ごらん、主なる神は決して暗いことを為したまわない。

2ニ-26,24,主なる神は世のためになることでなければ何事もなしたまわない。あらゆる人を自分のところへ引きよせるために、自分の命をぎせいになさるほど深い世の人を愛したもう。それであるから、主が立てたもうた救いにあずかってはならないと誰にも仰せにはならない。

2ニ-26,25,ごらん、主なる神が“われより離れよ”と仰せになるか。いやいや、そうでなくて“世界の隅々に至る一切の人々よ。われにきて金銭なしに無料で乳と蜂蜜とを買え”と仰せになる。

2ニ-26,26,ごらん、神がこれまでに“街道や礼拝所から出て行け”と仰せになったことがあるか。そうではないのである。

2ニ-26,27,また、神がこれまでに神の与えたもう救いにあずかってはならないと仰せになったことがあるか。ごらん、そうではないのであって、かえってその救いを無料で万人に与えたまい、その上に悔改めをあらゆる人にすすめよとその民に言いたもう。

2ニ-26,28,ごらん、主がこれまでに主のめぐみにあずかってはならないと人に仰せになったことがあるか。いやいや、そうではないのであって、人はみな平等に特権があるから、めぐみにあずかってはならないと言われる者は1人もない。

2ニ-26,29,しかし、主は祭司の偽善売教とは利益と世の誉とを受けるために説教をして、自分を世の光とするけれどもシオンの福祉を求めようとはしないことであるから、世の中に祭司の偽善売教があってはならないと仰せになる。

2ニ-26,30,ごらん、主はこれをしてはならないと仰せになっている。従って主なる神は、人は皆慈悲すなわち愛の心を持たなくてはならないと言う命令を与えたもうた。もしも人に愛の心がなかったならば人は何の価値もない。それであるから、もしも人が愛の心を持っているなら

2ニ-26,30-1,シオンで働く者を死なせてはおかないであろう。

2ニ-26,31,しがしながら、シオンで働く者はシオンのために働くべきである。もしも金銭のために働くならば亡びる

であろう。

2ニ-26,32,また主なる神は、人はみな人を殺すこと、偽を言うこと、盗むこと、かれらの神の御名をいたずらに口にすつこと、ねたむこと、怨むこと、相争うこと、淫行をすること、およそ以上の中どの1つでもしてはならないと命じたもうた。これをする者は亡びるからである

2ニ-26,33,以上もろもろの罪悪はどれ1つ主からくるものではない。主は人間の中でためになることを為したまい、人間に明らかでなければ何事もなしたまわず、万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから、主の御許へくる者は黒人と白

2ニ-26,33-1,奴隷と自由民、男と女の区別なく誰を拒みたもうこともない。また主は異教徒さえもかえりみたもうから、神の御前にはユダヤ人も異邦人もみな平等である。

2ニ-27,,ニ-ファイ第2書 第27章

2ニ-27,\*-\*、ニ-ファイの予言、つずき、悪人たちに下る神の裁き封ぜられた書物。無学な人。3人の見証者。めずらしき業と驚嘆すべき事。

2ニ-27,1,ごらん、末の日である異邦人の時代になると、異邦人から成るあらゆる国々とユダヤ人から成る国々、すなわちこの地へくる民と他国にある民、すなわち世界全国にある民はみな罪悪とあらゆる憎むべき行いをほしいままにして酔うであろう。

2ニ-27,2,その時になると、万群の主は雷、自身、おそろしい大きな響、嵐、大風、焼き亡ぼす焰などの禍を世界の民に下したもう。

2ニ-27,3,またシオンと戦ってこれを悩ます国民は、すべて夜夢を見る者のようになる。まことに飢えた人が夢の中で物を食べても、目を覚ませばその人は身も霊も空である。のどが乾いている人が夢の中で水を飲んでも、目を覚ませば彼は疲れておりその身も霊もまだ乾いている

2ニ-27,3-1,シオンの山と戦う万国の民の群は、まことにこの通りになる。

2ニ-27,4,およそ罪悪を行う人たちよ。お前たちははしきりに高い声を出して叫び、まことに酔うであろうが、それは葡萄酒のためではない。お前たちはよるめくであろうが、それは濃い酒のためではない。それであるから、お前たちはよく心に留めてれを見て驚け、

2ニ-27,5,見よ、お前たちは目をつぶって、予言者たちを受け入れるのを小判だ。それであるから、主はお前たちを深い眠に落したお前たちの罪悪のためにお前たちの支配者らも聖見者らもかくしておしまいになった。

2ニ-27,6,また主なる神はある書物の言葉を示してお前たちに伝えたもうが、これは死んだ人たちがのこした言葉である。

2ニ-27,7,その書物は封じてあって、その中には世の始めから世の終りまでについて神が啓示をなしたもうたことがのっている。

2ニ-27,8,従って、このように封じてある記事は神聖であるから、罪悪と憎むべき行いのある時に世の中の人々に与えてはならない。それであるから、この書物は世の人々に隠して見せられない。

2ニ-27,9,しかしながら、この書物はある男に授けられ、それからこの男はその書物の中の言葉、すなわち墓に眠っている者たちの言葉を別の男に授ける。

2ニ-27,10,しかし、かれは書物の中に封じてある言葉も、その書物も決して人に授けてはならない。何故ならば、その書物は神の権能によって封ぜられ、またその中に封じてある啓示は、主のみこころにかなって世に出るまで、ずっとその書物の中に封じておかれるからである。ご

2ニ-27,10-1,その啓示は世の始めから世の終りまで一切のことをあらわす。

2ニ-27,11,しかしながら、この書物の中に封じてある言葉が公に読まれる時がくる。それはキリストの権能によって読まれこれまで人間の中にあつたことと、また今から世の終りまでに起ることとが、みな人間に示される。

2ニ-27,12,それであるから、その書物は今私の言った男に授けられる時に、世の中の人々の目につかないように隠される。従って、その書物を授けられる一人のほかには3人の見証者が神の能力によってこれを見ることができ、そのほかには誰1人これを見ることができない。そし

2ニ-27,12-1,この3人はその書物とその中に書いてあることが確実である証をする。

2ニ-27,13,このほかみその書物を見ることのできる者は、ただ神のみこころに従って世の人々にその言葉の証拠を立てる数人の者にかざられる。主なる神の言葉に“真実なる者たちの言葉は、あたかも墓より語る声の如くに語りて証を立つべし”とある。

2ニ-27,14,それであるから、主なる神はその書物の言葉を現わしたまい、またその数が十分であると思いたもう証人たちの口を借りて、その言葉を確実なものとなしたもう。従って、神の言葉を認めない者は禍である。

2ニ-27,15,ごらん、主なる神はその書物を授けるはずの男に次のように言いたもう“封ぜざるこの言葉を取りて別の男に与え、その男にこれを学者に見せて‘何とぞこれを読みたまえ’と言わせよ。その時その学者は‘その書物をここまで持ち来れ。しからばその事母を読まん’と

2ニ-27,16,されど学者のかく答えるは、神に栄光を帰するためにあらずして世の誉と利益とを得るためなり。

2ニ-27,17,よりて、その言葉を見せたる男は'その書物は封ぜられたれば持ち来るを得ず'と言い、

2ニ-27,18,ここに於て学者は'さらばその書物を読むを得ず'。

2ニ-27,19,それであるから、主なる神はまたその書物とを学識のない人に授けたまい、この学識のない人は"私は無学である"と答える。

2ニ-27,20,そのときに主なる神はこの人に言いたもう"学者たちはすでにこの書物の言葉を否定したるにより、これを読むを得ず、されど、われはわが事業を為し遂ぐる能力あるにより、汝はわれが今汝に授くる言葉を読むことを得。

2ニ-27,21,されど、その封じたる所に手を触るべからず。それはわれが自らのところにかなう時にこれを発表して、自らわれの事業を為し遂ぐる力あることを世の人々に認めしめんとすればなり。

2ニ-27,22,されば、汝はわれが読めと言ひし言葉を読み、またわれが汝に与えんと誓ひし見証者たちを得たる餅は、再びその書物を封じてわれに託せざるべからず。こはあらゆることを世の中の人に示すも可なりとわが智恵にて察する時まで、汝のいまだ読まざる言葉を保存するた

2ニ-27,23,見よ、われは神なり。また奇跡を行う神なり。われは昨日も今日もいつまでも同じくあると言うことと、人の信仰によらずば何事も人間になさざることとを世の人々に認めしめん"と、

2ニ-27,24,また主は授けられる言葉を読むさきの男に語りたもう。

2ニ-27,25,"この民は口をもってわれに近づきくちびるをもってわれを誉むれども、その心はわれより遠ざかる。かれらがわれをおそれるは、人の造りし誠命にて教えらるるなり。

2ニ-27,26,故にわれはこの民の中に珍らしき仕事、まことに珍らしき業と驚嘆すべき事とを始めんとす。よりて、これに比ぶれば世の中の智者と博学の人の智恵も智恵でなくなり、世の中の聡明なる者の知識を隠れて見えずなるべし、

2ニ-27,27,そのはかりごとを深く隠して主に知らせざらんとする者は禍なり。かかる者たちのその行いは暗黒にしてかれらは'誰がわれわれを見るか、誰がわれわれを知るか'と言い、また'汝らが物をくつがえすは必ず無益と思われん'と言う。しかし見よ、万群の主はいう。万

2ニ-27,27-1,万群の主はいう。われはかれらのする行いを一切知ることを証明せん。そもそも、物はこれを造りし人に対して、かれは自分を造らざりきと言わんや。または、造られる物はこれを造りし人に対して、かれは知識なしと言わんや。

2ニ-27,28,見よ、われはレバノン変りて豊かなる畑となり、豊かなる畑変りて森林のごとく思われる時のくるまでの間は、ごくわずかなることを世の人に教えん。

2ニ-27,29,その時、耳の聞えぬ物たちもかの書物の言葉を聞き、目の見えぬ人たちも不明なる暗黒の有様でなくなり、よく見て知ることを得べし。

2ニ-27,30,しかして柔和なる人たちふえて主に仕えて喜び、世の中の貧しき人たちはイスラエルの聖者を喜ぶ。

2ニ-27,31,そはこれらの人々が、必ず暴ぶる人々の無くせられ、あなどる者の亡ぼされ、罪悪を求むる者のみな切り捨てられ、

2ニ-27,32,僅の言葉より人を悪く見る者、門の中にいてさむる人を陥いるために計略をする者、正しき人をしりぞけてないがしろにする者たちがみな亡ぼさるるを見る故なり。こは主が生きてましますごとく確なることなり'と。

2ニ-27,33,故にアブラハムを贖いたもうた主はヤコブの家について次のように言いたもう。"今よりヤコブはもはや恥ずることなく、その顔も再び青ざむることなし。

2ニ-27,34,しかして、かれがわが手にてつくれるその子孫が自分の中に在ることを見る時になりて、かれらはわが名とヤコブの聖者とを神聖なるものとしてあがめ、イスラエルの神をおそれん。

2ニ-27,35,精神に過ちを犯したる者たちは悟ることを得、不平を言ひし者たちは教義を学ことを得ん"と。

2ニ-28,,ニ-ファイ第2書 第28章

2ニ-28,\*-\*,ニ-ファイの予言、つずき。末日の諸教会とその状態。悪魔の王国がゆり動くこと。人を誤る人間の教え。

2ニ-28,1,さてごらん、私の兄弟たちよ。私は"みたま"の戒めに従ってあなたたちに話をした。従って私の話したことは将来必ず起ることが解っている。

2ニ-28,2,さて、あの書物から引用して書くことは世の中の人に大きな利益があるが、イスラエルの家の残りの者である私たちの子孫にはとくにそうである。

2ニ-28,3,その時には主のために立てたのではない諸々の教会があつて、ある教会は別の教会に向つて"われこそ主の教会である"と言ひ、すべて主のために立てたのではない教会を起した者たちはこのように言つて、

2ニ-28,4,互いに相争ひ、その祭司たちは互いに競ひ争つて自分の学問で教えを伝え、義しい言葉を言わせる聖霊をしりぞける。

2ニ-28,5,かれらはまたイスラエルの聖者である神の能力をしりぞけ、民に向って言う“われらに耳を傾け、われらの教えることに聞き従え、今日神は無い。主なる贖い主はすでにその御業を成就してその権能を人に譲り伝えたもうた。

2ニ-28,6,それであるから、われらの教えることに聞き従え。すなわち、もしも主の御手によって起る奇跡があると  
言う者があっても、これを信ずるな。今日主はもはや奇跡を行いたもう神ではない。主はすでにその御業を成就したもうたからである”と。

2ニ-28,7,またまことに“われらは明日死ぬかも知れないから、飲んだり食ったりして楽しみ、そうすればわれらは幸福で満足である”と言う者が多くあり、

2ニ-28,8,“飲み食いをして楽しみ、しかし同時に神をおそれよ。神は小さな罪を犯すことは許したもう。それであるから少々偽を言い、人の言葉につけ込んで欺き、隣びとをおとし入れる穴を掘れ。これは少しも悪い事ではない。われらは明日死ぬかも知れないから、すべてこの

2ニ-28,8-1,すべてこのようなことをしても差支えない。たとえ、われらに罪があると認められても、神はわずかにわれわれを鞭うちたもうだけであって、われらは結局神の王国に救われる”と言う者も多くある。

2ニ-28,9,このようにして偽で愚な空しい教えを宣べ伝える者の数は実に多い。この連中は心に誇り高ぶって、その計ごとお主に隠そうと深く企て、その行いを暗黒の中に置くようにする。

2ニ-28,10,その時に、聖徒たちの血は地の中から叫んでかれらを主に訴える。

2ニ-28,11,実にかれらは皆正しい道から迷い出て腐った者となっている。

2ニ-28,12,かれらの教会は、高慢と偽りの教師と偽りの教義のために腐敗して誇り高ぶり、傲慢がいよいよ甚だしくなっている。

2ニ-28,13,かれらはその美事な礼拝堂を立てるために貧しい人々から奪い取り、またその美しい衣を得るために貧しい人々から奪い取り、誇り高ぶるために柔和な者と心の謙遜な者とを責め苦しめ、

2ニ-28,14,その首筋を固くし、その頭を高くあげ、キリストに従う小数の謙遜な弟子のほかは、皆自分の高慢と罪悪と憎むべき行いと淫行などのために墮落してしまっている。それにも関わらず、誤った導きを受け、人の誠命に教えられるから弟子たちもこのような過ちをたびたびす

2ニ-28,15,心に誇っている智者、学識のある人、富者、偽りの教えを説く者、みだらな行いをして主の正しい道を曲げる者は禍である。禍である。ああまことに禍である、とn蜷める神が仰せになった。これえらは皆ことごとく地獄に落し入れられるからである。

2ニ-28,16,正しい人をしりぞけてこれをないがしろにし、善をののしって善は何の約にも立たないと言う者は禍である。主なる神が速に世の人を裁きたもう日がくる。その日にはかれらの罪悪がその極に達しているから、かれらは亡びるのである。

2ニ-28,17,しかしごらん、もしも世の人がその罪悪と憎むべき行いを悔い改めるならばかれらは亡びないと万群の主が仰せになった。

2ニ-28,18,しかしながらごらん。全世界の浮れ女である憎むべき大教会は、地に倒れてまことにひどく覆える。

2ニ-28,19,悪魔の王国は必ずゆり動き、また王国に属する者たちも必ず動かされて悔い改めなければならぬ。そうでなければ、かれらは悪魔の永遠の鎖に固くしばられ怒らされて亡びてしまう。

2ニ-28,20,ごらん、その時に悪魔はある人々の心に入って荒々しい行いをさせ、またこの人たちに善い事を怒らせる。

2ニ-28,21,またほかの人々をなだめ、この人たちをすかして肉欲をほしいままにさせるから、その人々は“シオンの中では万事よろしい。シオンは榮えて実に何事もみなよろしい”と言う。このように悪魔はこの人々をだまし、心を配って地獄へつれて行くのである。

2ニ-28,22,悪魔はまたほかの或る人々にへつらってこの人々を迷わせ、地獄はないものであると伊井、また悪魔はないものであるから私は悪魔ではないと言い、このように耳にささやいて1度かかったら決して逃れられない恐ろしい鎖でとうとう縛ってしまう。

2ニ-28,23,実にこのような人たちは死と地獄の手に落ちるのであって、死と地獄と悪魔との3つに捕らえられたあらゆる人々は、後に神の御前に立って各々その身で為した行いに従って裁判を受け、神の御前からかれらのために用意してある燃える硫黄の湖に入らなくてはならない

2ニ-28,23-1,その湖は永遠に加えられる苦痛である。

2ニ-28,24,それであるからシオンでのんきに暮す者は禍である。

2ニ-28,25,何事もみなよろしいと言う者は禍である。

2ニ-28,26,実に人の誠命に聞き従い、神の権能と聖霊の賜とをしりぞける者は禍である。

2ニ-28,27,2-内容? 実に“われらはすでに受けたから、もはや必要でない”と言う者は禍である。

2ニ-28,28,要するに、身を震わせて神の真理のために怒る者はみな禍である。ごらん、岩の上に立つ者は喜ん

で神の真理を受けるが、砂の土台の上に立つ者は倒れはせぬかと恐れるからである。

2ニ-28,29,“われらはすでに神の言葉を受け、もうこれで十分であるからこの上神の言葉は必要でない”と言う者は禍である。

2ニ-28,30,ごらん、主なる神は仰せになる“われは言葉に言葉を加え、誠命に誠命を加えて、これを世の人に伝え、ここにも少しく教え、かしこにも少しく教えん。故にわが誠命を守りわが勧めに耳を傾くる者は智恵を得るによりて幸福なり。われは受ける者に一そう多く与うけど

2ニ-28,30-1,われ充分なりと言う者よりはその持てるものさえも取り上ぐべし”と。

2ニ-28,31,人にたよりまたは人間をそのすがる腕にする者はのろわれる。聖霊の力で与えられる誠命をよそにして人の誠命に聞き従う者もまたのろわれる。

2ニ-28,32,万群の主なる神は仰せになる“異邦人は禍なり、われは日日被れらに手を伸ぶるに、かれらはわれをしりぞくればならない。されど、もしかれらが悔い改めてわれに来らば憐まん。われは終日手を伸ぶればなり”と。

2ニ-29,,ニ-ファイ第2書 第29章

2ニ-29,\*-\*、ニ-ファイの予言、つずき。異邦人と聖書。そのほかの記録。神の言葉は1つに集められる。

2ニ-29,1,主なる神がまた仰せになる“われが異邦人の中にて珍らしき業を始むる時には異邦人の数すでに多からん。われがその珍らしき業をなすわけは、世の人々に立てたる誓約を思い起してイスラエルの言えに縁あるわが民を再び元に復し、

2ニ-29,2,また汝ニ-ファイと汝の父とに立てたる、われは汝らの子孫を忘れず、汝らの子孫の言葉はわが口より出でて汝らの遠き子孫に伝わりと言う約束を思い起こしてこれを守ためなり。しかしてわが言葉は世界の隅々までも響きわたり、イスラエルの家に属するわが民の旗と

2ニ-29,3,かようにわが言葉世の中に響きわたるによりて、多くの異邦人’聖書が聖書か。われらはすでに聖書を持てり。このほかには聖書あるべからず’と言うべし。

2ニ-29,4,ああ愚なる者よ、かれらは聖書を持つべきもそは昔わが誓約を受けたるユダヤ人より出づべきなり。されど、かれらはユダヤ人より受けたる聖書に対してユダヤ人に何の礼をなすか。実に異邦人はいかなる心なるか。かれらはユダヤ人のなしたる多くのつらき旅と苦勞と

2ニ-29,4-1,またユダヤ人が異邦人に救いを与えんとわが前に勉めはげみたることを思い起こさざるか。

2ニ-29,5,おお異邦人よ、汝らは昔わが誓約を受けたる民、ユダヤ人を思い起こすか。いや、汝らはかえりてユダヤ人をのろいユダヤ人を憎みたるも、いまだこれまでにユダヤ人を元に復さんとはせざりき。見よ、主なるわれはわが民を忘れざりしにより、汝らがユダヤ人に対して

2ニ-29,5-1,行いの責は汝らに帰すべし。

2ニ-29,6,‘聖書か、われらはすでに聖書を持てり、ゆえにこのほかに聖書を要せず’と言う者よ、汝は愚かなり。ユダヤ人に由らざりせば、汝はいかにして聖書を手に入れたるや。

2ニ-29,7,国民は1つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万民を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。またわれが上は天に於て支配し、下は地に於て支配し、わが言葉を世界万国の人々に示すことを知らざるか。

2ニ-29,8,それ故に、わが言葉が更に多く与えらるればと書いて不平を言うは何ごととなりや。2つの国の人が証拠を示すは、われが神なることと、われが1つの国の人を今1つの国の人と同じに思ふこととを汝らに証明するなり。汝らはこれは知らざるか。われはこの国民に語ると

2ニ-29,8-1,同じ言葉をかの国民にも語る。故にこの2つの国民1つに合ざる時には、2つの国民の証拠もまた1つに合ざるべし。

2ニ-29,9,われがこのようにするわけは、われは昨日も今日もいつまでも同じにして、わがこころのままにわが言葉を宣べ伝えることを多くの人々に証明せんとするためなり。それ故に汝らはわが1度言葉を宣べ伝えるにより、2度は宣べ伝えることを得ずと思ふべからず。そはわ

2ニ-29,9-1,そはわが業の今なお完成せざるのみならず、人間の終りの時になるも、またそれより進みて限り無き未来になりても完成せざるべからざればなり。

2ニ-29,10,それ故に、汝らはすでに聖書を持てる故わが言葉の全部がそれに含まれたりと思ふべきにあらず。またわれがその聖書意外に多くのことを書かしめしことなしと思ふべきにあらず。

2ニ-29,11,われは東西南北および海の島々にある一切の人々に、われがそれらの人々に語る言葉を書き記しせと言う。そは、われはその書き記さる諸々の書に従い、その中に記さることによりてあらゆる人をその為したる行いに応じて裁判せんとすればなり。

2ニ-29,12,見よ、われユダヤ人に語らばユダヤ人はそれを書き記し、ニ-ファイ人に日鱈羽ニ-ファイ人はそれを書き記し、われがすでにほかの所へつれ出したるイスラエルの家に属するほかの支族に語らばかれらはそれを書き記し、また世界各国の民にみな語らばかれらはみなそ

2ニ-29,12-1,書き記すべし。

2ニ-29,13,かくのごとくにして、ユダヤ人はついにニーファイ人の書きし言葉を得、ニーファイ人はユダヤ人の書きし言葉を得、ニーファイ人とユダヤ人とはイスラエルの家の日かの失われたる支族の書きし言葉を得、イスラエルの家の中の失われたる支族は、ニーファイ人の言葉

2ニ-29,13-1,ユダヤ人の言葉を得べし。

2ニ-29,14,しかしてイスラエルの家に縁あるわが民は自らの所有する地に集り、わが言葉もまた集りて1つ所にあるべし。それ故にわれはわが言葉とイスラエルの家に縁あるわが民とに背く者たちに、われが神なることとわれがアブラハムにいつまでもその子孫のことを忘れずと誓

2ニ-29,14-1,立てたることを知らしめんとす”と。

2ニ-30,,ニーファイ第2書 第30章

2ニ-30,\*-\*,ニーファイの予言、つずき。改宗した異邦人は誓約の民と共に数えられる。ユダヤ人とレーマン人が信仰を得ること。悪人たちが亡ぼされること。

2ニ-30,1,さてごらん、私の愛する兄弟たちよ。私ニーファイはあなたたちが将来の異邦人以上に義しいと自分から思わないようにしたいと思うから、今あなたたちに話をしよう。ごらん、もしもあなたたちが神の命令に従わないならば、みな異邦人のように亡びるのである。しか

2ニ-30,1-1,前に私が言ったことによって、異邦人がことごとく亡びると思わなくてはならないことはない。

2ニ-30,2,なぜならばごらん、あなたたちに言うが、異邦人であっても悔い改める者はみな誓約の民となり、ユダヤ人であっても悔い改めない者はみな追い払われるからである。それは悔い改めてイスラエルの聖者である主の御子を信ずるのでなければ、主は誰にも誓約を与えたま

2ニ-30,2-1,からである。

2ニ-30,3,私はユダヤ人と異邦人とに就てなお予言したいと思う事がある。さて私がさきに話した書物が世の中に出て異邦人に書き伝えられ、また封じて主に託されてからは、この書物に記してある言葉を信じてこれを私たちの子孫の残る者に伝える異邦人が多くある。

2ニ-30,4,その時に私たちの子孫の残る者は、私たちのことと私たちがエルサレムを出てきた時のことを知り、また自分らがユダヤ人の子孫であることが解るようになる。

2ニ-30,5,そしてイエス・キリストの福音がかれらの中に宣べ伝えられるから、それによってかれらは自分らの先祖のことを知り、またその先祖がイエス・キリストのことをよく知っていたことも知るようになる。

2ニ-30,6,そこで、かれらはこれが全く神から与えられた恩恵であるのを知って喜び、心の暗が次第に消えてまだ多くの代がたたない撃ちに皮膚の色が白くて喜ばしい民になる。

2ニ-30,7,また散りぢりになったユダヤ人もようやくキリストを信じてその地に集り始め、かれらの中でキリストを信ずる者もまたみな喜ばしい民になる。

2ニ-30,8,主なる神は、その民を地上で元の通りに復すために、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々の中にその御業を始めたもう。

2ニ-30,9,主なる神は義を以て貧しい者たちを裁判し、公平を以て柔和な者たちを叱って責、神の口の棒を以て世を打ち、神のくちびるの息を以て悪人を殺したもう。

2ニ-30,10,主なる神が民の中に甚しい分離を起したもう時が速にくるが、その時に神は悪人を亡ぼしてその民の命を助けたもう。また、たとえ助けるためには悪人を火で亡ぼさなくてはならなくても、その民を必ず助けたもう。

2ニ-30,11,その多岐に、義は神の腰の帯となり、真実はその腹の帯となる。

2ニ-30,12,その時に、おおかみは小羊と一しよに宿り、ひようは山羊の小と一しよに臥し、小牛と若い獅子と肥えた家畜とは一しよに臥して小さな子供がみなこれらの先に立ってつれて行く。

2ニ-30,13,牝牛と熊とは一しよに食物を食べ、小牛と熊の小とは一しよに臥し、獅子は牛のようにわらを食う。

2ニ-30,14,また乳のみ児は毒蛇の穴の上で遊び、乳離れの児はまむしの穴に手を触れる。

2ニ-30,15,その時には、わが聖なる山のどこにもそこなうことがなくまた亡びることもない。水が海に満ちるように主を知る知識が世界に満ちるからである。

2ニ-30,16,それであるから万国の民のことが明らかに知られ、実に一切のことが皆明らかに世の人々に知られる。

2ニ-30,17,おおよそ、秘密であって公にされないものはなく、位悪事であって明るみにあらわれないものはなく、世に封ぜられるものであって開かれぬものはない。

2ニ-30,18,それであるからすでに世の人々に示されたことはその日に皆明らかにあらわされ、サタンは永く人の心を司どる力を得ない。さて、わが愛する兄弟たちよ。私はここに私の物語を終わらなくてはならない。

2ニ-31,,ニーファイ第2書 第31章

2ニ-31,\*-\*,ニーファイの予言、つずき。救い主がバプテスマを受けたもうわけ。真直ぐな狭い道。

2ニ-31,1,さて、私ニ-ファイは私の愛する兄弟たちに予言をすることをここに終る。私は将来必ず起ると自分が知っている少しばかりのことと、私の弟のヤコブのことを収集書き記したが、そのほかのことまでは書き及ぼすことができない。

2ニ-31,2,しかし私はこれまで書いてきたことのほかにキリストの教えについて少々 宣べ伝えなくてはならない。そうしたら私は満足をする。そこで私は私の明瞭な予言の仕方ではっきり話そう。

2ニ-31,3,私の身も明瞭なことを喜ぶ。何故ならば主なる神が人間に為したも受ことは明瞭であるから。主なる神は世の人に解らせるためにそれぞれの言葉で語り、そしてかれらがよく解るようになったもう。

2ニ-31,4,そこで私は、主が私に示したもうた1人の予言者すなわち世の罪を贖い清めたもう神の子羊にバプテスマを施すはずの予言者について、私が前に話をしたと言うことをあなたたちに思い起してもらいたい。

2ニ-31,5,さて神の子羊は聖くましますのに、それでもあらゆる義しいことを尽すために水でバプテスマを受けなくてはならないならば、まして私たち聖くない者が水でバプテスマを受けるのはいかにも必要なことではないか。

2ニ-31,6,そこで私の愛する兄弟たちよ、私は神の子羊が水でバプテスマを受けることによって、どうしてあらゆる義しいことを尽したもうたか、これをあなたたちに尋ねたい。

2ニ-31,7,あなたたちは子羊が聖かったことを知っていないのか。子羊はたとえ聖くましましても、肉体を受けたもうによって天の御父の前にへりくだることと、天の御父に従ってその命令を守ると証明をすることをバプテスマによって世の人に示したもうのである。

2ニ-31,8,それであるから、子羊が水でバプテスマを受けたもうた後、鳩が下るように聖霊が子羊の上に降りたもうた。

2ニ-31,9,また神の子羊がバプテスマを受けたもうたのは、人のふむべき道が真直ぐであることと、人のくぐるべき門が狭いことを世の人に教えたもうたのであって、子羊は自分から世の人の前にバプテスマを受ける模範を示したもうた。

2ニ-31,10,子羊は、われに従えと世の人に仰せになった。それであるから私の愛する兄弟たちよ、もしも喜んで天の御父の命令に従わないならば、私たちはイエスに従うことができるか。

2ニ-31,11,天の御父は“悔い改めよ、悔い改めよ。わが愛子の名によりてバプテスマを受けよ”と命じたもうた。

2ニ-31,12,また御父の声が“天の御父はわが名によりてバプテスマを受くる者にはわれと同様に聖霊を与えたもう。故にわれにならいて、汝らの見たるわれの行いを汝らもせよ”と私に聞こえた。

2ニ-31,13,それであるから私の愛する兄弟たちよ。もしもあなたたちが御子にならい、神の御前に偽善と欺きとを行わずに真心から正直な目的で事を為し、自分の罪を悔い改め、自分の主であり救主である御方にならって、その命令の通りに水の中に入ってバプテスマを受け、そし

2ニ-31,13-1,そしてキリストの御名を喜んで受ける証明を天の御父に立てるならば、あなたたちはその時聖霊を受ける。すなわち、その時火と聖霊によるバプテスマを受けるのである。それからあなたたちは天使の言葉で語り、イスラエルの聖者に讃美の声をあげることができる。こ

2ニ-31,13-1-1,これらのことを私は知っている。

2ニ-31,14,しかしごらん、私の愛する兄弟たちよ、御子の声が嗣ぎのように聞こえて私に言いたもうた“汝ら一旦その罪を悔い改め、水のバプテスマを受けてわが命令を喜んで守ることを天の御父に証明し火と聖霊のバプテスマを受け、新しき言葉なる天使の言葉にて語ることを得

2ニ-31,14-1,至る後われを否定するよりは、むしろ始めより汝らのわれを知らざりし方よし”と。

2ニ-31,15,私はまた天の御父が“わが愛子の言うことは真実にして確なり。終りまで忍ぶ者は救われん”と仰せになる声を聞いた。

2ニ-31,16,さて私の愛する兄弟たちよ、私はこれによって、人がもしも生ける神の御子が示したもうた模範に従って終りまで忍ばないならば決して救われないことを知っている。

2ニ-31,17,それであるから、あなたたちの主であり救主である御方の為したもうことを先見して私がこれまでに話したことをあなたたちも行え。このことが私に示されたのは、私があなたたちの入らねばならぬ門を知らせるためである。その門とはすなわち悔い改めて水のバプテスマ

2ニ-31,17-1,それから火と聖霊によって罪の赦しを受けることを言う。

2ニ-31,18,そうすれば、あなたたちはすでに永遠の生命へ行く真直ぐで狭い道に入ったのである。すでにその門から入って天の御父とその御子との命令に従う行いをし、天の御父とその御子のことを証する聖霊を受けたのである。そして聖霊が降るのは、汝らがもしも道によって入

2ニ-31,18-1,配流ならば聖霊を受けると言う神の約束が履行されることである。

2ニ-31,19,さて私の愛する兄弟たちよ、私は尋ねたい、あなたたちはこの真直ぐで狭い道に入ったら、それで万事終りであるか。ごらんそうではない。あなたたちがもしもキリストの言葉によってキリストを確く信仰し、人を救う能力のあるキリストの功德に全く頼らなかつたら

2ニ-31,19-1,あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。

2ニ-31,20,それであるから、あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから、この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み、終りまで堪え忍ぶならば”永遠の生

2ニ-31,20-1,“永遠の生命を受ける”、かくの如く天の御父が言いたもうた。

2ニ-31,21,さてごらん私の兄弟たちよ。これがすなわち道である。このほかには、人を神の王国に救う道も名も天下にない。これはまことに、キリストの教えであって永遠に1つの神会を成す天の御父と御子と聖霊の唯1つの真正な教えである。アーメン。

2ニ-32,,ニ-ファイ第2章 第32章

2ニ-32,\*-\*,ニ-ファイの予言、つずき。天使の言葉。聖霊の役目。

2ニ-32,1,さてごらん、私の愛する兄弟たちよ。あなたたちは道によって入ってから、どのようにしたらよいかと少々心に思いわずらっていると思う。しかしあなたたちは、何故にこれを心に考えこんでいるのか。

2ニ-32,2,あなたたちは聖霊を受けたら天使の言葉で語ることができると私が言ったことを覚えていないのか。さて、聖霊によらなければどうして天使の言葉で語ることができようか。

2ニ-32,3,天使は聖霊の能力で語るから、キリストの言葉を宣べ伝える。それであるから、私はキリストの言葉をよく味わえとあなたたちに勧めた。それはキリストの言葉は、あなたたちのしなくてはならないことをみな教えるからである。

2ニ-32,4,従って私がこのようなことを話してからでも、もしあなたたちがまだ解らないならば、それはあなたたちが尋ね求めもせずまた天の門を叩かないからである。従ってあなたたちは巧妙のある所に導かれなくて、暗黒の中にさ迷って亡びるに違いない。

2ニ-32,5,ごらん、また言うが、前に話した道によって入り聖霊を受けるならば、聖霊はあなたたちの行わなくてはならないことをみな教えたもう。

2ニ-32,6,ごらん、これがキリストの教えであって、キリストの教えであって、キリストが肉体であなたたちに現れたもう時までこのほかに教えられる教えはない。しかし、キリストが肉体であなたたちに現れたもう時にはあなたたちはその仰せになることを義しく守って行わなく

2ニ-32,6-1,行わなくてはならない。

2ニ-32,7,さて私ニ-ファイはこれ以上話すことができない。“みたま”が私に話すなど仰せになる。世の中の人は知識を求めないばかりか、言葉でできるかぎりはっきりと偉大な知識を教えられてもこれを解ろうとしないから、私はその無信仰と罪悪と、無知とかたくなことと

2ニ-32,7-1,悲しく思う。

2ニ-32,8,さて私の愛する兄弟たちよ。私はあなたたちがまだ心に考えこんでいるのを認め、このようなことをあなたたちに戒めなければならないのをまことに悲しく思う。あなたたちがもし祈らねばならぬことを教える“みたま”の言葉に聞き従うならば、あなたたちは祈らなく

2ニ-32,8-1,祈らなくてはならないことを覚るであろう。悪魔は祈れと人に教えず、かえって祈ってはならないと教える。

2ニ-32,9,しかしごらんよく言うておく。あなたたちは力を落さずいつも祈らなくてはならない、そして自分たちの働きが自分の身も霊も救われるように天の御父がその働きを祝福したもうよう、キリストの御名によってまず天の御父に祈らないでは主の按前にどのような働きも

2ニ-32,9-1,働きもしてはならないと。

2ニ-33,,ニ-ファイ第2書 第33章

2ニ-33,\*-\*,ニ-ファイ、別れに臨んで証詞をする。書く時には話す時ほどの力がない。ニ-ファイ自分の民のことを非常に心にかける。

2ニ-33,1,さて、私ニ-ファイは私の民の中に教えられたことをみなここに書き記すことはむつかしく、また書く時には話す時ほどの力がない。それは、人が聖霊の力で語るときには、聖霊がその話を人の心の中に浸みこませるからである。

2ニ-33,2,しかしながらごらん、世の中には聖霊に対してその心をかたくなにする人が多いから、聖霊はこれらの人々を感動させることができない。従ってこれらの人々は書き記してある多くのことを捨てて、これを価値のないものと見なす。

2ニ-33,3,しかし、私ニ-ファイは私がすでに書いているものを大そう価値があると思ひ、私の民にとってはとくにそうであると考えている。なぜならば私は昼はたえず私の民のために祈り、また夜は私の民のことを心配して涙で枕をぬらして、信仰をこめて私の神に祈り求め

2ニ-33,3-1,神は必ず私の祈りを聞き届けたもうことを知り、

2ニ-33,4,また主なる神は私の祈りを聞き届けて私の民に利益を与えたもうことを知っているからである。私が弱い身で書いた言葉は、私の民のために大いに力強いものになるであろう。この言葉は善を行えとかれらに説き勧め、その先祖のことを明らかにし、イエスのことを教え

2ニ-33,4-1,またイスラエルを信じて終りまで堪え忍べと説き勧めている。イエスを信じて終りまで堪え忍ぶならば永遠の生命を得るのである。

2ニ-33,5,私の書いた言葉は真理をはっきりと語って罪悪をきびしく咎めるから、悪魔のような精神の者でないかぎりには、誰も私の書いた言葉を怒らないであろう。

2ニ-33,6,私は明白なことを喜んで誇りとし、真理を喜んで誇りとし、またわがイエスが私の身も霊も地獄から贖いたもうたから、イエスのために喜んで誇りとする。

2ニ-33,7,私は自分の民を愛し、キリストの法廷で多くの罪のない人間に逢うことをキリストによって固く信じている。

2ニ-33,8,私はまたユダヤ人を愛している。ユダヤ人とは私の出てきた種族を言う。

2ニ-33,9,私はまた異邦人も愛している。しかしごらん、かれらの中の誰でもキリストに立ち帰り、狭い門から入って生命へ行く真直ぐな道を歩み、この試しの生涯の終りまでその道に従って進まなかったならば、私はその人のために何事も望めない。

2ニ-33,10,さて私の愛する兄弟たちよ、またユダヤ人よ、世界の隅々に至るすべての人々よ、この言葉を聞いてキリストを信ぜよ。たとえこの言葉を信じなくともキリストは必ず信ぜよ。この言葉はキリストの言葉であってキリストがこれを私に伝えたもうたのであるから、もしも

2ニ-33,10-1,もしもキリストを信ずれば必ずこの言葉も信ずるようになる。この言葉は善を行えとあらゆる人に教え勧めている。

2ニ-33,11,あなたたちがもしもこの言葉がキリストでないと思っても、終りの日になってキリストは能力と大きな栄光とを以てそれがキリストの言葉であることをあなたたちに認めさせたもう。そのときにあなたたちと私とはキリストの法廷で対面する。そうすれば、あなたたちは

2ニ-33,11-1,私が弱い者であるのにこれらの事を書けとキリストから言われたことを知るであろう。

2ニ-33,12,私は大いなる終りの日に、私たちのすべてでなくともその多くの者が、天の御父の王国に救われるのを御許しになるよう、キリストの御名によって天の御父に祈る。

2ニ-33,13,さて私の愛する兄弟たちよ、イスラエルの家に縁のあるすべての者よ、世界の隅々に至るあらゆる人々よ、私は土の中から呼ぶ人の声のようにあなたたちに語る。あの大いなる終りの日がくるまでさらば、

2ニ-33,14,神の恩恵にあずかることを好まず、ユダヤ人の言葉と私の言葉と神の子羊の口から出るはずの言葉を重んじない者たちよ。以上の言葉は終りの日になって汝らに罪のあることを決めるものであるから、私は永遠にさらばと言う。

2ニ-33,15,私がこの世に於て結び固める言葉は天の法廷に於て汝らに反対をするであろう。これは主が私に命じたもうたことであるから、私はこの言葉に従わなくてはならない。アーメン。

ヤコフ1,\*-A,ヤコブ書

ヤコフ1,\*-A,ヤコブニ-ファイの弟である。

ヤコフ1,\*-A,ヤコブがその兄弟たちに宣べ伝えたこと。ヤコブがキリストの教義をくつがえそうとする人を説き敗る。ニ-ファイの民の歴史に関するいくつかの言葉。

ヤコフ1,\*-\*,ヤコブ書 第1章

ヤコフ1,\*-\*,ニ-ファイ人とレーマン人。リーハイの子ニ-ファイの死。かたくなな心ともろもろの悪事。

ヤコフ1,1,ごらん。リーハイがエルサレムを去ってからはや55年経った。それであるから、ニ-ファイは私ヤコブにこの記事の刻んである小さい版について命令を下し、

ヤコフ1,2,私ヤコブに1番貴いと思うわずかのことだけを書けと言うことと、ニ-ファイの民と呼ぶこの民の歴史についてはわずかしか書いておくと命じた。

ヤコフ1,3,ニ-ファイは、ニ-ファイの民の歴史はニ-ファイのほかの版に刻まなくてはならぬ、私はこの小さい版を保存して代々私の子孫に伝えよと言い、

ヤコフ1,4,また神聖な説教、重大な啓示または予言があったなら、その要点をこの小さい版に刻み、またキリストのためと私たちの民のためになるべくその要点を説いておけと私に言った。

ヤコフ1,5,私たちは信仰が深くて大そう熱心に望んでいたから、私たちの民の中の将来起ることをすでに確に示されていた。

ヤコフ1,6,また私たちは多くの啓示を受け、多くの予言者を与える“みたま”を授かっていたから将来来りたもうキリストとその王国のことをすでに知っていた。

ヤコフ1,7,それであるから、私たちは私たちの民が神の安息に配流ように、キリストの御許にきて神の恵みにあずか

れと説きすすめるために民の中で熱心に努力をした。私たちの民がそうしなかったなら、前にイスラエル人が荒野に旅をした試しの時代に、神が本当に怒って近いを

ヤコブ1,7-1,立てたもうたように、また怒って私たちの民にも安息を受けさせないと近いもうおそれがあったからである。

ヤコブ1,8,それであるから、私たちはあらゆる人に説きすすめて、これらの人が神にそむかず、神を怒らせず、キリストを信じてその死を思いまたキリストの十字架を負って世のあざけりを忍ぶようになることを神に祈る。従って、私ヤコブは兄のニーフアイが命じた言葉の通りに

ヤコブ1,8-1,責任を喜んで引き受ける。

ヤコブ1,9,さて、ニーフアイは年もようやくとり、自分で死の近いことを知った。それであるから、王の位に関する法に従い、1人の男に油をそそいでその民の王としその統治者とした。

ヤコブ1,10,ニーフアイはその民を守るために、レーバンの剣をふるってその大きな保護者となり、生涯人民のさいわいのために力をつくした。それであるから民は非常にニーフアイを愛し、

ヤコブ1,11,その名の記念されるようにねがったからあとで民を治める者はその統治する順に従って、ニーフアイ2世、ニーフアイ3世と呼ばれ、民はその王の本当の名はどうあろうとこのように呼んだ。

ヤコブ1,12,そしてニーフアイはついに死んだ。

ヤコブ1,13,レーマン人でない民はニーフアイ人であるが、この地に居った民はそれぞれニーフアイ人、ヤコブ人、ヨセフ人ゾーラム人、レーマン人、レミュエル人、イシメル人と呼ばれた。

ヤコブ1,14,しかし、私ヤコブはこのような名で民を区別せずに、ニーフアイの民を亡ぼそうとする者をレーマン人と呼び、ニーフアイに行為を持っている者たちを王の位に関する法に従ってニーフアイ人またはニーフアイの民と呼ぼう。

ヤコブ1,15,さて、第2代目の王の代になって、ニーフアイの民はだんだんその心をかたくなにし、多少の悪事をするようになった。その悪事と言うのは、昔ダビデとその子のソロモンが多くの妻や多くの側目を好んだようなことである。

ヤコブ1,16,その上かれらは、ようやく多くの金銀を追い求めて、その傲慢が次第にひどくなった。

ヤコブ1,17,それであるから、私ヤコブはまず主から使命と権能とを授けられ、神殿で教えを説く時に次のように宣べ伝えた。

ヤコブ1,18,私ヤコブと私の弟のヨセフとは、すでにニーフアイの按手によってこの民を教え導く祭司と教師とに立てられていた。

ヤコブ1,19,私たち2人は主の御前にその職をつくして責任を負い、私たちがもしも一生けんめいに神の道を民に教えなかったならば、民の犯した罪の責任を私たちが負わなくてはならないことを認めた。それであるから、かれらの犯した罪の血が私たちの衣服にかからないようにの

ヤコブ1,19-1,ために、私たちは力いっぱい努力をした。そうしなかったならば、かれらの犯した罪の血が私たちの衣服にかかって、終りの日に私たちは潔白な者とは認められないであろう。

ヤコブ2,\*-\*,ヤコブ書 第2章

ヤコブ2,\*-\*,ヤコブが不貞やそのほかの罪悪を非を鳴らすこと。多妻結婚が民の罪悪のために禁ぜられる。

ヤコブ2,1,ニーフアイが死んでから、その弟のヤコブがニーフアイの民に宣べた言葉は次の通りである。

ヤコブ2,2,さて私の愛する兄弟たちよ。私ヤコブは、私の職責を真面目に務めると約束をした責任を神に負っているので、あなたたちの罪の責任が私の衣にかからないように、神の言葉をあなたたちに宣べ伝えようとして今日神殿へきた。

ヤコブ2,3,あなたたちは、私がこれまで任ぜられている職務にはげんでいることを親しく知っている。しかし、私は今日あなたたちが得る永遠の幸福について、これまでよりも大きな希望と心配とを抱いているから心が重い。

ヤコブ2,4,ごらん、今まであなたたちは、私の述べた主の言葉に従ってきた。

ヤコブ2,5,しかし今私の言う言葉をよく聞け、私は、あなたたちの心が私にも神にもまことに憎むべき罪悪を犯し始めたと、全能である天地の造り主が賜う能力によって今あなたたちにさすことができる。あなたたちはこのことを知れ。

ヤコブ2,6,あなたたちの心の罪悪について、私がこれをあなたたちに証明しなくてはならないことが私の心を苦しめる。私はこれを恥ずかしく思い造り主の御前におそれて縮み上がるのである。

ヤコブ2,7,またあなたたちの行いについて、あなたたちの妻子の前でこれをあからさまに話さなくてはならないのは私がまことに心苦しいことである。神の目から見ると、あなたたちの妻や子は多く貞節であって、その感情は非常に感じ易くまた傷つき易い。これらのことはまことに

ヤコブ2,7-1,神のみこころにかなうところである。

ヤコブ2,8,私が思うに、かれらは喜ばしい神の言葉、すなわちかれらの傷ついた心を癒す言葉を聞こうとして神殿に

集ってきた。

ヤコフ2,9,それで、私は神から受けたきびしい命令によってあなたたちの在野区に応じて忠告をしなくてはならないから、そのために心に傷を負うた人をなぐさめてこれを癒すかわりにますますその傷を大きくする。、あた傷を負うていない人には神の楽しい言葉を味わわせるかわ

ヤコフ2,9-1,短刀で刺すように話をして心をつき刺して感じ易い心を傷つけなくてはならない。これは、まことに私の心が苦しむところである。

ヤコフ2,10,しかし、この務めが苦しいにもかかわらず、私は神のきびしい命令に従って心の清い者と心の傷ついた者との前に立ち、全能の神が鋭い目で見たまう所で、あなたたちにその罪悪と憎むべき行いとを戒めなければならない。

ヤコフ2,11,それであるから、私は明白な神の言葉によって、あなたたちに事実を話さなくてはならない。ごらん、私が主におたずねした時、主の言葉が私に下って”ヤコブよ、明日神殿に行きわが汝に与うる言葉をこの民に伝えよ”と仰せになった。

ヤコフ2,12,さてごらん、私の兄弟たちよ、私があるあなたたちに伝える言葉は次の通りである。あなたたちの中には、あなたたちとあなたたちの子孫が受けた約束の地であるこの国から豊に出る金銀、そのほかのあらゆる貴い鉱物を採り求めた者が多くある。

ヤコフ2,13,このようにして、あなたたちは天の幸を豊に賜って、多くのたからを手に入れたけれども、あなたたちの中にはほかの兄弟たちよりは沢山に宝を手に入れたから心が麴り、その衣服の値が高いのを自慢し、また自分にはほかの兄弟たちよりもすぐれているからとって

ヤコフ2,13-1,苦しめる者がある。

ヤコフ2,14,しかし私の兄弟たちよ、あなたたちがこのようなことをして神はこれを義しいとしたもうであろうか。いや、かえってあなたたちを罪ありとしたもうのである。あなたたちがもしもかたくなであって、このような行いをつづけたならば、神の裁きが必ず速にあなたたちに

ヤコフ2,14-1,違いない。

ヤコフ2,15,ながわくは、神があるあなたたちを刺しつらぬいて、一目でもってあなたたちを地にうち倒す力があることを知らせたまわんことを。

ヤコフ2,16,ながわくは、神があるあなたたちからこの罪悪と憎むべき行いとを取り去りたまわんことを。また私の望むことはあなたたちが神の命令に聞き従い、自分の心につる傲慢のために、あなたたちの身も霊も亡ぼさないようにすることである。

ヤコフ2,17,あなたたちは自分の兄弟を自分自身のように思え。かれらと皆親密にして、あなたたちのようにかれらも富者になるように惜まらずにあなたたちの財産を与えよ。

ヤコフ2,18,財産を求める前にまず神の王国を求めよ。

ヤコフ2,19,あなたたちがすでにキリストに望をもってから宝を求めたならばその通りに宝が手に配流であろう。しかし、その時あなたたちがその宝を求める目的は、裸でいる者に着物を着せ、飢えている者に食を与え、束縛されている者を救って自由にし、病んでいる者と悩んでい

ヤコフ2,19-1,救うなど、およそ良事を行うことである。

ヤコフ2,20,さて私の兄弟たちよ、私はすでに高慢についてあなたたちを戒めた。あなたたちの中で、神から賜わった物を心に誇って隣人を苦しめこれを悩ませている人たちよ、今その行いをかえりみてどのように思うか。

ヤコフ2,21,このような行いは、あらゆる人をつくりたもうたお方にとって憎むべき行いであるとは思わないか。神の目にはこの人もあの人と同じように大切である。あらゆる人間はみな同じように土からつくられ、人に神の命令を守らせとこしえに栄光を神に帰させると言う同じ目

ヤコフ2,21-1,神がつくりたもうた。

ヤコフ2,22,私はこのような高慢についての話をこれで終るが、もっとひどい罪悪についてぜひあなたたちに話をしなくてもよかったならば、私の心はあなたたちのことを考えて嬉しかったであろう。

ヤコフ2,23,しかし、あなたたちにはひととき悪い罪があるから、神の言葉が私に下った。私は心配である。ごらん、主が仰せになるには”この民の罪悪増長す。かれらは聖文を理解せざる故にダビデとその子のソロモンにつきて”×ことを引用して、自分たちのみだらなる行いを弁解

ヤコフ2,24,見よ、ダビデとソロモンとはまことに多くの妻と側女とを持ちたりしが、こはわが女に憎むべきことなり”と。

ヤコフ2,25,従って、主は”われはヨセフの子孫よりわがために1つの義しき枝を生ぜしむるよう、わが手の力によりてこの民をエルサレムの地より導き出だせり、

ヤコフ2,26,故に、われ主なる神はこの民が昔の人々の真似をするのを許さず”と仰せになる。

ヤコフ2,27,それであるから、私の兄弟たちよ。私の言うことを聞き主の言葉に聞き従え。万群の主は”汝の中、どの男も1人のほか妻をもつべからず。側女を1人ももつべからず。

ヤコブ2,28,われ主なる神は女子の貞節を喜ばしく思えど、みだらなる行いはわが女にけがらわしきことなり。

ヤコブ2,29,故に、この民はわが命令を守れ。守らざればこの地はかれらに対してのろむべし。

ヤコブ2,30,もしもわれが人の子孫を多く生じさせんとする時来らば、われはその時これをわが民に命ぜん。その命令のなき中に前に示したる言葉を守れ。

ヤコブ2,31,見よ、主なるわれはエルサレムの地にあるわが民の女子たち、およびわが民に7住む諸国にある女子たちがその夫の罪悪と憎むべき行いとにより悲しむのを見、なくのを聞けり。

ヤコブ2,32,故に、われはエルサレムの地よりつれ来りたるこの民の美しき女子たちが、わが民の男子らの悪しき行いを泣きてわれに訴うる声を菊に忍びず。

ヤコブ2,33,何とならば、男子たちがわが民の女子たちの優しさにつけこみこれを欺かば、われはその男子たちをひどくのろいてこれを亡ぼすべければなり。かれらは昔の人たちの真似をしてみだらなる行いをなすべからずと仰せになった。

ヤコブ2,34,さてごらん、私の兄弟たちよ、あなたたちは父のリーハイにもこの命令が下ったことを知っている。それであるから、あなたたちは前からこの命令のことを知っているのである。それであるのに、あなたたちは犯してはならないこれらの悪事を犯したのであるから、重い

ヤコブ2,34-1,重い罪がある者である。

ヤコブ2,35,ごらん、あなたたちは私たちの兄弟のれ一万人よりもっとひどい罪悪を犯した。優しくて感情の傷つき易い自分の妻の胸を張り裂けさせ、子供には悪い手本を見せてその信用をなくした。かれらの心の嘆きは神に聞こえてあなたたちの悪い行いを訴えている。またあな

ヤコブ2,35-1,あなたたちを咎めるために神から下る言葉がきびしいゆえに、すでに不快傷を負うたように心が痛み悲しんで死んだ妻子が多くある。

ヤコブ3,,ヤコブ書 第3章

ヤコブ3,\*-\*,ヤコブの避難さらにつづく。レーマン人はニーファイ人よりも義しいこと。レーマン人結婚につきその忠誠を賞められる。ニーファイ人再び警告を受ける。

ヤコブ3,1,ごらん、私ヤコブはこれから心の清い人たちに話をしようと思う。心を堅く保って神を頼み、固く信じて神に祈れ。そうすれば神は艱難の時にあなたたちを慰め、あなたたちのためにとりなし、あなたたちを亡ぼそうとする者を裁きたもう。

ヤコブ3,2,心の清いすべての人たちよ、頭をあげて神の楽しい言葉を受けよ。そしてあくまで神の愛を味わえ。あなたたちの心が堅固であるならば、とこしえにこのようにすることもできる。

ヤコブ3,3,心が清くなくて、現在神がその目でけがれていると見たもう人たちよ。その人は禍である。実に禍である。あなたたちが悔い改めなかったなら、この地はあなたたちのためにのろまれる。またあなたたちのようにけがれていないレーマン人は、すでにひどいのろいでのろ

ヤコブ3,3-1,けれども、あなたたちを攻め苦しめて亡ぼしてしまうであろう。

ヤコブ3,4,またあなたたちが悔い改めなかったなら、レーマン人があなたたちの受け嗣ぎの地をとってしまう時と、主なる神があなたたちの中から義しい人をほかの所へつれ出してしまったもう時とが早速くるであろう。

ヤコブ3,5,ごらん、あなたたちは兄弟であるレーマン人が汚くて、のろいとその皮膚に受けているからかれらを憎むけれども、レーマン人はあなたたちよりも義しい。なぜならば、レーマン人は私たちの先祖が受けた主の誠命、すなわち1人のほか妻をもつべからず、側女を1人も

ヤコブ3,5-1,もつべからず、民の中にみだらな行いあるばかりの誠命を忘れないからである。

ヤコブ3,6,さてレーマン人は謹んでこの誠命を守っているから、主なる神はかれらを亡ぼさずかえってこれを憐みたまう。従って、かれらはいつか幸福な民になる。

ヤコブ3,7,ごらん、レーマン人の夫である者は妻を愛し、妻である者は夫を愛し、夫と妻はその子供たちを愛している。レーマン人に信仰なくまたあなたたちに対して憎しみを以ているのはその先祖の罪から起っているのである。それであるから、大きな造り主の目から見たらあな

ヤコブ3,7-1,どれほどレーマン人よりもすぐれているか。

ヤコブ3,8,ああ、私の兄弟たちよ、あなたたちがその罪を悔い改めなかったならば、レーマン人と一しょに神の王座の前に召される時に、かれらの皮膚よりも白いであろう。

ヤコブ3,9,それであるから、私は神の言葉である1つの命令をあなたたちに告げよう。あなたたちは皮膚が黒いからと言ってレーマン人の悪口を2度と言ってはならない。また汚いからと言ってかれらの悪愚痴を言ってはならない。あなたたちは自分の汚いことをむしと反省して、

ヤコブ3,9-1,レーマン人が汚いわけはその先祖に原因があることを忘れてはならない。

ヤコブ3,10,それであるから、あなたたちはよろしく自分の子供たちのことを考えて、自分が子供たちに悪い手本をのこしたから、どれほど子供たちの心を苦しめたかを考えよ。また自身が汚いからして子供たちも亡ぼしたならば、終

の日に子供らの罪が自分にたちにふりかかるかも

ヤコブ3,10-1,ことをおぼえておけ。

ヤコブ3,11,ああ、私の兄弟たちよ、私の言う言葉に聞き従え。全身全霊をふるい起して自分からはげみ、死滅に陥る眠りから目ざめよ。そして、悪魔の使となって燃える硫黄の湖である第2の死に逢わないように地獄の苦しみから抜けて出よ。

ヤコブ3,12,さて、私ヤコブはこのほか多くのことをニーフアイの民に話し、みだらな行いや好色などあらゆる罪を戒めて、このような罪のおそろしい結果を告げ知らせた。

ヤコブ3,13,今やその人数が次第に多くなり始めたこの民の行いは、100分の1さえもこの版に書き記すことができなから、その行いの多くはあの大きな版に書き記し、またその戦、不和、王の統治のことなども物せてある。

ヤコブ3,14,この版はヤコブ版と名づけ、ニーフアイの手で造られた。私はこれでこの言葉を終りにする。

ヤコブ4,,ヤコブ書 第4章

ヤコブ4,\*-\*,ヤコブの教え、つづく。ニーフアイ人の中にあるモーセの律法は、かれらにキリストへ赴く道を示す。ユダヤ人がキリストを拒むことが予め解る。

ヤコブ4,1,さてごらん、私ヤコブは私の口から多くの教えを私の民に授けたが、この言葉を版に刻むことはむづかしいから、私の言葉はわずかばかりのほか書き記すことができない。しかし、私たちはその版に書き記すことは必ずなくならないでのこるけれども、

ヤコブ4,2,版でないほかの物の上に書く事は皆かならず消えてしまうことを知っている。しかしながら、私たちの子孫と愛する兄弟たちに、私はいささかその先祖のことと私たちのことを知らせるいくつかの言葉を版にのせることができる。

ヤコブ4,3,これさえできれば私たちは喜ばしいので、私は一生けんめいはげんでこのいくつかの言葉を版に刻む。私の望むのは、私たちの愛する兄弟たちと子孫たちが心に感謝してこれを受け、悲しまず侮らず喜びの心をもってその先祖のことを学ぶために、これを調べて見ること

ヤコブ4,4,私たちがこのいくつかの言葉をこの版にのせるのは、私たちがもうすでにキリストのことを知っていることと、またキリストが降臨したもう何百年も前に私たちばかりでなく私たちばかりでなく私たちよりも先に出了すべての聖い予言者たちもまた、すでにキリストの栄

ヤコブ4,4-1,待ち望んでいたことを兄弟たちと子孫たちに知らせるためである。

ヤコブ4,5,がらん、この聖い予言者たちはキリストを信じ、その御名によって御父を礼拝した。今私たちもキリストの御名によって御父を礼拝する。そしてモーセの律法は、私たちの心をキリストの方へ向けるものであるから、私たちはこれを守っている。それであるから、これを

ヤコブ4,5-1,私たちにとって義しいと定められている。これはまことに、アブラハムが荒野の中で神の命令に従ってその息子のイサクをいけにえにすることが、アブラハムにとって義しいとされた通りである。アブラハムがイサクをいけにえにしようとしたことは、後に神がその生み

ヤコブ4,5-1-1,生みたもうた独子をいけにえになしたもうことに応じて予めこれを示すものであった。

ヤコブ4,6,それであるから、私たちは予言者の書いた聖文を研究し、多くの啓示を受け、また予言の"みたま"をもっている。このように多くの証があるので私たちは希望を得て私たちの信仰は固くなる。まことにその信仰は、私たちがもしもイエスの御名によって命ずれば、実際

ヤコブ4,6-1,実際木も山も海もその命令に従うほどに強い。

ヤコブ4,7,それにもかかわらず、私たちがこのようにする力をもつことは、全く神の恵みと神の人に対する厚いいつくしみとによることをさとらせるために、主なる神は私たちに自分たちが弱いことを認めさせたもうのである。

ヤコブ4,8,ごらん、主の御業は本当に偉大で驚嘆すべき事である。また主の奥義が何と深くて、隅々まで知ろうとしてもむづかしいことよ。それであるから、主のなしたもうことを一切知るのはとても人間業でできることではない。主の道が啓示されなかったならこれを知る者は1

ヤコブ4,8-1,1人もない。それであるから兄弟たちよ。神の下さる啓示を軽んじてはならない。

ヤコブ4,9,ごらん、人間は神の言葉の力によって大地のおもてに出てくることができ、その大地も神の言葉の力によって造られた。それであるから、このように神が命じたもうたから大地ができ、神が命じたもうたから人が造られたとするならば、何で神はそのみこころのままに大

ヤコブ4,9-1,大地に下し、または神の御手で造りたもうた地上の物に命を下したもうことができないであろうか。

ヤコブ4,10,それであるから兄弟たちよ、主に向って勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けようとせよ。ごらん、あなたたちは主が智恵と正義と大きな憐みとをもって、造りたもうた万物を勧め戒めて治めたもうていることを知っている。

ヤコブ4,11,従って、愛する兄弟たちよ、御父が生みたもうた独子キリストの身代りの贖罪によって、御父の許に立ち帰れ。そうすれば、あなたたちはキリストにある復活の力でよみがえることができる。またあなたたちは信仰があっ

て、キリストが肉体で現われたもう前に、もうキ

ヤコフ4,11-1,キリストによって充分栄光を受ける希望を持っているから、キリストの最初の実として神の御許に挙げられることができる。

ヤコフ4,12,さて、愛する者たちよ、私がこのことをあなたたちに言うのを怪しんではならない。復活と次の世のことを知ると同じように、キリストの身代りの贖罪のことを話し手キリストについてあらゆることを知ろうとしても何のさしつかえがあろうか。

ヤコフ4,13,ごらん、私の兄弟たちよ、予言する者はよろしく人が解るように予言をせよ。“みたま”は真実を話して偽りたもうことがない。それであるから、“みたま”は現在の事をありのままに示し、未来の事もまたありのままに示したもう。それであるから、これらのことは私

ヤコフ4,13-1,自身を救うためにははっきりと私たちに示されている。しかしごらん、これらのことを証明する者は私たちだけではない。神はまた昔の予言者たちにもこれを示したもうた。

ヤコフ4,14,しかしユダヤ人はかたくなな民であって、はっきりした言葉を侮り、予言者たちを殺し、解り憎いことをたずね求めた。それであるから、ユダヤ人は思い違いをしたために盲目となり、盲目であるから墮落をしなければならなかった。神はもはやそのはっきりとした教え

ヤコフ4,14-1,ユダヤ人から取り去りたまい、その代りにかれらの解りにくいことを多く伝えたもうた。それは、かれらがこれを望んだからである。そしてかれらが望んだから、神はそのようになしたもうてからはつまずいた。

ヤコフ4,15,今、私ヤコブは予言をすることを“みたま”に促されている。私は私の心に宿る“みたま”の働きによってユダヤ人が自分からつまずいたために、安全に建物が建てられる堅固な基となる石を捨てることを知っている。

ヤコフ4,16,しかしごらん、聖文によるとこの石はユダヤ人がその上に建てることのできる唯1つの堅固な最後の大きな基礎になるものである。

ヤコフ4,17,さて、私の愛する者たちよ、ユダヤ人が1度その基礎になる堅固な石を捨てたならば、どうしてこれをその隅の首石としてその上に建てることができるであろうか。

ヤコフ4,18,ごらん、私の愛する兄弟たちよ、もしも私が何かによって“みたま”の力を失ったり、あなたたちのために心配しすぎて間違ったりしなかったならば、あなたたちにこの奥義を開いて明らかにしよう。

ヤコフ5,,ヤコブ書 第5章

ヤコフ5,\*-\*、ヤコブ、予言者ゼノズの言葉を引いて話をする。栽培の“かんらん”の木と野生の“かんらん”の木のたとえ。イスラエル人と異邦人。

ヤコフ5,1,ごらん、私の兄弟たちよ、あなたたちは予言者ゼノズがイスラエルの家について言った言葉を読んだおぼえがあるか。その言葉は次のようである。

ヤコフ5,2,イスラエルの家よ、主の予言者であるわが言葉に耳を傾けて聞け、

ヤコフ5,3,見よ、主は言いたもう。イスラエルの家よ、われは汝を人がその樹木園に植えて養う栽培した“かんらん”の木になぞらえよう。この木は育ってやがて古くなり、とうとう腐りはじめた。

ヤコフ5,4,やがて樹木園の主人がやがてきて、その“かんらん”の木が腐りはじめるのを見て“私はこの木の枝を狩り込み、根本を掘って肥を入れてやろう。そうしたらまた柔らかい新芽を出して枯れないだろう”と言った。

ヤコフ5,5,そして主人は言った通りに、その木の枝を刈り込み根本を掘って肥を入れてやった。

ヤコフ5,6,このようにして大分日が経ってから柔らかい新芽が少し出かかったが、その木の頭の先は枯れかかった。

ヤコフ5,7,そこで樹木園の主人はこれを見てその僕に言った“この木をなくするのはまことに惜しい。だから、汝は言って野生の“かんらん”の木の枝を切って私の所へ以てきてくれ。そこでこの木の枯れかかった重な枝を切ってすて、火の中に投げこんで焼いてしまおう”と。

ヤコフ5,8,またその樹木園の主は“私はこの木の柔らかい新芽をたくさん取って、私のよいと思う所に接木をしよう。たとえこの木の根が枯れたとて、私のためにその実を保存することができればよいのだから、今この柔らかい新芽を取って私のよいと思う所に接木をしよう。

ヤコフ5,9,汝は野生の“かんらん”の木の枝をもってきて、それをこの木の重な枝を切った所に接げ。そこで私は切り取った枯れかかりの枝を火に投げこんで燃し、私の樹木園のじゃまにならないようにしよう”と言った。

ヤコフ5,10,僕はその主の命令に従って野生の“かんらん”の木の枝を接いだ。

ヤコフ5,11,それから樹木園の主はその木の枝を刈り込ませ、根元を掘って肥を入れさせ、さて僕に“この木を今なくするのはまことに惜しい。だから、その根が枯れてしまわないで、私のために保存ができるかも知れないと思ってこうしたのである。

ヤコフ5,12,それであるから、汝は仕事にかかって私の命じたようにこの木を見守り、この木を養ってやれ。

ヤコフ5,13,私はこの木の柔らかい新芽を私の樹木園の1番端の方へ持って行って、私のよいと思う所へ植えよう。それをどこへ植えるかは、汝の知ったことではないが、私がこうするのは私のためにその元の自然の枝を保存し、焼払いの時の前にその実を蓄えておくためである。私が

ヤコフ5,13-1,私がこの木とその実とを1しよになくするのはまことに惜しい”と言った。

ヤコフ5,14,それから、耳目園の主は栽培した“かんらん”の木から切り取った元の自然の枝を、樹木園の1番端の方へもって行って、自分の思うままにある枝はあちらに植え、て隠した。

ヤコフ5,15,それからずいぶん長く経って、樹木園の主はその僕に”さあ、2人で樹木園に行って働こう”と言った。

ヤコフ5,16,そして、樹木園の主とその僕とは働こうとして樹木園に行ったが、その僕は主人に”さあ、この木をごらん下さい”と言った。

ヤコフ5,17,そこで樹木園の主が、野生の“かんらん”の枝を接いだあの木を見ると、もはや成長して実がなり始め、しかもその木は良くてその実が元の自然の実のようであった。

ヤコフ5,18,これを見て主はその僕に向かって”見よ、野生の木の枝はこの木の根から液を吸い上げ、根はよく枝に力を与えた。この木の根には豊に力があるから、野生の枝も栽培した木になるような実を結んだ。2人がもしもこの枝を接がなかったならば、この木は必ず枯れていたで

ヤコフ5,18-1,見よ、今やこの木になった多くの実は蓄えられよう。私は焼払いの時の前に、私のためにこの木の実を蓄えよう”と言い、

ヤコフ5,19,また僕に向かって”さあ、2人で樹木園の1番端の方へ行って、この木から取った本埜自然の枝にもよく実がなっているかどうか、焼払いの時がくる前に私のためにその実も蓄えられるかどうかを見よう”と言った。

ヤコフ5,20,そこで2人が、さきに主人が元の自然の枝を隠した所へ行くと、主人は僕に向かってこれを見よと言った。さて最初の枝を見ると実がたくさんなってしかも質の良い実であった。そこで主人は僕に命じて”この実もまた私のために保存ができるように、焼払いの時の前に蓄

ヤコフ5,20-1,見よ、私はこの長い間この枝を養ってきたから、今やたくさんの実がなった”と言った。

ヤコフ5,21,すると僕は主人に向かって、この木を植えるために、いや、木の枝をさすために、どうしてここまできたのか、ここは園の中で1番やせた土地であると言った。

ヤコフ5,22,樹木園の主はこれに答えて”私に忠告するな、私はここがやせ地であることを知っていたから、今汝に言ったようにこの長い間かかってこの枝を養った。それで汝が見るように実がよくなったのである”と言い、

ヤコフ5,23,また樹木園の主はその僕に向かって”ここを見よ。私はここに今1本の木の枝を植えたが、汝の知っているように、ここの土はさきの土よりもやせている。しかしこの木を見よ、私はこの木もまたこの長い間養ってきたから実がたくさんになった。それであるから、私がこ

ヤコフ5,23-1,この枝の実を保存するように、焼払いの時の前にこれを集めて蓄えよ”と言い、

ヤコフ5,24,また僕に向かって”こことも見よ、私が植えたもう1本の枝を見よ。私はこれも養ってやったから今実がなっている”と言い、

ヤコフ5,25,また”こちらを向いて最後の枝を見よ。私はこれを良い土地に植えてこの長い間養ってきたが、この木は一部分にだけ栽培した木になるような実がなり、そのあつの部分には野生の実がなっている。ごらん、私はそれでも確にほかの木と同じように養ってきた。

ヤコフ5,26,良い実のなっていない枝は切りとって火の中に投げ入れよ”と言った。

ヤコフ5,27,しかし僕は主に向かって、2人してこの木の枝を刈り込んでその根元を掘り、今少し肥を入れて養ってやったら如何であるか。そうしたら、この木もあなたのために良い実を結んで、焼払いの時の前にその実が蓄えられるかも知れないと言った。

ヤコフ5,28,そこで樹木園の主とその僕とは、その園の中の実に皆養いを与えた。

ヤコフ5,29,それからずいぶん日が経ってから、樹木園の主はその僕に向かって言った”見よ、時期が近づいて終りがじきにくるから、私は焼払いの時の前に私のために実を蓄えなくてはならない。さあ、2人してまた樹木園へ行って働こう”と。

ヤコフ5,30,そこで主とその僕とは一しよに樹木園へ行き、元の自然の枝を折り取って 野生の木のえだを接いだ木の側へきて見ると、いろいろな実が木にいっぱいになっていた。

ヤコフ5,31,樹木園の主は、その種類を区別して一々みなこれを味わい、それから僕に告げて言った”見よ、2人はかほどの長い間この木を養い、焼払いの時の前に私のためにもはやたくさんの実を蓄えた。

ヤコフ5,32,ところがこのたびは、沢山の実がなったけれども1つとして良い実はない。詞々よ、あるいはみな悪い種類の実であって、2人があれほど骨折った甲斐もなく私の利益は少しもない。しかし、この木をなくするのはまことに惜しい。

ヤコフ5,33,もう1度私のためにこの木から良い実を保存するには、どうしたらよいだらうか”と。

ヤコフ5,34,すると僕は主人に対して、あなたが野生の“かんらん”の枝をこの木に接いだので、その音がああ野生の枝によって養分をとることができて木は今枯れずに生きており、見られるようにまだ善いのである、と答えた。

ヤコフ5,35,しかし樹木園の主は僕に”この木に悪い実がなるうちは、私にとって何の利益にもならずまたその根もまた何の得にもならない。

ヤコフ5,36,それでも、この根は良いことがわかっているので私の役に立たせるために、今まで根を保存してきた。この木の根は強い力があるので、野生の枝いもこれまで良い実をならせたことがあった。

ヤコフ5,37,ところがごらん、野生の枝が成長してその根に勝ったのでわるい実がたくさんなった。このようにわるい実がたくさんなったので汝の見るように木がだめになり始めている。もしも2人がこれを保存するように何かしないならば、木はすぐにだめになってしまって火に投

ヤコフ5,37-1,投げこまれるであろう”と言い、

ヤコフ5,38,またつずいて樹木園の主は”さあ、2人して樹木園の1番端の所へ行って、元の自然の枝にもわるい実がなっているかどうかしらべよう”と言った。

ヤコフ5,39,それから2人して樹木園の1番端の所へ行ってみると、元の自然の枝の実もわるい実になってしまって、第1の枝も第2の枝もまた最後の枝までその実がみな悪い実になってしまっていた。

ヤコフ5,40,また最後の枝になった野生の実は、もう良い実をならせた枝を負かして、良い実をならせた枝はもう枯れて死んでしまっていた。

ヤコフ5,41,これを見て樹木園の主は涙を流して僕に言った”私がこれまでしてきたこと以上に、まだ樹木園のためにやってやれたことがあるだろうか。

ヤコフ5,42,私はここにある枝になった実は別にして、樹木園にあるほかの実がみなわるい実になったことを知っているが、今は前に良い実をならせてくれたこれらの枝もわるくなっている。ああ、私の樹木園の木はみなだめになって、ただ切り倒して火に投げこむだけである。

ヤコフ5,43,ごらん、私は今は枝が枯れてしまったこの最後の木を良い土に植えてやった。実際、私は樹木園の内野どこよりも良いと思った所に植えてやった。

ヤコフ5,44,また汝が見たように、私はこの木をここに植えるために、もとこの所に生えていたものを取り除いた。

ヤコフ5,45,また、さきに汝が見たように、この木の1部分には良い実がなり、1部分には野生の実がなった。ところが、私が野生の実のなった枝を切って火に投げ入れなかったから、ごらん、その枝は良い枝を負かしてこれを枯らした。

ヤコフ5,46,さてごらん、2人は私の樹木園にこれほどまで心をつかって働いたのに、中にある木はだめになって良い実はいつもならない。これらの木は、保存しておいて焼払いの時の前に私のためにその実を蓄えようと思っていたものである。ところがごらん、これらの木は野生の

ヤコフ5,46-1, ”かんらん”の木のようになってしまって、切り倒して火の中に投げこむほか何のねうちもない。だから、これをなくするのはまことに惜しいことである。

ヤコフ5,47,しかし、私がこれまでしてきたこと以上に、まだ樹木園でやってやれたことがあるだろうか。私が高まけて養いを与えなかったことがあるだろうか。いやいや、私は養いを与えたり、枝の刈り込みをしたり、根元を掘って肥を与えたりしたばかりか、いつもほとんど1日

ヤコフ5,47-1,1日中手をつくしたが終りの時がもう近づいた。私が今樹木園の木をみな切り倒して火に投げこんで燃やすほかに仕方がないのはまことに惜しいことである。私の樹木園をこのようにだめにならせたのはいったい誰であるか”と。

ヤコフ5,48,すると僕はその主人に答えて、それはあなたの樹木園の木が高くそびえているからではないか。だから、枝が良い根を負かしているからではないか。枝が根に勝っているのです、それが根の力以上の成長をして根から勢力をとりすぎるのである。これがあなたの樹木園の木

ヤコフ5,48-1,木がだめになる原因ではないかと言った。

ヤコフ5,49,そこで樹木園の主は僕に”2人して仕事にかかって、樹木園の木をみな切り倒して火の中に投げこみ、そしてもうこれから樹木園のじゃまにならぬようにしようではないか。私は十分に手をつくした。私がこれまでしてきたこと以上に、まだ私の樹木園のためにやって

ヤコフ5,49-1,やってやれたことがあるだろうか”と言った。

ヤコフ5,50,しかしごらん、僕はどうかもう少々助けておいてくれるようにと樹木園の主に言った。

ヤコフ5,51,主はこれに答えて言った”よろしい、私の樹木園の木をみななくするのはまことに惜しいからもう少々助けておこう。

ヤコフ5,52,それであるから、私の樹木園の1番端の方に植えたこれらの木の枝を取って、また元の親木に接ぎかえそうではないか。すなわち、親木の中で1番渋い実のなる枝を切り捨て、この木の元の自然の枝をそこへ接ぐことにしようではないか。

ヤコフ5,53,私がこうするのは、親木を枯らさずにその根を私の役に立つように保存ができるかも知れないと思うからである。

ヤコフ5,54,ごらん、私が良いと思った所に植えた元の自然の枝から出た根がまだ生きているから、これも私の役に立つように保存するために、その親木の枝をとってきてまたこの木に接いでやろう。この木にまた親木の枝を接ぐ

のは、私のためにその根も保存して、根に充分の力が

ヤコフ5,54-1,私のために良い実をならせ、なお私が私の樹木園の実によって栄えを受けるためにするのである”と言った。

ヤコフ5,55,そして2人は今は野生のようになった親木の枝をとって、元の自然の枝から生えて今野生のようになっている木に接ぎ、

ヤコフ5,56,また元の自然の枝から生えて野生のようになっている木の枝を取ってこれを元の親木に接いだ。

ヤコフ5,57,そこで樹木園の主は僕に言った”1番強い枝は切つてよいがそのほかに野生のようになった枝を木から切り捨てるな。そして切り捨てたあとには、私が教えたように接ぎ木をせよ。

ヤコフ5,58,そうしたら、2人はまた樹木園の木に養いを与えて、その枝を刈り込み、腐って枯れるにちがいない枝は切り捨てて火の中へ投げ入れよう。

ヤコフ5,59,このようにするのは、根がまだ良いので枝が接ぎかえられたためにまた勢いよくなって善い方が悪い方に勝つかも知れないからである。

ヤコフ5,60,私はもはや元の自然の枝とこの枝から出た根とを保存し、また元の自然の枝から出た枝をその親木に接ぎかえしてその親木の根も保存した。これでもって、私の樹木園の木には良い実がなるかも知れない。その時はまた樹木園の実を楽しむことができ、またもとの実が

ヤコフ5,60-1,木の根と枝とを保存したことを非常に喜ぶであろう。

ヤコフ5,61,そうであるから早く行って僕たちを呼んでこい。私たちは一生ねんめい励んで熱心に樹木園で働き、また元の自然の実をよくならせるようにしよう。元の自然の実が良い実であって、ほかのどんな実よりも貴い。

ヤコフ5,62,それで今度こそ最後であるから、私たちは仕事にかかって一生けんめい働こうではないか。ごらん、終りがだんだん近くなる。それで私はこれを最後として樹木園の木の枝を刈り込むのである。

ヤコフ5,63,枝を接ぎ、最後の枝は最初となり最初の枝は最後となるように、最後の枝から接ぎ始めよ。新しい木も古い木も一しよに、始めから終りまで、終りから始めまで、1本のこらず木の根元を掘って今度が最後でもう養いを与えないようにせよ。

ヤコフ5,64,最後の時が、すなわち終りがだんだん近くなるから、今を最後に木の根本を掘り、肥を与え、枝を刈り込み、このたびが最後に接いだ芽が成長して元の自然の実がなり始めたなら汝らは場所を明けてやれ、

ヤコフ5,65,今度接いだ芽が成長し始めるとき、良い枝の大きさとか力に応じて強い実のなる枝を切りとってしまえ。しかし、悪い枝を1度に皆とってしまつてはならない。もし1度にとつてしまうと、接いだ芽にくらべて根の方が強すぎから、接いだ芽が枯れて私は樹木園の木を

ヤコフ5,66,私の樹木園の木をみな失くするのはまことに惜しいから、汝らはその根と梢との力が釣合うように、良い枝が出るにつれて悪い枝を切りとってしまえ。ただし、良い方の枝が悪い方に勝ったときはじめて、もう悪い方の枝が樹木園の土地のじゃまにならないように切りす

ヤコフ5,66-1,火の中に投げ入れよ。かようにして、私は私の樹木園から悪いものをとりのぞくことができる。

ヤコフ5,67,このようにしてから、私は元の親木の枝から出た枝をまた元の親木に接ぎ、

ヤコフ5,68,才女に元の親木からとつた元の自然の枝から出た木に親木の枝を接ごう。このようにしてまたこの2つを組合せると、この2つは同じものになって元の自然の実がなる。

ヤコフ5,69,悪いものは私の樹木園の中のどこにもおかず、外へ捨てられる。私はこれを最後に私の樹木園の木の枝を刈り込もう”と。

ヤコフ5,70,さて樹木園の主はその僕を遣した。僕は行って主が命じたようにほかの僕たちをひきつれてきたがその数は少かった。

ヤコフ5,71,そこで樹木園の主はその僕たちに行った”仕事にかかって樹木園の中で一生けんめいに働け。ごらん、私はこのたびきりでもう私の樹木園には養いを与えない。終りがすでに近づいて焼払いの時がたちまちに来るからである。しかし、もしも汝らが私と一しよに一生けんめいに働くと

ヤコフ5,71-1,けんめいに働くならば、すぐにやってくるはずの焼払いの時に先立って、汝らは私のために蓄えられる実をとって喜び楽しむであろう”と。

ヤコフ5,72,僕たちは行って一生けんめいに働き、樹木園の主もまた一しよに働いた。そして僕たちは何事もみな樹木園の主の命令通りに働いた。

ヤコフ5,73,そこで元の自然の実がまた樹木園の中でなり始め、元の自然の枝も次第に成長して非常に栄え始めた。従つて、悪い枝は少しづつ切つてすてられたが、これはいつも木の根と梢との力の釣合をとつて行われた。

ヤコフ5,74,このように僕たちは樹木園の主の命じた通りに一生けんめい剥げんで働いたが、とうとう悪いものを樹木園から捨ててしまつて、主は自分のために木を保存し、木はまた元の自然の実を結んでみな同一となり、またその実もみな同じ実となり、主人が始めから1番貴いと

ヤコフ5,74-1,元の自然の実を自分のために保存することができるようになった。

ヤコフ5,75,樹木園の主は、その実が良くてもう樹木園がだめにならないことを認めたので、僕たちを呼び集めて次のように言った“ごらん、私たちは樹木園にこれを最後として養いを与えてきたが、知っての通り私は自分の思う通りに事を行い、元の自然の実を保存することができ

ヤコフ5,75-1,その実は良好な実であって最初の実と同じようである。汝らはまことにさいわいである。汝らは、私と1しよに私の樹木園で忠実に一生けんめいに働き私の命じた通りにして元の自然の実を私のために回復し、私の樹木園から悪いものを取りのぞいて、もう少しもだめに

ヤコフ5,75-1-1,だめにならないようにした。それであるから、汝らは私の樹木園の実のために必ず私と一しよに喜び楽しむであろう。

ヤコフ5,76,ごらん、私は今すぐとくる焼払いの時に先立って、私のために長い間私の樹木園の実を蓄えておこう。これから先、私は2度と私の養いを与えず、その木の枝を刈り込ませず、根元を掘って肥を入れず、すでに言ったように長い間ただ自分のために実を集めて貯えておこ

ヤコフ5,77,これから悪い実がまた私の樹木園になるようなことがあったなら、悪い実も良い実も一しよに集めさせて、善いものは私のために貯えさせ、悪いものはそれ相当の所へ捨ててしまおう。かようにして、焼払いの時終りの時がやってくる。その時私は火で以て私の樹木園を

ヤコフ5,77-1,亡ぼすのである、と

ヤコフ6,,ヤコブ書 第6章

ヤコフ6,\*-\*,\*ヤコブ“かんらん”の木のとえ話を解き聞かす。樹木園を刈り込むこと。

ヤコフ6,1,さてごらん、私の兄弟たちよ。私は前にあなたたちに約束をしたから、ごらん今次のように予言をする。すなわち、この予言者ゼウスがイスラエルの家を栽培した“かんらん”の木になぞらえて話したことは必ず起るに違いない。

ヤコフ6,2,主なる神がその民をまた元に復す御業に手を着けたもう時は、すなわち主の僕たちが主から権能を受けてその樹木園に養いを与え、その木の枝を刈り込むために出て行く最後の時であって、その後で終りの時がすぐにくるのである。

ヤコフ6,3,ああ、主の樹木園で勤勉に働いた者たちは本当にさいわいである。ああ、それ相当の所に投げ出されて捨てられる者たちは本当に禍である。世界は火で焼き亡ばされる。

ヤコフ6,4,ああ、私たちの神は私たちに対して本当に憐み深いお方である。神はイスラエルの家の根も枝も忘れないでいつと親しく手を伸べて下さるのに、かれらはかたくなであって言うことを聞かない者たちである。しかし、その心をかたくなにしない者たちは皆神の王国に救わ

ヤコフ6,5,それであるから、私の愛する兄弟たちよ、私はあなたたちが悔い改めて真心から神の御許にきて、神があなたたちについて居りたもうと同じように、あなたたちも神を思ってしっかり神について居るように真面目にあなたたちに勧める。神が憐み深く御手を昼間あなたた

ヤコフ6,5-1,伸しておいだになる間にあなたたちは心をかたくなにしてはならない。

ヤコフ6,6,教でも、神の御声があなたたちに聞こえたならば心をかたくなにしてはならない。あなたたちは、何故永遠の滅亡を招くのか。

ヤコフ6,7,ごらん、あなたたちはいつも神の善い言葉によって養われたのに、悪い実を結んでそのために切り落されて火に投げこまれる禍を招くのは何故であるか。

ヤコフ6,8,ごらん、あなたたちはこの言葉を否定しようとするのか。多くの予言者の言葉を認めようとはしないのか。多くの人々がキリストについて話をしたのに、あなたたちはキリストに関する言葉をみな否定し、キリストの善い言葉と神の能力と聖霊の賜物とを拒み、聖霊の火

ヤコフ6,8-1,自分のために備えてある大きな贖いの計画を侮るのか。

ヤコフ6,9,あなたたちがもしもこの通りにしなければ、キリストの持ちたもう贖いと復活の力のために、おそろしい罪と恥とを受けて神の法廷に立つことになるのを知らないのか。

ヤコフ6,10,正義の要求を拒みことはできないから、正義の力のためにあなたたちはとこしえに煙をあげ消えない焰を吐く燃える硫黄の湖に投げ入れられなくてはならない。この燃える硫黄の湖とは永遠の責苦である。

ヤコフ6,11,それならば、私の愛する兄弟たちよ、悔い改めて狭い門から背離永遠の生命を得るまで狭い道を進め。

ヤコフ6,12,ああ賢くせよ。私はこの上あなたたちに話をすることはない。

ヤコフ6,13,終りに、私は悪人を非常におそれおののかせる神のたのしい法廷であなたたちと共に逢うまで別れを告げる。アーメン。

ヤコフ7,,ヤコブ書 第7章

ヤコフ7,\*-\*,\*シユレムは、キリストを否定し、しるしを示せと言ったために地に倒される。シユレム、自らの罪を告白して死ぬ。改革が始まる。ニューファイ人に対するレーマン人の人の憎悪。ヤコブその息子のイノスに版を伝える。

ヤコブ7,1,さて、これから数年たってからシェレムと言う人がニーファイの民の中へやってきた。

ヤコブ7,2,そして、この男は民の中で説教をし始め、キリストはあるはずがないと言って教え、またキリストの教義をくつがえそうとして人々の気に入るようなことを多く説いた。

ヤコブ7,3,そして一生けんめいに人々の個々をまどわすように努めたから、これがために多くの人が迷わされた。この男は、私ヤコブが将来この世に下りたもうキリストを信じていることを知って、私に逢う機会をひとえに求めている。

ヤコブ7,4,かれは学問があつて民の言葉に全くよく通じていたから、悪魔の力によって上手に人の気に入るようなことを言い、また大そう巧みに話をした。

ヤコブ7,5,私は多くの啓示を受け、またキリストの降臨についていろいろのことを先見している者であるにもかかわらず、シェレムは私を動かして信仰を捨てさせようと思ったけれども、私はすでに確に天使らを見て天使から導きと恩恵とを授けられ、また、たびたび主が御言葉を

ヤコブ7,5-1,言葉を以て私に仰せになる声を歌詞かに聞いていたから、私を動かすことはできなかった。

ヤコブ7,6,ある時シェレムは私の所へやってきて、次のように言った"ヤコブ兄弟よ、私は汝と話をする機会をひとえに求めて居た。私は汝が方々をめぐって、汝の言う福音、もしくはキリストの教義と言う教えを宣べ伝えておられる由を承知しておる。

ヤコブ7,7,このようにして、汝はこの民を多くまどわしたから、民は神の義しい道を曲げてモーセの律法を守らず、かえってモーセの律法を換えて汝の言う何百年が後にくるはずの1人の方を礼拝している。しかしモーセの律法こそ神の義しい道である。ごらん、誰も未来に起るこ

ヤコブ7,7-1,言うことはできないから、1人もこのような事を知ってはいない。従つて私シェレムは、汝の教えは神をけがしていると断言する"と、このようにシェレムは私に反対をした。

ヤコブ7,8,しかしごらん、主なる神は私の心に主なる神の"みたま"を注ぎたもうたので、私はシェレムの言葉をことごとく言い破った。

ヤコブ7,9,私は、かれに"将来降臨したもうはずのキリストを否定するのか"と問うたが、かれは"もしは"もしもキリストが本当にあるならば、私はこれを否定しない。しかし私はキリストと言うものが現在にもなく過去にもなく、またこれからいつまでもないことを知っている

ヤコブ7,9-1,と答えた。

ヤコブ7,10,つづいて私は"聖文を信ずるか"と問うたら、かれは"さよう、聖文は信ずる"と答えた。

ヤコブ7,11,そこで私は"それならば汝は聖文の意味が解っていない。何故ならば、聖文は確にキリストのことを証明しているからである。ごらんよく言うておくが、予言者らは1人もこのキリストと言うお方のことを言わずに書き記したり予言したことはない。

ヤコブ7,12,そればかりでなく、キリストのことは私にも示された。私は見たことも聞いたこともあり、また聖霊の力によって教えて見せてもいただいたから、もしもキリストによる身代りの贖罪がないなら、人類はみな永遠に滅亡してしまわなくてはならないことを知っている"と

ヤコブ7,13,するとシェレムは"そうであるならば、そのように多くのことを汝に教えたその聖霊と言うものの力によって、私にしるしを1つ見せてもらいたい"と言った。

ヤコブ7,14,そこで私はシェレムに"私は汝がすでに真理であると知っているについて、どうしてしるしを汝に見せたまえと云つて神を試みることができようか。汝はこれらのことを真理だと知っていながら、悪魔の仲間になっているから真理を否定する。しかしながら、私の心は

ヤコブ7,14-1,心はどうであつても、ただ神がもし汝をうち破ろうと思つたもうならば、これがすなわち神が天にも地にも権能を持ちたもうことと、を汝に証明するしるしになるのである"と云つて"おお主よ、私の心の通りになれと言うのではなく、みこころのままになしたまえ"と

ヤコブ7,15,私ヤコブがこのように言うと、主の御力がシェレムにはげしく当り、シェレムはそのために地に倒れて長い間介抱を受ける身となった。

ヤコブ7,16,そこでシェレムはどうとう民に"私はもう死ぬから、死ぬ前に民に言つておきたいことがあるので明日寄り集つてくれ"と言つた。

ヤコブ7,17,あくる日、民が多く寄り集つたので、シェレムはこの人たちに自分がこれまでその人たちに教えたことをはっきりと取り消し、キリストの権能と聖霊の能力と、天使が現われて人に導きと恵とを授けることが本当にあるのを認め、

ヤコブ7,18,また、はっきりと自分が悪魔の能力でだまされたことを告白し、地獄と限り無い来世と永遠の罰とについて話をし、

ヤコブ7,19,また、私は神に偽を言つて、聖文には確にキリストについて証明があつたのに、聖文を信じていると言いつつながらキリストを否定したから、赦されないほどの罪を犯したのではないかとおそれている。このように神に向つて

偽を言ったのであるから、私の生涯がおそろし

ヤコブ7,19-1,おそろしいものになりはしないかと、非常におそれて自分から今神にざんげをすと言った。

ヤコブ7,20,そしてこのように言うてしまうと、もう口が利けなくなりとうとう死んだ。

ヤコブ7,21,たくさん寄り集った人々は、シェレムが臨終に当りこのように言ったのを目のあたりに見て非常におどろいたので、神の力がかれらに及び、かれらは力がなくなって地上に倒れた。

ヤコブ7,22,さて、これはまことに私ヤコブにとって嬉しかった。と言うのは、私はかねてこのようになるように天の御父にお願いをして居たが天の御父が私の願いを聞きとどけたもうて私の祈りが答えられたからである。

ヤコブ7,23,それからは平和と神に対する愛とが民の間に回復され、民は聖文をしらべて2度とこの悪人シェレムの言葉に聞き従わなかった。

ヤコブ7,24,さて、私たちはレーマン人を教化して再びこれに真理を覚らせるため多くの工夫をめぐらしたが、レーマン人は戦争と流血とを喜び、その兄弟である私たちについていつまでも消えぬ怨みを抱いていたから、その工夫は何の役にも立たなかった。そして、レーマン人はその兵力

ヤコブ7,24-1,兵力を以てたえず私たちを亡ぼそうとした。

ヤコブ7,25,それであるから、ニーファイの民はその救いの岩である神によりたので、力の限りにその軍勢を以てレーマン人をふさぐために国を固めたから、当時までは敵に打ち勝っていた。

ヤコブ7,26,私ヤコブは、ようやく年をとった。この民の歴史はニーファイのほかの版にのせるから私はこれでこの記録をすることを終り、私の知っているかぎりのことを書き記したことを証明する。人は年月と共に老い、一生の過ぎるのはあたかも1場の夢のようである。私たちは

ヤコブ7,26-1,孤独であって真面目な民でありエルサレムから追い出されて流浪の身となった。荒野で艱難をしている間に私たちは生れたが、兄弟たちに憎まれて戦と不和が起り一生をことごとく嘆き悲しんで送った。

ヤコブ7,27,私ヤコブは、やがて墓に入らなくてはならないことを知っているから、私の息子のイノスにこの版を持つように命じ、また私の兄のニーファイが命じたことをイノスに言い伝えたところ、イノスはこの命令を守ることを約束した。私はこの版に僅しか書きのせなかつたが

ヤコブ7,27-1,筆をおき、私の兄弟たちの多くが私の言葉を読むことができるように望んで読者に別れを告げる。兄弟たちよ、さらば。

イノス1,,イノス書

イノス1,\*-\*,ニーファイ人の記録が、レーマン人に伝えられることに関する主の約束。この2つの民の性格と状態ともろもろの戦争。

イノス1,1,私イノスは、私の父が父の言葉で教え、また主の愛と誠命とを私に教えたから、父が義しい人であることを知っている。かように父に教えを受けたから、私は私の神の御名を讃美する。

イノス1,2,さて、私は自分の罪を赦されようとして、一心不乱に神の御前に祈ったことについてあなたたちに話をしよう。

イノス1,3,ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行つたが、私の父が永遠と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。

イノス1,4,そこで私は自分の心が飢えるのを憶えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は本当に一日中神に祈り、夜になってもまで私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。

イノス1,5,すると1つの声が聞えて"イノスよ、汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受けべし"と仰せになった。

イノス1,6,私イノスは神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれで取り消されたのである。

イノス1,7,しかし私が主よこれはどうしてそうなりますかとたずねたところ、

イノス1,8,主は"それは汝がこれまでに見しことも聞きしこともキリストを信ずるに由る。このキリストは多くの年月を経てはじめて肉体にて現わる。去れば、汝努めよ。汝は己が信仰によりて無罪となれり"と仰せになった。

イノス1,9,私はこの言葉を聞くと、私の兄弟であるニーファイ人の幸福を望む思いが心の中に生じたから、かれらのために全身全霊を傾けて神に祈った。

イノス1,10,私がこのように精神こめて祈っている中に、ごらん、また主の御声が私の心に聞こえて仰せになった"汝の兄弟らがわが命令を守る熱心の多少に従い、われはこれに報いを与うべし。われはすでにこの地をかれらに与えしが、これは聖き地にして罪悪のある故にあらずば

イノス1,10-1,あらずばわれこれをのろわず。されどすでに言いし如く、われは汝の兄弟らに報いを与え、かれらにその罪の責任をとらせて悲しき目に逢わすべし"と、

イノス1,11,この言葉を聞いて私イノスは主を信ずる信仰がいよいよ固くなり、私の兄弟レーマン人のためにたびたび長い間一心不乱に主に祈った。

イノス1,12,私がこのように祈って心の力を尽したから、主は私に“汝の信仰のために、われは汝の願うところを聞きとどくべし”と仰せになった。

イノス1,13,さてごらん、私が主に願ったことは、私の民のニーファイ人が罪に陥り何かして亡びてしまい、またレーマン人が亡びないで生きのこるようなことがあるならば、主なる神がその聖い御手の力で私の民ニーファイ人の歴史を保存したもうて、レーマン人に救いが授かるよ

イノス1,13-1,将来何時がその歴史をレーマン人に伝えたまえと言うことであつた。

イノス1,14,このとき現在、レーマン人を本当の信仰の教えに回復しようとした私たちの努力はめだであつた。レーマン人は怒って、もしできることなら、私たちも私たちの歴史と私たちの先祖の伝説全部もみな亡ぼしてやると誓つた。

イノス1,15,しかし、私たちは主なる神が私たちの歴史を護る力を持ちたまふことを知り、また神が私に“人もし必ず受けると信じ、信仰堅固にキリストの御名によりて願わば、何にてもこれを受くべし”と約束なされたことがあるから、私はたえず神に祈り求めた。

イノス1,16,私はまた信仰をこめて私たちの歴史を護りたまふように神に願つたから、神はそのみこころにかなつた時になつてその歴史をとり出してレーマン人に授けようと私に誓約したもうた。

イノス1,17,そこで私イノスは、神の誓約が必ず本当になることを知つて心が安らかになつた。

イノス1,18,それから主は“汝の先祖たちもまた汝と同じことをわれに祈り求めしが、その求むことはその信仰に応じて成就すべし、かれらの信仰は汝の信仰と同じ”と言いたもうた。

イノス1,19,さて私イノスは、ニーファイの民のなかを廻つて、将来起ることを予言した私の見たり聞いたりしたことを証した。

イノス1,20,私はニーファイの民が、レーマン人がもとのように神を義しく信仰するように尽力したことを証する。しかし、私たちの骨折りはむだであつた。レーマン人の怨みは凝り固まり、自分たちの悪い性質に任せて野蛮猛悪となり、血を見ることの好きな民となり、いたる所邪

イノス1,20-1,祭つて汚らわしさに満ち、野獣の肉を食料として天幕に住み、狭い革帯を腰にまとい頭をそり、このような姿で荒野をさまよつて歩き、その得意とするさざは弓を射、太刀を使い、まさかりを用いることであつた。かれらの中にはまた生肉ばかりを食料とする者が多く

イノス1,20-1-1,どれもみなたえず私たちを亡ぼそうとしていた。

イノス1,21,ところがニーファイの民は土地を耕してもろもろの穀類や果物を造り、多くの羊の群やいろいろな牛の群れを飼ひ、また山羊や野山羊や多くの馬を飼つた。

イノス1,22,私たちの中で働いた予言者は非常に数が多かつたが、民はその心がかたくなで解りが悪かつた。

イノス1,23,それであるから非常にきびしく教えることと、戦争不和滅亡についての説教や予言をすることと、死、永遠の来世、神の裁判および神の能力などをたえずかれらに思い起こさせることと、包みかくさず語ることのほかにかれらが速に亡びるのを止める方法はなかつた。そ

イノス1,23-1,それであるから、このようないろいろな方法でかれらをはげまし常に主をおそれ敬わせたのである。私が、かれらについて書きのせることは以上の通りである。

イノス1,24,私は生涯の中にニーファイ人とレーマン人とが戦つたのを見た。

イノス1,25,私はもう年をとつた。私の先祖のリーハイがエルサレムを去つてから、もう179年たつた。

イノス1,26,私はやがて墓の中へ入らなくてはならないことを覚つたが、この民に説教と予言とをし、またキリストにある真理にかなつて道を宣べ伝えなくてはならないと言うことを神の力を感じて知つたから、生涯その道を教えて伝え俗世の道よりもこの道をたのしみとした。

イノス1,27,私はやがて安息につく場所へ行く、そこは私の贖い主の居たもう所である。私は贖い主によって安息を得ることを知っているから、この死んで無くなるはずの肉体も不死不滅となつて贖い主の御前に立つ日のあることを思つて喜ぶ。その時になると私は贖い主の御顔を仰

イノス1,27-1,贖い主は“さいわいなる者よ、われに來れ。わが父の邸には汝のために備えたる場所あり”と仰せになるのである。アーメン。

ジェ1,,ジェロム書

ジェ1,\*-\*,イノスの息子、ジェロムがこれを記録する。ニーファイ人が主に仕えて榮えること。

ジェ1,1,ごらん、私ジェロムは私の父イノスの命令により私たちの系図を書き継いで伝えるために、ここに少しの言葉を書き記す。

ジェ1,2,これらの版は小さい版であるが、私たちの兄弟であるレーマン人のためを思つて書くのであるから、ここにわずかにばかりであるが書く必要がある。私は自分の予言したいろいろなことも、私の受けたいろいろな啓示も書き記さない。私の先祖がすでに書いた予言や啓示の

ジェ1,2-1,まだ私の書けることがあるだろうか。私の先祖はすでに救いの計画を示したではないか。まことにその通

りであるから私はこれで充分である。

ジェ1,3,ごらん、この民はその性質がかたくなで耳が聞えず心が暗く意地が強いから、その中でカーバいに働く必要がある。それでも神は非常にかれらを憐んで、まだ地上から掃き出しておしまいにはならない。

ジェ1,4,この民の全部がかたくなであるわけではなく、その中に多くの啓示を受ける人も多く居る。そして、かたくなでなくて信仰のある人々はみな信仰に応じて物事を示すお方である聖霊と交ることができる。

ジェ1,5,さて、ごらん、すでに200年過ぎてニーフアイの民はこの土地で強くなった。かれらはモーセの律法を守り、また安息日を書の聖日として守り、神の御名をみだりに口にせず、神を汚すことをしなかった。そして、その国法はきわめて厳重であった。

ジェ1,6,ニーフアイ人も、またレーマン人も地上に広く散在していたが、レーマン人の数はニーフアイ人の数よりもはるかに多く、かれらは生き物を殺すことを好みよく獣の血を飲んだ。

ジェ1,7,そしてたびたび私たちニーフアイ人と戦うために攻めてきたが、私たちの王たちと司たちは主を厚く信ずる人々であって民に主の道を教えていたから、私たちはレーマン人を防いでこれを私たちの国から追いはらい、都市やそのほか私たちが手に入れた所はみな防備を堅

ジェ1,7-1,堅くすることに取っかかった。

ジェ1,8,私たちの民は人口が非常に増してこの土地の方々へひろがって行き、金、銀、貴重な物、木細工、建物、機械、鉄、銅、真鍮、鋼などを豊に持ち、耕作に必要ないろいろな道具や武器すなわち鋭いやじりの矢、えびら、投げ矢、投げ槍などを造って戦の準備を充分にした

ジェ1,9,私たちがこのようにレーマン人に対して防備をしたから、かれらは私たちに対して榮えず。かえって主が私たちの先祖に立てたもうた"汝らわが命令に従わばこの地に榮ゆるべし"と言う誓約が本当に証拠立てられた。

ジェ1,10,主の予言者たちは神の言葉をもってニーフアイの民に警告し、もしもかれらが神の命令を守らないで罪悪を犯すならば地上から亡び失せてしまうぞと言った。

ジェ1,11,それであるから、予言者たちも祭司たちも教師たちもみな熱心に働いて、民に勤勉に働くよう根気強く勧め、モーセの律法とその律法を定めた目的とをこれに教え、またメシヤを待ち望んでちょうどメシヤがすでに来りたもうているかのようにその降臨したもうことを信

ジェ1,11-1,信ぜようと説きすすめた。かれらはみなこのように民に教えたのであった。

ジェ1,12,このように、かれらは民が悔い改めるまで道の言葉をもってたえず民の心を刺激して励ましたから、民がこの地の上から亡び去らないようにすることができた。

ジェ1,13,そして238年経ってが、その間の多くの年月は戦争と不和と紛争のうちに暮れて行った。

ジェ1,14,私ジェレムは、この小さいからこれ以上書き記さない。しかし私兄弟たちよ、あなたたちはニーフアイのほかの版を見るがよい。私たちの戦争の記事は代々の王が自分で書き、または人に書かせた通りその版にのっているからである。

ジェ1,15,私は、私の先祖の命令に従いこの版を保存して代々書き伝えさせるために、この版を私の息子オムナイに渡す。

オムナ1,,オムナイ書

オムナ1,\*-\*,オムナイ、アマーロン、ケミシ、アビナドムおよびアマレカイらの記した記録をのせる。モーサヤ、ニーフアイの地を去ってゼラヘムラと言う土地を発見する。これはエルサレムからきた別の移民が住んだ土地である。モーサヤ、王の位に就けられる。ジェレド人最後の

オムナ1,\*-\*-1,コリアントメル。ベンジャミン王、そのほかの移民について。

オムナ1,1,ごらん、私オムナイは私の父ジェロムの命令により私たちの系図を書き継いで伝えるため、ここに多少の事を書き記す。

オムナ1,2,従って、私はあなたたちに知らせたいことがある。私は自分の民のニーフアイ人がその敵のレーマン人の手に落ちないように生涯剣をとってよく戦い私の民を護った。しかしながら、私自身は悪い人間であって当然守らなければならないほど主の律法と命令とを守らな

オムナ1,3,そして、すでに276年経ったが、その間、たびたび平和な時節にも逢い、またたびたび激しい戦争と血なまぐさい時節にも逢った。手っとり早く言えば、すでに282年経ったが私は先祖の命令に従って本版を書き継ぎこれを私の息子のアマーロンにゆずり渡した。私

オムナ1,3-1,これで終る。

オムナ1,4,私アマーロンは、今私が書くことを私の父の書に書き入れる。私が書くことは少しだけである。

オムナ1,5,ごらん、320年経ってニーフアイ人の中の一きわ悪い者たちは亡びてしまった。

オムナ1,6,なぜならば、主はニーフアイ人をエルサレムの地からつれ出し、敵の手に落ちないようにこれを守りたもうたから、主が私たちの全ぞと誓いたもうた"汝らわが命令を守らばこの地に榮ゆるばからず"と言う言葉が成就しないことをお許しにならなかった。

オムナ1,7,それで主はかれらに大きな裁きを下したもうた。しかし、義しい者たちの命は助けてこれを敵の手から救いたもうた。

オムナ1,8,これで私はこの版を私の兄弟ケミシに渡した。

オムナ1,9,私ケミシは自分で記す僅な言葉を私の兄弟と同じ書に書き記す。私は兄弟が1番終りに書いた言葉を見たが、その言葉はかれが私に版をゆずったその日に自分で顚田言葉である。このようにして私たちは記録を書き継ぐ。それは私たちの先祖の命令にかなうからである。

オムナ1,9-1,それで私の記録は終りである。

オムナ1,10,ごらん、私アビナドムはケミシの子である。私は、私の民のニーファイ人とレーマン人との間に戦争や不和が多いのを見、私の民を守ために自分の剣をもって多くのレーマン人を殺した。

オムナ1,11,この民の歴史は歴代の王たちが持っている版に刻んである。私はすでに書き誌してある啓示や予言のほかには、何1つこれらを知らないから、すでに書き誌してあることで充分である。これで私の記録は終る。

オムナ1,12,ごらん、私はアマレカイと言ってアビナドムの子である。私はゼラヘムラ国の王位に就けられたモーサヤについて多少話をするつもりである。モーサヤはニーファイの地から逃げ出せと言うことと、主の勧めに聞き従う者は皆モーサヤと一しょにニーファイの地を立ちの

オムナ1,12-1,荒野へ行けと言うこととを主から警告されていた。

オムナ1,13,それであるから、モーサヤは主の警告に従ってニーファイの地を逃げ出し、また主の勧めに聞き従う者も皆ニーファイの地を立ちのいて荒野へ行き、多くの説教と予言とによって教えと導きとを受け、神の言葉によってたえず訓戒せられ、神の力に導かれて荒野を過ぎつ

オムナ1,13-1,ゼラヘムラと言う土地へ着いたが、

オムナ1,14,そこでゼラヘムラの民と呼ぶ民を見出した。その時ゼラヘムラの民は非常に喜び、ゼラヘムラの民は非常に喜び、ゼラヘムラ自身もまた主がモーサヤの民にユダヤ人の歴史をのせた真鍮版を持ってこさせたもうたのでひとかたならず喜んだ。

オムナ1,15,モーサヤがこの民のことを調べたところ、このゼラヘムラの民はユダヤの王ゼデキヤがとりことなってバビロンへつれて行かれた時にエルサレムを出てきた民であることが解った。

オムナ1,16,そしてこの民は荒野の旅をし、主の御手により大海を渡ってモーサヤが今かれらを見つけた土地へやってきて、その時からずっと住みついているのであった。

オムナ1,17,そして、モーサヤが見つけた時には、その民の人数も非常に多くなっていた。しかし、その前に多くの戦争と激しい不和とがあつて、民が剣によって倒れたこともたびたびであった。その上、その民の言葉はなまり言葉になつてしまい、何の記録も持ってきていず、また

オムナ1,17-1,その造り主のましますことも信じなかった。それでその民の言葉はモーサヤにもまたモーサヤの民にも解らなかつた。

オムナ1,18,ところが、モーサヤはゼラヘムラの民に自分の言葉を教えさせた。そしてモーサヤの言葉を民が学んでから、ゼラヘムラは自分の覚えているかぎりその先祖の系図を述べた。その系図は書き留めてあるけれども、この版にはのせない。

オムナ1,19,さて、ゼラヘムラの民とモーサヤの民とは合併してモーサヤはその王と定められた。

オムナ1,20,モーサヤ王の代に、文字を刻んだ大きな石が1つモーサヤの所に持ってこられたが、かれは神の賜物によってその文字を解釈した。

オムナ1,21,この石にはコリアントメルと言う人と、その民の中で殺された物たちの次席が刻んであつた。このコリアントメルはゼラヘムラの民に見出されて9ヶ月の間民と一しょに住んでいた。

オムナ1,22,またコリアントメルの先祖に関することも少々刻んであつた。コリアントメルの先祖は主がその民の言葉を乱したもうた時にバベルの塔の所から出てきたけれども、主の義しい裁判によってそのきびしい裁きを受け今はここから北の方にある土地にその骨が散りぢりにな

オムナ1,23,ごらん、私アマレカイはモーサヤの代に生れた者であつて、モーサヤの死を見、今もお生き永らえている。モーサヤの死んだ後はその息子のベンジャミンが父の後をついで国を治めている。

オムナ1,24,ベンジャミン王の世に、私はニーファイ人とレーマン人とが1度激しい戦をして多くの血を流したのを見たことがある。しかし、ニーファイ人が大勝利を得たから、ベンジャミン王はゼラヘムラの地からレーマン人を追い出すことができた。

オムナ1,25,私は年よりになつてきたが子供がなり、またベンジャミン王が主の前に義しい人であることを知っているからこの版をかれに譲り伝える。また私はあらゆる人に勧める。イスラエルの聖者である神に立ち帰り、予言と啓示と天使が人に導きと恵みとを授けるとと、異語を

オムナ1,25-1,解釈する賜物とそのほか一切の善いことを信ぜよ。主から出るものはことごとく善であり、悪魔から出るものはみな悪である。

オムナ1,26,さて、私の愛する兄弟たちよ、私の望むのはあなたたちがイスラエルの聖者であるキリストのもとにきて、キリストの与えたもう救いと贖いの能力とを受けることである。まことに、キリストのもとへきてあなたの全身前例を捧物としてキリストに捧げ、断食と祈りとを

オムナ1,26-1,常に怠らず、終りまで堪え忍べ、そうすれば、あなたたちの救われることは主が生きていますように確である。

オムナ1,27,さて、私はニーファイの地へ帰ろうとして荒野へ出て行った幾人かの者について少々述べようと思う。つまり、自分の居た土地にまた住みたいと思った者たちの数は多かった。

オムナ1,28,従って、これらの人々は荒野へ出て行ったが、その頭領が力も勢いも強い男でその上強情であったから、仲間の間に不和を起し、そのために50人のほかみな荒野の中で殺され、この50人はまたゼラヘムラの地へ引き返してきた。

オムナ1,29,しかし、これらの人々は、またほかの人々を大勢つれて荒野へ旅立って行った。

オムナ1,30,私アマレカイにはこれらの人々と一しょに行った1人の兄弟があるが、今なおそれらの人々の消息はわからない。私は今や墓に入ろうとしている。この版はすでにいっぱい書きつくされて余す所がないから、これで私の言うことを終りにする。

ゲン1,,モルモン言

ゲン1,\*-\*,モルモンの抄録とニーファイの小版。モルモン経の先の部分とそれに続く後の部分との関係。

ゲン1,1,さて、私モルモンはこれまで自分が造ってきた記録を今息子のモロナイに譲り渡そうとしている。私はすでに私の民のニーファイ人がほとんど皆亡びてしまうのを見た。

ゲン1,2,キリストが生れたもうてから数100年たった今、私はこの記録を自分の息子に譲り渡す。私が思うに私の息子モロナイは、私の民が全部亡びてしまうのを見るのでb◆◆、。しかしながら、願わくは私の息子のモロナイがニーファイ人とキリストとについて多少の事を・

ゲン1,2-1,書き記すために、かれを生き永らえさせて下さるよう神に祈り奉る。モロナイの隠ことはいつかニーファイ人の子孫のためになるかも知れない。

ゲン1,3,さて、私は自分の記録したことについて少々話をする。私はニーファイの版を短く書きまとめて、アマレカイの言ったベンジャミン王の代に至るまでのことを買い手しまってから、かねて私に伝えられていたいろいろな記録のなかを探って見たところ、ヤコブの時代から

ゲン1,3-1,ベンジャミン王の代に至るまでに現われた予言者たちが著したこの短い記事がのっており、またニーファイの言葉が多くこの版を見つけた。

ゲン1,4,この版に買い手あることの中にはキリストが生れたもうことについての予言があるので私は喜ばしい。私の先祖はこの予言の多くがすでに成就したことを知っていたが、私もまた今日までの私たちについての予言がみな成就していることと、将来についての予言もみな成

ゲン1,4-1,ことを知っている。

ゲン1,5,それであるから、私はこの版を選んで私の作る記録の終りにつけ、私の記録の残りの部分はニーファイの版から抜いて書こう。私の民の事跡はその100分の1さえも隠ことがむづかしい。

ゲン1,6,しかし、私が見つけた予言と啓示とをのせた版は私の記録の残りの部分につけ加えよう。これは私にとって貴いものであって、また私の兄弟たちにも貴いものになることをみな知っているからである。

ゲン1,7,私は懸命な目的があつてこのようにする。それは私の中にある主の“みたま”が働いて私にそうせよとさきやきたもうからである。私は何でもみな知っているわけではないが、主は将来起ることをことごとく知たもうから私にそのみこころを行わせたもうのである。

ゲン1,8,私の兄弟たちがまた再び神を知り、キリストの贖いを知ってまた再び喜ばれる人となるように私は兄弟たちのため神に祈る。

ゲン1,9,さて、私モルモンは私がニーファイの版から抜き書きをして作る私の記録をつづけて書き終わう。この記録は神が私に授けたもうた知識と理解力とによって作るのである。

ゲン1,10,アマレカイがこの版をベンジャミン王に譲り渡してから、ベンジャミン王はこれを受けとって自分の代々諸々の王が書き伝えてきた記録がのっているほかの版につけ加えた。

ゲン1,11,これはベンジャミン王以来代々伝えられてついに私の手に入った。私モルモンはこの版がこれから後も保存されるように神に祈る。この版には大切なことが書いてあるから、このことによって私の民とその兄弟たちは書き記してある神の言葉のように大いなる終りの日に

ゲン1,11-1,裁判を受けるのであるから、私はこの版が必ず保存されることを知っている。

ゲン1,12,さてベンジャミン王のことを話すと、王の時にその民の中に多少の不和があつた。

ゲン1,13,またレーマン人の軍勢はベンジャミン王の民と戦うためにニーファイの地から攻めてきたが、ごらん、ベンジャミン王は自分の軍勢を召集してレーマン人を迎え撃ち、自分の腕の力をふるいレーマンの剣をもって戦った。

ゲン1,14,このようにしてベンジャミン王の軍は主の御力によって敵と戦、ついに数1000人のレーマン人を殺し、一切の領地からレーマン人を追い払うまでこれと戦つづけた。

ゲン1,15,まともろの偽キリストが現われたが、説き破られてその罪の罰を受け、

ゲン1,16,もろもろの偽予言者、偽教師、偽説教者が民の中に現われたが、それぞれ罪に応ずる罰を受けた。また多くの背いてレーマン人の仲間になったが、このようにいろいろなことがあってから、ベンジャミン王は民の中にある聖い予言者たちの助けを得た。

ゲン1,17,すなわち、ベンジャミン王は聖い人であったから義を以てその民を治め、またその当時国中には聖い人が大勢いて権能と威勢とを以て神の言葉を宣べ伝え、民がかたくなであったから非常にきびしくした。

ゲン1,18,従って、ベンジャミン王は以上のように助けを得て、予言者もろ共その身体力と全身全霊の力をつくして努力をしたによって、その国の平和はもう1度しっかりと定まった。